令和５年度

シラバス

看護学部 看護学科

学校法人 松本学園

松本看護大学

看護学部看護学科　教育課程表
［看護師課程］

区分		No.	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
教養科目	コミュニケーション関連科目	1	英語Ⅰ	1前	2		15	講義	必修科目3単位＋選択科目3単位以上
		2	英語Ⅱ	2前		2	15	講義	
		3	中国語	2前		2	15	講義	
		4	人間関係論	1前	1		15	講義	
		5	カウンセリング理論	1後		1	15	講義	
		6	コミュニケーション支援論	1後		1	15	講義	
	科学的思考関連科目	7	情報リテラシー	1前		1	15	講義	必修科目1単位＋選択科目5単位以上
		8	情報科学	1後	1		15	講義	
		9	科学論	1前		1	15	講義	
		10	社会学	1前		1	15	講義	
		11	生物学	1前		2	15	講義	
		12	日本国憲法	1前		2	15	講義	
		13	比較文化論	1前		1	15	講義	
		14	環境学	1前		1	15	講義	
		15	教育学	1前		1	15	講義	
	人間と生活・社会の理解関連科目	16	生命倫理	1前	1		15	講義	必修科目4単位＋選択科目3単位以上
		17	法と人権	1後	1		15	講義	
		18	家庭支援論	1後		1	15	講義	
		19	臨床心理学	1前	1		15	講義	
		20	国際理解入門	1後		1	15	講義	
		21	ボランティア論	1後		1	15	講義	
		22	音楽療法	1後		1	15	講義	
		23	松本の歴史と文化	1後		1	15	講義	
		24	健康とスポーツ	1前		1	15	講義	
		25	体育実技	1前	1		30	演習	
	教養科目 小計(25科目)				8	22	—	—	19単位以上
連携科目	智の創造関連科目	26	教養ゼミナール	1前	1		30	演習	必修科目5単位＋選択科目1単位以上
		27	連携ゼミナールⅠ	2前	1		30	演習	
		28	連携ゼミナールⅡ	3前	1		30	演習	
		29	研究入門	1後	1		15	講義	
		30	研究方法論	2後	1		15	講義	
		31	言語と表現	1前		1	15	講義	
		32	キャリア形成論	4後		1	15	講義	
	連携科目 小計(7科目)				5	2	—	—	6単位以上
専門基礎科目	人体構造と機能	33	形態機能学Ⅰ	1前	2		15	講義	必修科目23単位＋選択科目2単位以上
		34	形態機能学Ⅱ	1後	2		15	講義	
		35	形態機能学Ⅲ	1後	1		30	演習	
		36	生化学	1後	2		15	講義	
		37	臨床栄養学	2前	1		15	講義	
	疾病の成り立ちと回復の促進	38	臨床薬理学	2後	2		15	講義	
		39	病態治療学Ⅰ	1後	2		15	講義	
		40	病態治療学Ⅱ	2前	2		15	講義	
		41	感染症学	2前	2		15	講義	
		42	感染看護学	2後		1	15	講義	
		43	看護とリハビリテーション	1後	1		15	講義	
	健康支援と保健医療システム	44	疫学	2後	2		15	講義	
		45	公衆衛生学	1後	1		15	講義	
		46	保健・医療・福祉行政論	3前		2	15	講義	
		47	社会保障制度	1後	1		15	講義	
		48	衛生関係法規	2後	1		15	講義	
		49	保健統計学Ⅰ	2前	1		15	講義	
		50	保健統計学Ⅱ	2後		1	15	講義	
		51	看護援助的関係論	1後		1	15	講義	
	連携科目 小計(19科目)				23	5	—	—	25単位以上
専門科目	看護の基礎	52	看護学概論	1前	2		15	講義	
		53	基礎看護技術Ⅰ	1前	2		30	演習	
		54	基礎看護技術Ⅱ	1後	2		30	演習	
		55	基礎看護技術Ⅲ	2前	1		15	講義	
		56	ヘルスアセスメント	1後	2		30	演習	
		57	看護過程展開論	2前	1		30	演習	
		58	看護倫理学	2後	1		15	講義	
		59	地域・在宅看護学概論	2前	2		15	講義	
		60	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		61	地域・在宅看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		62	地域包括ケア論	1後	1		15	講義	
		63	家族看護学	3前	1		15	講義	

看護学部看護学科　教育課程表

［看護師課程］

区分		No.	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
	看護の実践	64	成人看護学概論	2前	2		15	講義	必修科目70単位 ＋ 選択科目10単位以上 ＊ただし、選択科目には 「救急看護学実習＋災害看護学実習」 「多職種連携実習」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」 のいずれか2単位を含む
		65	成人急性期看護論	3前	2		30	演習	
		66	成人慢性期看護論	2後	2		30	演習	
		67	緩和ケア論	2後		1	15	講義	
		68	老年看護学概論	2前	2		15	講義	
		69	老年症候群援助論	2後	1		15	講義	
		70	老年看護援助論	3前	1		30	演習	
		71	認知症ケア論	2後		1	15	講義	
		72	小児看護学概論	2前	2		15	講義	
		73	小児看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		74	小児看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		75	小児発達学	2後		1	15	講義	
		76	母性看護学概論	2前	2		15	講義	
		77	母性看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		78	母性看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		79	地域母子保健学	2後		1	15	講義	
		80	精神看護学概論	2前	2		15	講義	
		81	精神看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		82	精神看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		83	地域精神保健学	2後		1	15	講義	
	看護の発展と統合	84	救急看護学	3前		2	15	講義	
		85	災害看護学	3前		2	15	講義	
		86	地域医療連携システム論	2後		1	15	講義	
		87	在宅生活支援論	3前	1		15	講義	
		88	公衆衛生看護学概論	2前	2		15	講義	
		89	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15	講義	
		90	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		1	15	講義	
		91	健康支援論	2前	1		15	講義	
		92	公衆衛生看護管理論	4前		1	15	講義	
		93	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3前		2	15	講義	
		94	公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前		2	15	講義	
		95	公衆衛生看護方法論Ⅲ	4前		2	30	演習	
		96	ターミナル看護	4後	1		15	講義	
		97	ヘルスカウンセリング	4後		1	15	講義	
		98	看護マネジメント論	4前	1		15	講義	
		99	卒業研究	4通	2		30	演習	
	看護の実践（臨地実習）	100	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45	実習	
		101	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45	実習	
		102	地域・在宅看護学実習	3通	3		45	実習	
		103	成人急性期看護学実習	3通	2		45	実習	
		104	成人慢性期看護学実習	3通	4		45	実習	
		105	老年看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
		106	老年看護学実習Ⅱ	3通	2		45	実習	
		107	小児看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
		108	小児看護学実習Ⅱ	3通	1		45	実習	
		109	母性看護学実習	3通	2		45	実習	
		110	精神看護学実習	3通	2		45	実習	
		111	救急看護学実習	4前		1	45	実習	
		112	災害看護学実習	4前		1	45	実習	
		113	多職種連携実習	4前		2	45	実習	
		114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		2	45	実習	
		115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		1	45	実習	
		116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	4前		1	45	実習	
		117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	4後		1	45	実習	
		118	統合実習	4前	2		45	実習	
	専門科目　小計（67科目）				70	30	—	—	80単位以上
合計（118科目）					106	59	—	—	130単位以上

＜卒業要件及び履修方法＞

1. 教養科目　（1）コミュニケーション関連科目　必修科目3単位を含む6単位以上
　（2）科学的思考関連科目　必修科目1単位を含む6単位以上
　（3）人間と生活・社会の理解関連科目　必修科目4単位を含む7単位以上
2. 連携科目　必修科目5単位を含む6単位以上
3. 専門基礎科目　必修科目23単位を含む25単位以上
4. 専門科目　下記の（1）及び（2）を条件を充たす80単位以上
　（1）必修科目70単位以上
　（2）選択科目10単位以上（「救急看護学実習＋災害看護学実習」「多職種連携実習」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」のいずれか2単位を含めること。

＜履修科目の登録上限＞

・年間49単位

看護学部看護学科　教育課程表
［保健師課程］

区分		No.	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
教養科目	コミュニケーション関連科目	1	英語Ⅰ	1前	2		15	講義	必修科目3単位＋選択科目3単位以上
		2	英語Ⅱ	2前		2	15	講義	
		3	中国語	2前		2	15	講義	
		4	人間関係論	1前	1		15	講義	
		5	カウンセリング理論	1後		1	15	講義	
		6	コミュニケーション支援論	1後		1	15	講義	
	科学的思考関連科目	7	情報リテラシー	1前	1		15	講義	必修科目4単位＋選択科目2単位以上
		8	情報科学	1後	1		15	講義	
		9	科学論	1前		1	15	講義	
		10	社会学	1前		1	15	講義	
		11	生物学	1前		2	15	講義	
		12	日本国憲法	1前	2		15	講義	
		13	比較文化論	1前		1	15	講義	
		14	環境学	1前		1	15	講義	
		15	教育学	1前		1	15	講義	
	人間と生活・社会の理解関連科目	16	生命倫理	1前	1		15	講義	必修科目5単位＋選択科目2単位以上
		17	法と人権	1後	1		15	講義	
		18	家庭支援論	1後		1	15	講義	
		19	臨床心理学	1前	1		15	講義	
		20	国際理解入門	1後		1	15	講義	
		21	ボランティア論	1後		1	15	講義	
		22	音楽療法	1後		1	15	講義	
		23	松本の歴史と文化	1後		1	15	講義	
		24	健康とスポーツ	1前	1		15	講義	
		25	体育実技	1前	1		30	演習	
	教養科目		小計（25科目）		12	18	—	—	19単位以上
連携科目	智の創造関連科目	26	教養ゼミナール	1前	1		30	演習	必修科目5単位＋選択科目1単位以上
		27	連携ゼミナールⅠ	2前	1		30	演習	
		28	連携ゼミナールⅡ	3前	1		30	演習	
		29	研究入門	1後	1		15	講義	
		30	研究方法論	2後	1		15	講義	
		31	言語と表現	1前		1	15	講義	
		32	キャリア形成論	4後		1	15	講義	
	連携科目		小計（7科目）		5	2	—	—	6単位以上
専門基礎科目	人体構造と機能	33	形態機能学Ⅰ	1前	2		15	講義	必修科目26単位
		34	形態機能学Ⅱ	1後	2		15	講義	
		35	形態機能学Ⅲ	1後	1		30	演習	
		36	生化学	1後	2		15	講義	
		37	臨床栄養学	2前	1		15	講義	
	疾病の成り立ちと回復の促進	38	臨床薬理学	2後	2		15	講義	
		39	病態治療学Ⅰ	1後	2		15	講義	
		40	病態治療学Ⅱ	2前	2		15	講義	
		41	感染症学	2前	2		15	講義	
		42	感染看護学	2後		1	15	講義	
		43	看護とリハビリテーション	1後	1		15	講義	
	健康支援と保健医療システム	44	疫学	2後	2		15	講義	
		45	公衆衛生学	1後	1		15	講義	
		46	保健・医療・福祉行政論	3前	2		15	講義	
		47	社会保障制度	1後	1		15	講義	
		48	衛生関係法規	2後	1		15	講義	
		49	保健統計学Ⅰ	2前	1		15	講義	
		50	保健統計学Ⅱ	2後	1		15	講義	
		51	看護援助的関係論	1後		1	15	講義	
	連携科目		小計（19科目）		26	2	—	—	26単位以上
専門科目	看護の基礎	52	看護学概論	1前	2		15	講義	
		53	基礎看護技術Ⅰ	1前	2		30	演習	
		54	基礎看護技術Ⅱ	1後	2		30	演習	
		55	基礎看護技術Ⅲ	2前	1		15	講義	
		56	ヘルスアセスメント	1後	2		30	演習	
		57	看護過程展開論	2前	1		30	演習	
		58	看護倫理学	2後	1		15	講義	
		59	地域・在宅看護学概論	2前	2		15	講義	
		60	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		61	地域・在宅看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		62	地域包括ケア論	1後	1		15	講義	
		63	家族看護学	3前	1		15	講義	

看護学部看護学科　教育課程表

［保健師課程］

区分		No.	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
	看護の実践	64	成人看護学概論	2前	2		15	講義	必修科目85単位
		65	成人急性期看護論	3前	2		30	演習	
		66	成人慢性期看護論	2後	2		30	演習	
		67	緩和ケア論	2後		1	15	講義	
		68	老年看護学概論	2前	2		15	講義	
		69	老年症候群援助論	2後	1		15	講義	
		70	老年看護援助論	3前	1		30	演習	
		71	認知症ケア論	2後		1	15	講義	
		72	小児看護学概論	2前	2		15	講義	
		73	小児看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		74	小児看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		75	小児発達学	2後		1	15	講義	
		76	母性看護学概論	2前	2		15	講義	
		77	母性看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		78	母性看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		79	地域母子保健学	2後		1	15	講義	
		80	精神看護学概論	2前	2		15	講義	
		81	精神看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
		82	精神看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
		83	地域精神保健学	2後		1	15	講義	
	看護の発展と統合	84	救急看護学	3前		2	15	講義	
		85	災害看護学	3前		2	15	講義	
		86	地域医療連携システム論	2後		1	15	講義	
		87	在宅生活支援論	3前	1		15	講義	
		88	公衆衛生看護学概論	2前	2		15	講義	
		89	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後	2		15	講義	
		90	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後	1		15	講義	
		91	健康支援論	2前	1		15	講義	
		92	公衆衛生看護管理論	4前	1		15	講義	
		93	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3前	2		15	講義	
		94	公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前	2		15	講義	
		95	公衆衛生看護方法論Ⅲ	4前	2		30	演習	
		96	ターミナル看護	4後	1		15	講義	
		97	ヘルスカウンセリング	4後		1	15	講義	
		98	看護マネジメント論	4前	1		15	講義	
		99	卒業研究	4通	2		30	演習	
	看護の実践（臨地実習）	100	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45	実習	
		101	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45	実習	
		102	地域・在宅看護学実習	3通	3		45	実習	
		103	成人急性期看護学実習	3通	2		45	実習	
		104	成人慢性期看護学実習	3通	4		45	実習	
		105	老年看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
		106	老年看護学実習Ⅱ	3通	2		45	実習	
		107	小児看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
		108	小児看護学実習Ⅱ	3通	1		45	実習	
		109	母性看護学実習	3通	2		45	実習	
		110	精神看護学実習	3通	2		45	実習	
		111	救急看護学実習	4前		1	45	実習	
		112	災害看護学実習	4前		1	45	実習	
		113	多職種連携実習	4前		2	45	実習	
		114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	2		45	実習	
		115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前	1		45	実習	
		116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	4前	1		45	実習	
		117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	4後	1		45	実習	
		118	統合実習	4前	2		45	実習	
	専門科目　小計（67科目）				85	15	—	—	85単位以上
合計（118科目）					128	37	—	—	136単位以上

＜卒業要件及び履修方法＞

1. 教養科目　（1）コミュニケーション関連科目　必修科目3単位を含む6単位以上
　（2）科学的思考関連科目　必修科目4単位を含む6単位以上
　（3）人間と生活・社会の理解関連科目　必修科目5単位を含む7単位以上
2. 連携科目　必修科目5単位を含む6単位以上
3. 専門基礎科目　必修科目26単位
4. 専門科目　必修科目85単位

＜履修科目の登録上限＞

・年間49単位

シラバス 目次

1. 英語Ⅰ（基礎）
2. 英語Ⅱ（コミュニケーション）
3. 中国語
4. 人間関係論
5. カウンセリング理論
6. コミュニケーション支援論
7. 情報リテラシー
8. 情報科学
9. 科学論
10. 社会学
11. 生物学
12. 日本国憲法
13. 比較文化論
14. 環境学
15. 教育学
16. 生命倫理
17. 法と人権
18. 家庭支援論
19. 臨床心理学
20. 国際理解入門
21. ボランティア論
22. 音楽療法
23. 松本の歴史と文化
24. 健康とスポーツ
25. 体育実技
26. 教養ゼミナール（初年次教育）
27. 連携ゼミナールⅠ（キャリアデザイン）
28. 連携ゼミナールⅡ（卒業研究の基礎）
29. 研究入門
30. 研究方法論
31. 言語と表現
32. キャリア形成論
33. 形態機能学Ⅰ（細胞組織・骨筋系・神経系）
34. 形態機能学Ⅱ（呼吸・循環・消化器・泌尿器系）
35. 形態機能学Ⅲ（内分泌・免疫・生殖・感覚器系）
36. 生化学
37. 臨床栄養学
38. 臨床薬理学
39. 病態治療学Ⅰ（循環器、消化器、脳神経系）
40. 病態治療学Ⅱ（呼吸器、骨筋、腎泌尿器、内分泌、生殖器系）
41. 感染症学
42. 感染看護学
43. 看護とリハビリテーション
44. 疫学
45. 公衆衛生学
46. 保健・医療・福祉行政論
47. 社会保障制度
48. 衛生関係法規
49. 保健統計学Ⅰ（基礎）
50. 保健統計学Ⅱ（応用）
51. 看護援助的関係論
52. 看護学概論
53. 基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助技術）
54. 基礎看護技術Ⅱ（診療の補助技術）
55. 基礎看護技術Ⅲ（看護過程と看護理論）
56. ヘルスアセスメント
57. 看護過程展開論
58. 看護倫理学
59. 地域・在宅看護学概論
60. 地域・在宅看護援助論Ⅰ（援助方法論）
61. 地域・在宅看護援助論Ⅱ（援助の実際）
62. 地域包括ケア論
63. 家族看護学
64. 成人看護学概論
65. 成人急性期看護論
66. 成人慢性期看護論
67. 緩和ケア論
68. 老年看護学概論
69. 老年症候群援助論
70. 老年看護援助論
71. 認知症ケア論
72. 小児看護学概論
73. 小児看護援助論Ⅰ（健康障害と看護）
74. 小児看護援助論Ⅱ（看護技術と看護過程）
75. 小児発達学
76. 母性看護学概論
77. 母性看護援助論Ⅰ（対象の理解と援助）
78. 母性看護援助論Ⅱ（看護の展開とその理論）
79. 地域母子保健学
80. 精神看護学概論
81. 精神看護援助論Ⅰ（対象理解）
82. 精神看護援助論Ⅱ（看護の展開）
83. 地域精神保健学
84. 救急看護学
85. 災害看護学
86. 地域医療連携システム論
87. 在宅生活支援論
88. 公衆衛生看護学概論
89. 公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別支援）
90. 公衆衛生看護活動論Ⅱ（産業・学校）
91. 健康支援論
92. 公衆衛生看護管理論
93. 公衆衛生看護方法論Ⅰ（訪問・相談）
94. 公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域診断）
95. 公衆衛生看護方法論Ⅲ（技術演習）
96. ターミナル看護
97. ヘルスカウンセリング
98. 看護マネジメント論
99. 卒業研究
100. 基礎看護学実習Ⅰ
101. 基礎看護学実習Ⅱ
102. 地域・在宅看護学実習
103. 成人急性期看護学実習
104. 成人慢性期看護学実習
105. 老年看護学実習Ⅰ
106. 老年看護学実習Ⅱ
107. 小児看護学実習Ⅰ
108. 小児看護学実習Ⅱ
109. 母性看護学実習
110. 精神看護学実習
111. 救急看護学実習
112. 災害看護学実習
113. 多職種連携実習
114. 公衆衛生看護学実習Ⅰ
115. 公衆衛生看護学実習Ⅱ
116. 公衆衛生看護学実習Ⅲ
117. 公衆衛生看護学実習Ⅳ
118. 統合実習

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
1	英語Ⅰ(基礎)	2	30	必修	講義	1年前期	漆戸敏夫

科目概要	将来看護師として働くために必要な英語でのコミュニケーションの基礎力を身につけることを目標とする。特にリーディングとライティングに重点を置いて授業を進める。リーディングでは、英文の構造を理解し、大意をつかむ力をつけていく。ライティングでは、パラグラフの構成を理解し、自分の考えを簡潔で分かりやすい英文で表現できる力を培っていく。
到達目標	1. 日常の中で外来受診時や医療現場でのその場にふさわしい基礎的な英語を用いたコミュニケーションができる。 2. 各ユニットにおいて患者との対話のリスニング、ロールプレイ等で使用頻度の高い病名・症状名や診療科名、臓器名称等の初歩段階の医療英語がわかる。 3. 患者とのやり取りで必要になる表現や用語を身につけることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	40 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	ユニットのはじめに書かれた看護師としての心構えを読み、学習するユニット全体の流れを見渡しておく。
事後学習	学んだ内容から自分が覚えたい医療専門用語や表現をリストアップしいつでも見られるようにして、必ず声に出して音声とともに記憶し使える医療英語を増やす。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	講義のオリエンテーション Unit 1 Power of Language	・講義全体の見通しを持つ ・大岡信の言葉の力と日野原先生のメッセージ文を読みとり主体的学習の動機づけとする。	漆戸
2	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう	・診療科の名称を知り、患者の症状を会話から聞き取って、かけるのに相応しい励ましの言葉を考える。 ・ペアで役割を交代して対話をする。	漆戸
3	Unit 3 How may I help you? どうなさいましたか	・体の名称を知り、初診の患者から聞き出す表現をペアで役割を交代して対話する。 ・ある看護師のマザーテレサとの出会いを述べた文の概要を読み取る。	漆戸
4	Unit 4 How are you feeling? 気分をきいてみましょう	・臓器の名称を知り、患者の気分と症状を会話から聞き取り、役割を交代して対話する。 ・アメリカ国立がん研究所が発行している患者向けのパンフレットの一部を読み取る。	漆戸
5	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか	・内科・消化器科・循環器科の病名を知り、患者の病歴の対話を聞き取り役割交代して対話する。 ・自分が入院した先で見た白髪交じりの看護師から聞いたプロとしての心得の概要を読み取る。	漆戸
6	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう	・精神科・小児科・外科・整形外科・耳鼻科その他の病名を知り、病院内の案内を役割交代して対話する。 ・アメリカの看護師向け学術誌のある記事の概要を読み取る。	漆戸
7	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう　頭部	・頭部の症状表現を知り、症状を尋ねる対話の役割を交代して話してみる。 ・入院先で出会った幾人もの看護師たちがどう患者に接していたかについて読み取る。	漆戸
8	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう　肩から下	・肩から下の症状表現を知り、患者への適切な説明や指示を聞き取り交代で役割対話する。 ・神経科医の体験を元にした「レナードの朝」という映画の概要を読みとり医療・看護・人生について考える。	漆戸
9	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう	・全体症状の名称を知り、症状の持続時間などの尋ね方を含む対話を役割交代で行う。 ・アニマルセラピーの治療効果の概要を読み取る。	漆戸
10	Unit10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう	・検査や処置の名称を知り、説明の仕方を聞き取ったり、役割交代の対話をする。 ・夜間勤務と体内リズムの関係を述べた文の概要を読み取る。	漆戸
11	Unit11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう	・専門用語の解読方法を知り、バイタルサイン測定の際に使う表現で役割交代の対話をする。 ・A smart doctor のあるべき姿について書かれた英文の概要を読み取る。	漆戸
12	Unit12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう	・手術前後の説明を含む対話を役割交代で行う。 ・看護プロとして重要な"The Art of Saying Yes"の姿勢について述べた文の概要を読み取る。	漆戸
13	Unit13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう	・薬の簡単な説明表現を知り、それを含む対話を役割交代でする。 ・ナイジェリアの病院での看護実習生の体験談からプロの看護師としてのあり方を読み取る。	漆戸
14	Unit14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう	・専門用語の接尾辞等について知り、異文化理解を含む対話を役割交代でする。 ・国境なき医師団経験者の日本人看護師からのメッセージ文の概要を読み取る。	漆戸
15	Unit15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう	・カルテなどで使われる略語を知り、退院時の対話を役割交代でする。 ・総復習	漆戸
16	定期試験	試験(リスニング・筆記)	漆戸

テキスト	参考書
・井上真紀、佐藤利哉著 『LIFESAVER』 ナショナルジオグラフィックラーニング	・英和辞書または英英辞書

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
中等教育での英語科指導の経験を持つ教員が、日常生活や医療現場で必要とされる基礎的英語による実践的なコミュニケーション力を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名（複数の教員が担当する場合、科目責任者＝〇）
2	英語Ⅱ（コミュニケーション）	2	30	選択	講義	2年前期	Patrick Murphrey Carrigan

科目概要	日常的生活場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図りそれから、文化を学びながら、ロールプレイ等によりコミュニケーション能力の向上を図っていく。
到達目標	リスニングやスピーキングなどを通して、コミュニケーション能力を身につける。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	〇	1．多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間：講義終了後 場所：講師控室
	〇	2．主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3．地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4．課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	40 %	
		5．看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
		6．地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	特になし
事後学習	各回の講義内容は、友達と復習しておく。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	講義のオリエンテーション	先生の自己紹介、それから、授業の説明	Murphrey
2	学生の自己紹介	自己紹介の文を学んでそれから、自己紹介の活動	Murphrey
3	家族	話し方を練習し始めます。話題は自分の自己紹介。家族の単語を学んで家族の絵を作ります。	Murphrey
4	スピーキングテスト第一	テストを受けて結果を記入	Murphrey
5	アンザックデー	アンザックデーを学んでスピーキングの話題は家族	Murphrey
6	オーストラリア	話し方を練習してから、オーストラリアを学んでクラフトを作ります。スピーキングの話題は教科	Murphrey
7	ニュージーランド	話し方を練習してから、ニュージーランドを学んでクラフトを作ります。スピーキングの話題は食べ物	Murphrey
8	英語を話す国の音楽	話し方を練習してから、英語を話す国の音楽を学びながら、音楽を聴きます。スピーキングの話題ポップ文化	Murphrey
9	スピーキングテスト第二	テストを受けて結果を記入	Murphrey
10	カナダデー	話し方を練習してから、カナダを学なびます。スピーキングの話題は友達	Murphrey
11	カナダデー	話し方を練習してから、カナダのクラフトを作ります。スピーキングの話題は天気	Murphrey
12	アメリカの独立記念日	話し方を練習してから、アメリカを学びます。スピーキングの話題は自然	Murphrey
13	アメリカの独立記念日	話し方を練習してから、アメリカのクラフトを作ります。スピーキングの話題はペット	Murphrey
14	ディスニーの英語	ディスニーの人気ある英語を学びます。	Murphrey
15	スピーキングテスト第三	テストを受けて結果を記入	Murphrey
16	定期試験	試験	Murphrey

テキスト	参考書
なし（プリント配布）	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
アメリカ出身で、メキシコ、フランス、韓国、タイなどで英語をはじめ語学を教育してきた経験を生かし、日常生活や医療現場で必要とされる実践的なコミュニケーション力を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
3	中国語	2	30	選択	講義	2年前期	李丹丹

科目概要	看護の国際化を鑑み、隣国である中国の文化の理解と教養を養う。具体的には、中国語がどのような言語であるのかをまず学ぶ。そのうえで、発音の基礎、簡単な決まり文句、挨拶などの日常会話、自己紹介などを学ぶ。また、動詞、目的語や時を表す名詞の位置などの基本的な語順についても学ぶ。中国文化を理解するために、テーマを設定して調べ学習をする。言語の基本を学ぶこととともに、中国文化の理解に努める科目である。
到達目標	1. 中国語の発音表記を理解し、学習した単語・文の発音と聞き取りができるようになる。 2. 初歩的な語彙、文型を覚え、簡単な中国語会話ができる。 3. 現代中国事情、中国人の考え方などについて理解を深める。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(「読む、聞く、話す」の確認)	10 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	基本的に必要がありません。必要時に指示します。
事後学習	講義内容を理解するまで復習してください。 1. 教科書についている音声などを聴きながら、まねて発音を練習する。 2. 単語、例文、本文を繰り返し音読する。 3. 宿題、課題を課する場合もある。(毎回講義の最初の10分ほどを使って、前回講義の内容について、発音のチェック、和訳、漢訳、会話などを行い、事後学習の出来具合を確認する。)

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス、ウオーミングアップ	・授業の進め方、評価方法、注意事項、心構えなどについて。 ・中国という国、中国語についての基本知識。 ・四声について。	李
2	・単母音、二重複母音、子音① ・現代中国文化・事情①	・a o e i u ü ai ei ao ou ia ie ua uo üe b p m f ・中国の漢字について	李
3	三重複母音、子音②	iao iou uai uei d t n l g k h j q x zh ch sh z c s	李
4	鼻母音、ピンインを綴る時のルール、変調等	・an en in ian uan uen ün üan ang eng ing iang uang ueng iong ong ・四声の書き方 ・子音のない音節の表記方法 ・第三声等の変調	李
5	・総合練習 ・現代中国文化・事情②	・声調の感覚 ・数字の言い方 ・中国人が好きと嫌いな数字	李
6	第一課 こんにちは ①	・新出語句解説 ・文法 ①副詞+動詞/形容詞 ②「～は…だ」の表現 ③「～ですか」:疑問を表す"吗"④日常の挨拶表現	李
7	第一課 こんにちは ②	・本文の学習、練習 ・小テスト(一回目 10点満点 発音)	李
8	・第二課 あなたは中国人ですか ① ・現代中国文化・事情③	・新出語句の解説 ・文法 ①人称代詞 ②動詞述語+目的語 ③疑問詞疑問文(1) ④推測を表す助詞"吧" ・中国の料理	李
9	第二課 あなたは中国人ですか ②	本文の学習、練習	李
10	第三課 健康保険証を持っていますか ①	・新出語句の解説 ・文法 ①指示代詞 ②"的"の使い方 ③疑問詞疑問文(2) ・単語小テスト(二回目 10点満点 単語)	李
11	・第三課 健康保険証を持っていますか ② ・現代中国文化・事情④	・文法 ④反復疑問文 ・本文の学習、練習 ・茶文化	李
12	第四課 家族にはどんな人がいますか ①	・新出語句の解説 ・文法 ①ものの数え方・示し方 ②方位名詞 ③"有"を用いる存在文	李
13	第四課 家族にはどんな人がいますか ②	・本文の学習、練習 ・単語小テスト(三回目 10点満点 単語)	李
14	第五課 あそこで少しお待ちください ①	・新出語句の解説 ・文法 ①場所指示代詞 ②"在"を用いる所在文 ③介詞"在"の用法 ④数量補語	李
15	・第五課 あそこで少しお待ちください ② ・現代中国文化・事情⑤	・本文の学習、練習 ・中国の祝祭日	李
16	定期試験	試験(リスニング含む)	李

テキスト	参考書
・山田真一著『医療系学生のための初級中国語』(ISBN:9784891749798 白水社 2009年初版,2500円(税別))	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
医療現場で中国人に通訳した経験を活かして、医療現場で中国人患者と接する時に役立つ中国語について講義する。	なし

留意事項	受講生の理解度を確認しながら授業を進めていくため、シラバスの予定より前後する可能性があります。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
4	人間関係論	1	15	必修	講義	1年前期	高下梓

科目概要	一般的な人間関係におけるコミュニケーションの基本構造と、よりよい人間関係形成・対人支援に向けたコミュニケーション技法を理解する。また、患者-看護師関係・家族看護や、チーム医療等における連携など医療現場特有の人間関係の特徴を学び、事例をもとに検討する。
到達目標	1. 看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係性に影響することを理解できる。 2. 人々との相互の関係を成立させるための基本的なコミュニケーション技法を活用できる。 3. 自分のコミュニケーションの傾向を把握し、自己課題を見出すことができる。 4. 看護職に必要な対人援助・多職種連携の基本的知識について説明できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、配布資料の該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	1. 事後課題に取り組み、指定する日時に提出する。 2. 日常生活の対話場面で、コミュニケーション技法を活用する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	コミュニケーションの基礎知識	コミュニケーションの基本的構造を理解する。 自分のコミュニケーションの特徴を振り返り、目標と課題を考える。	高下
2	非言語的コミュニケーション① :人間関係のはじまり	人間関係において第一印象に関わる非言語的コミュニケーション(表情・身だしなみ等)の特徴と留意点を学ぶ。また、看護の場面における留意点を理解する。	高下
3	非言語的コミュニケーション② :看護の場面における関わり	非言語的コミュニケーションのうち、触れること・におい・相手との距離等について、看護の場面の例をもとに特徴と留意点を理解する。	高下
4	言語的コミュニケーション① :挨拶・言葉遣い・質問技法	挨拶・言葉遣いの要点と、質問技法の特徴と使用上の留意点を確認する。医療現場の例を通して質問技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して質問技法を練習し、プロセスレコードを取って振り返る。	高下
5	言語的コミュニケーション② :応答技法	頷き・繰り返し・要約等、傾聴に用いられる応答技法の特徴と留意点を確認する。医療現場の例を通して各技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して応答技法を練習し、プロセスレコードを取って振り返る。	高下
6	言語的コミュニケーション③ :感情の反映技法	感情の反映の技法の特徴と留意点を確認する。医療現場の例を通して技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して感情の反映技法を練習し、プロセスレコードを取って振り返る。	高下
7	チーム医療における人間関係	医療にかかわる様々な専門職の特徴を理解し、チーム医療における医療従事者間の人間関係と、連携について考える。	高下
8	患者ー看護師関係と家族看護	患者ー看護師関係における相互作用やプロセスの基本的知識を理解する。患者・家族の心理状態を理解し、患者の家族を援助する看護師の役割について考える。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
適宜指定する。	・茂野香おる編著『系統看護学講座-専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ』(医学書院　第19版) ・石川ひろの他著『系統看護学講座-基礎分野 人間関係論』(医学書院　第3版)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
5	カウンセリング理論	1	15	選択	講義	1年後期	高下梓

科目概要	カウンセリングの基本姿勢とその重要性、代表的なカウンセリング理論を理解するとともに、事例を交えてカウンセリングの各種技法の効果的活用を検討する。メンタルヘルスの不調や、災害発生直後において、対象者を専門家の支援へつなぐまでの心理的支援の方法を理解する。
到達目標	1. 主要なカウンセリング理論の考え方と技法の特徴を説明できる。 2. メンタルヘルスの危機にある対象者への初期の心理的支援の行い方を説明できる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、配布資料の該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	1. 講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める。 2. 学んだ知識を日常の出来事と照らし合わせ、状況に応じて活用し、理解を深める。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	カウンセリングの基本姿勢 来談者中心療法	来談者中心療法の考え方を通してカウンセリングの基本姿勢を学ぶ。効果的な環境の整え方について、ペアワークを通して体験的に理解する。	高下
2	精神分析	精神分析における心の構造・機能の考え方を学ぶ。また、様々な防衛機制の特徴について日常生活・看護場面における例を交えながら理解する。	高下
3	行動療法・認知行動療法	行動療法・認知行動療法の特徴を学ぶ。事例を通して対象者の認知・行動変容に役立つ様々な技法の活用方法を考え、ロールプレイを行う。	高下
4	遊戯療法・箱庭療法	遊戯療法・箱庭療法の特徴を学ぶ。カウンセリングにおける非言語的なやりとりの重要性について、ロールプレイを通して理解する。	高下
5	表現療法	コラージュ療法・描画療法を中心に学び、ペアワークを通して表現療法を体験する。	高下
6	心の応急処置(メンタルヘルス・ファーストエイド)	こころの健康に問題を抱える人に対して専門家の支援の前に提供する支援(メンタルヘルス・ファーストエイド)の要点を理解する。	高下
7	心理的応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド)	ストレス・災害時に支援者が心理社会的支援を提供するためのガイドライン(サイコロジカル・ファーストエイド)の概要を理解する。	高下
8	ストレス対処とリラクセーション技法	ストレスによる心身反応の特徴を理解するとともに、セルフチェックリストで自分の状態を確認する。呼吸法・漸進的筋弛緩法・自律訓練法を学び、体験する。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
適宜指定する。	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わったり、傾聴技法の研修を担当してきた教員が担当し、カウンセリングの考え方や傾聴のスキルを学びます。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
6	コミュニケーション支援論	1	15	選択	講義	1年後期	高下梓

科目概要	コミュニケーションに関わる心理学の基本的知識を習得し、コミュニケーションに関する自己理解・他者理解を通してよりよいコミュニケーションに向けての自己課題を検討する。 また、看護の様々な場面・対象者とのコミュニケーションや支援のあり方について、事例・ロールプレイを題材に討議・検討する。
到達目標	1. 自分自身の特徴を多面的に理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。 2. 他者理解の多様な観点を理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。 3. 看護の場面におけるコミュニケーションの特徴と配慮事項を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、配布資料の該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	1. 学習内容を復習するとともに、分からなかった用語等を調べて理解を深める。 2. 学習内容を通して自己理解・他者理解を深めるとともに、コミュニケーションの様々な場面に活用する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション 自己理解	対人援助職として自己理解・他者理解を深め、人間関係を学ぶことの意義を考える。自己理解に関わる簡易アセスメントツールを通して自分の特徴を知る。	高下
2	他者理解	ソーシャルスタイル理論を通して、自分と他者のコミュニケーションの取り方のパターンや工夫点を理解する。	高下
3	エゴグラム	エゴグラムを通して自分の特徴を知るとともに、交流分析理論を通してコミュニケーションの工夫点を理解する。	高下
4	アサーション	アサーションの理論とスキルを学び、紙面上訓練とロールプレイを通して練習する。	高下
5	コミュニケーション障害への対応	言語的コミュニケーションに必要な身体機能を学び、コミュニケーション障害がある人への対応を理解する。	高下
6	看護の様々な場面におけるコミュニケーション	看護の様々な場面(問診、検査等)におけるコミュニケーションの留意点を学び、事例やロールプレイを通して検討・練習する。	高下
7	看護の様々な対象者とのコミュニケーション	看護の様々な対象者(子ども・高齢者等)とのコミュニケーションの留意点を学び、事例やロールプレイを通して検討・練習する。	高下
8	看護の様々な状況におけるコミュニケーション	これまでの学習を総合した事例を扱い、ディスカッションやロールプレイを通して検討・練習する。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
なし	・茂野 香おる編著『系統看護学講座-専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ』(医学書院 第19版)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わってきた教員が担当し、コミュニケーションの知識と実践を学びます。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
7	情報リテラシー	1	15	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	小穴一郎

科目概要	医療現場では電子カルテ等の導入により、パソコン操作のスキルは必須となっている。また様々な情報がインターネット上に存在する現代において、自分が必要とする情報を入手するスキルを備えることも大切である。これら社会人として必須となるパソコン操作の習得と、ますます高度化する情報社会の現状を理解するとともに、その活用方法を考える。(自分のパソコンを利用した操作演習が主な授業となる)
到達目標	1. パソコンの基本操作(Windos10)やファイル操作ができる。 2. インターネット上の情報検索、文献検索(図書館等の蔵書検索)や論文検索ができる。 3. 文書作成(Word)、データー分析(Excel)、カンファレンス用の資料(PowerPoint)の作成ができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	授業内容や制作物等の確認
事後学習	学習した操作手順の復習、再確認

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	Windowsの基本操作 情報検索の基本と応用	ファイルのコピー・ダウンロードなどの基本操作 インターネットの情報検索(絞り込み検索、除外検索、完全一致検索)	小穴
2	文献検索、蔵書検索、論文検索	文献(図書)の検索方法、大学図書館や各地の図書館の蔵書検索 国内大学等の論文検索(医中誌Webを利用した検索)など	小穴
3	事例研究1(授業内課題)	これまでの学習をふまえ、具体的な事例をもとに情報収集を行い、どのような参考文献があるか調査するとともに、自分の考えをまとめる課題を行う。	小穴
4	文書作成 (Word) 演習	ワード (Word) による文書作成演習 書体選択、段落設定、文字揃え、箇条書き、図や写真のレイアウトなど	小穴
5	データー操作 (Excel) 演習	エクセル (Excel) によるデーター操作演習 並び替え、抽出(フィルター)、合計計算、条件付き書式、関数処理など	小穴
6	発表資料作成 (PowerPoint) 演習	パワーポイント (PowerPoint) による発表資料作成演習 様々なオブジェクト(図や写真、動画)の配置、アニメーション効果など	小穴
7	事例研究2(授業内課題)	これまでの学習をふまえ、エクセルで作成したグラフをワード文書に利用するなど、アプリケーション間でデーターを相互利用した課題を行う。	小穴
8	まとめの講義 (高度化する情報社会の現状について)	医療現場におけるAI(人工知能)の利用状況、インターネット回線を活用した遠隔地医療、独居高齢者の見守りなど進化する情報化社会の現状を知り、さらにどのような分野での利用が期待されているかを概観する。	小穴
9	定期試験	情報検索に関する問題とワードとエクセルを利用した問題 パソコンの持ち込み可	小穴

テキスト	参考書
プリントを配布 医中誌Web検索ガイド(小冊子)	・古市みどり編『資料検索入門』(慶應義塾大学出版会) ・佐藤憲一、川上順子編『医療系のための情報リテラシー』(共立出版)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
ICTの導入や活用を支援するNPO活動による知見を活かし、PC操作やオフィスアプリなどの基本を理解する講義を行う。	ノートパソコンを準備すること。

留意事項	1.他の学生の迷惑になるため、講義中の私語および携帯電話の使用は禁止。 2.講義中は自分のパソコンを利用するため、充電状況を確認して授業中の電源ダウンに備えること。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。 4.公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
8	情報科学	1	15	必修	講義	1年後期	小穴一郎

科目概要	看護師や保健師が活躍する医療現場だけでなく、様々な場面でパソコン操作のスキルは必須となっている。こうした状況をふまえ、インターネットを活用した医学資料の検索や論文の入手方法、また看護研究に必要となる資料の探し方を学ぶ。さらに医療現場でのICT導入の状況や、カンファレンスに必要なデーター分析の手法、個人情報保護などの法律知識を学ぶ。 (パソコンを利用して検索アプリ、オフィスアプリなどを実践的に学習する)
到達目標	○ Microsoft365(オンライン版オフィス)でのファイル操作ができる。 ○ インターネット上のデーターベースや医中誌などに掲載された論文検索ができる。 ○ 表計算(Excel)を活用した情報統計や資料作成(Word)ができる。 ○ 医療現場におけるICT利用の状況や患者に対する個人情報保護の知識を習得する。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	授業内容だけでなく、他の科目との関連性を確認
事後学習	学習した操作手順の復習、他の科目への活用を検討

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	インターネットの活用(1)	学内インターネットシステムを活用した教材のダウンロード、メールシステムの利用。 クラウドコンピューティングについての理解を深める。	小穴
2	インターネットの活用(2)	ネットワークのセキュリティ、パスワードの管理方法を学ぶ。 メールやWebサイト、SNSの仕組みについて理解を深める。	小穴
3	オフィスアプリ演習(1)	Wordによる文書整形、画像や表を組み合わせた文書の作成を学ぶ。	小穴
4	オフィスアプリ演習(2)	Excelを活用したデーターベースの操作と統計の基本を学ぶ。	小穴
5	オフィスアプリ演習(3)	Excelを活用した演算処理を医療統計を例にして学ぶ。	小穴
6	授業内課題(小テスト)	オフィスアプリによる課題レポート(提出課題)	小穴
7	医療現場とICT(1)	病院内システムの概要(電子カルテ、オーダリングなど)について学ぶ。 デジタルヘルスケアの現状と課題について知る。	小穴
8	医療現場とICT(2)	様々な情報発信と個人情報保護の知識を学ぶ。	小穴
9	定期試験	インターネットを活用した情報検索とオフィスアプリの使い方について出題。 (4択の知識問題、オフィスアプリの演習問題、情報検索の記述問題) パソコンの持ち込み可	小穴

テキスト	参考書
プリントを配布	太田勝正・前田樹海編『看護情報学』医歯薬出版 大木秀一著『看護統計学入門』医歯薬出版

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
ICTの導入や活用を支援するNPO活動による知見を生かし、PC操作やオフィスアプリなどの基本を理解する講義を行う。	ノートパソコンを準備すること。またパソコンの基本操作(文字入力やマウス操作など)ができること。 パソコンの操作に不安がある場合には、前期「情報リテラシー」を受講して下さい。

留意事項	1.他の学生の迷惑になるため、講義中の私語および携帯電話の使用は禁止。 2.講義中は自分のパソコンを利用するため、充電状況を確認して授業中の電源ダウンに備えること。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
9	科学論	1	15	選択	講義	1年前期	

科目概要	
到達目標	

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	%	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	%	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	%	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	%	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	%	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	%	

事前学習	
事後学習	

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9	定期試験	試験	

テキスト	参考書

実務経験と授業科目との関連性	履修条件

留意事項	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
10	社会学	1	15	選択	講義	1年前期	三村 仁志

科目概要	現代社会における様々な現象を理解するのに必要な基本的概念と考え方を学び、それらを具体的な問題に適用できるようにする。特に、社会における保健・医療のとらえ方など、看護職者をとりまく諸問題について考察する。
到達目標	身の回りの出来事や自分の行動や価値観等を社会学的視点から観察・分析できるようになることを目標とする

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	40 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	%	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	30 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	%	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎回、次の講義の資料を配布するので、熟読して講義に参加すること
事後学習	毎回の講義後ミニレポートを課します。講義中にわからなかった用語はその都度講義後に調べて理解しておくこと。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	社会学とは何か	・授業のオリエンテーション ・社会学は何を対象とし、何を目指す学問なのかを考える。	三村
2	社会学の歴史	・社会の変遷と社会学の対象及び論理を概観する。	三村
3	権利	・人権とは何かを考察し、看護職との関係を考える。	三村
4	家族をめぐる社会学	・現代の家族の置かれた環境を概観し家族をめぐる諸問題、ジェンダーの視点を知る。	三村
5	看護と社会学	・看護職と社会とのつながりを知る。・ターミナルケアについて考える	三村
6	看護と社会福祉	・近接領域である社会福祉と看護職との関係、福祉理念を知る。	三村
7	障害学	・社会学視点で障害とはなにかを考える。社会学の視点で差別の構造を考える	三村
8	地域共生社会	・なぜ地域共生社会が必要とされているのかを概観し、多職種連携、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について考える。	三村
9	定期試験	試験	三村

テキスト	参考書
特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。	よくわかる社会学[第3版]、宇都宮京子(編):(ミネルヴァ書房) 増補改訂版 看護と介護のための社会学　濱野 健(著, 編集), 須藤 廣(著, 編集):(明石書店)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
社会福祉現場で障害者支援を行ってきた経験、医療的ケアについて福祉の立場で関わってきた経験を元に、看護を取り巻く社会的諸問題について学生と共に分析考察する。	なし

留意事項	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
11	生物学	2	30	選択	講義	1年前期	三輪憲永

科目概要	本授業では、生物の活動を支えている「生命現象」について理解することを目的とする。生物の体内では、非常に多くの複雑な「生命現象」が起きており、全ての「生命現象」が、精緻なメカニズムにより調節されることにより生命を維持している。生物の活動の基本である「生命現象」を理解することで、生命の大切さについて学ぶ。また、生物と環境とのかかわりについて学び、地球環境とヒトとの共存について考える。
到達目標	1. 生命体の基本的な構造と機能、エネルギー活動について説明することができる。 2. 遺伝子について理解し、遺伝性疾患、遺伝子診断などについて説明することができる。 3. ホメオスタシスについて理解し、ヒトの恒常性維持の重要性について説明することができる。 4. 生殖と発生、生命の進化と多様性について理解し、多様な人々との関係について説明することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布するプリントを読んで、授業内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	生物学を学ぶにあたって	生物、生命の特徴、生命現象について学び、看護の対象となるヒトを含めた生物について考える。	三輪
2	生命体のつくりとはたらき	細胞の構造、細胞小器官、細胞の化学的成分、細胞膜の働きなどについて学ぶ。	三輪
3	生体維持のエネルギー	ATP、酵素、解糖系、TCAサイクル、酸化的リン酸化などについて学び、生命活動を支えるエネルギー代謝について理解する。	三輪
4	細胞の増殖とからだのなりたち	細胞分裂、細胞の分化、組織と器官などについて学び、多細胞生物であるヒトの体のなりたちについて理解する。	三輪
5	遺伝情報の伝達①	遺伝の法則、染色体、遺伝子、DNAなどについて学び、親から子への遺伝情報の伝達について理解する。	三輪
6	遺伝情報の伝達②	RNA、タンパク質の合成、遺伝子の発現などについて学び、遺伝情報を基にどのようにタンパク質が合成されるか理解する。	三輪
7	遺伝情報の伝達③	遺伝子の変異、先天性代謝異常、遺伝子組み換え技術などについて学び、遺伝子の変異による生物の影響について理解する。	三輪
8	生殖と発生	無性生殖と有性生殖、受精と発生、ヒトを含めた哺乳類の発生、人工授精などについて学ぶ。	三輪
9	個体の調節①	ホメオスタシス、呼吸系、消化系、循環系の調節について学ぶ。	三輪
10	個体の調節②	免疫系、排出系、自律神経系、内分泌系の調節について学び、恒常性維持の重要性について理解する。	三輪
11	刺激の受容と行動①	細胞間の情報伝達、受容器と感覚情報の伝達について学ぶ。	三輪
12	刺激の受容と行動②	神経系の発達、筋肉の構造と運動について学ぶ。	三輪
13	生命の進化と多様性	生命の起源、生物の多様化と絶滅、ヒトの起源と進化などについて学び、多様な人々との共存について考える。	三輪
14	生物と環境	生態系、生物多様性の保全、人間活動の環境への影響などについて学び、持続可能な社会について考える。	三輪
15	まとめ	生物学で学んだ内容について、総合的に理解する。	三輪
16	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・高畑雅一、増田隆一、北田一博著『系統看護学講座 基礎分野 生物学』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
12	日本国憲法	2	30	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	後藤泰一

科目概要	日本国憲法と基本原則、日本国憲法の生い立ち、憲法の仕組み等を概説した上で、国民主権と選挙、基本的人権(自由権と社会権)について説明し、そして、統治機構としての国会・内閣・裁判所、最後に地方自治について説明する。社会人として直面する諸問題につき、憲法の目で自ら考えうる能力を養うことが大きな目標である。
到達目標	1. 憲法の基礎的知識を身に着け憲法の全体像をしっかり理解すること。 2. 現代社会の中で生起する様々な問題を憲法の視点で考察できる能力を養うこと。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	憲法の条文をしっかり読んでおくことが大事である。
事後学習	授業の時だけでなく、常日頃、政治問題等に広く関心をもって頂きたい。政治は憲法と深くかかわっており、憲法の理解を深めることは、政治をいっそう身近なものとすることに繋がる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	講義の前に	法の世界へ、六法を開いてみよう！　憲法の学び方、講義の進め方	後藤
2	憲法とは何か	日本国憲法の基本原則、日本国憲法の生い立ち、天皇は日本国の象徴、戦争放棄ほか	後藤
3	国民主権と選挙	民主政治と国民主権、参政権、選挙の公理及び選挙に関する諸問題	後藤
4	基本的人権Ⅰ(総論)	人権とは何か、人権の生い立ち、「法の下の平等」との関係	後藤
5	基本的人権Ⅱ(自由権)	①精神的自由権:思想・良心の自由、信教の自由	後藤
6	基本的人権Ⅲ(自由権)	前回①の続き:集会・結社の自由、表現の自由、学問の自由	後藤
7	基本的人権Ⅳ(自由権)	②身体的自由権:奴隷的拘束・苦役からの自由、法定手続の保証、住居の不可侵、被疑者・被告人の権利保障	後藤
8	基本的人権Ⅴ(自由権)	③経済的自由権:居住・移転・職業選択の自由、財産権の不可侵	後藤
9	基本的人権Ⅵ(社会権)	社会権について、生存権とは何か、生存権の法的性質、生存権訴訟	後藤
10	国会Ⅰ	議会政治と国会、国民主権と間接民主制、唯一の立法機関・国権の最高機関としての国会、国会の組織	後藤
11	国会Ⅱ	国会の権能、法律の制定、予算の審議・議決、議員の特権	後藤
12	内閣と行政	議院内閣制とは何か、行政府の権能、行政府と官僚	後藤
13	裁判所	司法権と裁判所の役割、裁判官及び裁判の仕組み	後藤
14	地方自治	地方自治とは何か、地方公共団体の組織及びその権限ほか	後藤
15	全体のまとめ	全体の復習と補足ほか、「人権(基本的人権)・自由権の系譜」再び	後藤
16	定期試験	試験	後藤

テキスト	参考書
特にない(プリントを配布する)。ただし、受講生は六法(最新版)を持参すること(『ポケット六法』(有斐閣)をあげておく)。	安念潤司・小山剛ほか『論点 日本国憲法〔第2版〕』(東京法令出版)。その他、授業中に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
なし	なし

留意事項	公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。授業中の携帯電話等使用厳禁。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
13	比較文化論	1	15	選択	講義	1年前期	亀井智泉

科目概要	近代医療の使命は「治す」ことにあったが、超高齢社会を迎える21世紀の日本では病気や障害とともに歩むことを「支える」医療への転換が求められている。そのヒントを、諸社会の「医療」や「病気」をめぐる文化のなかに見出していく。「文化」とは、その社会で人々が当たり前に暮らすことを可能にする種々の知識や技術を含めた、人間の振る舞いや思考に関わる情報の総体である。病気の治療やケアをめぐる広義の医療文化(現代医療・伝統医療・呪術的治療など)の比較を通して、その文化・社会的側面について学習する。自文化の「当たり前」を見つめ直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。
到達目標	地域だけではなく、職種や時代によって生じる文化の違いを認識し、その違いを生成する環境や背景について考察するスキルを体得する。それによって、自らの文化と他者の文化をその違いを含めて許容する力を獲得すること。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	40 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	20 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎回の授業時に指示する。身近な経験を文化として振り返り、自らの「当たり前」や「偏見」を考え直す機会としたい
事後学習	講義の終了時に行う振り返りをもとに、自らの理解不足を自覚してそれを学びの必要性と捉えて、講義内容の確認に努めてください。新聞や雑誌等多様な文献に積極的に触れることを勧めます。文献から興味や疑問が湧き、発展的な学習に向かうこともあるでしょう。これらの過程での質問は遠慮なくしてください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	「文化」としての「病気」と「医療」～呪術から科学へ	「病気」や「医療」がどのようにとらえられてきたか、文化の変遷と価値観の違いによるとらえ方の違いを可視化しよう	亀井
2	東洋のからだ、西洋のからだ	古代の風水・仏教から現代の保健医療まで、社会防衛の技法がの変遷と、その背景にある宗教、生活文化の誓いを考える	亀井
3	「治さなければならないもの」:医療は何を対象にするか	基準、なるものを定め、そこに当てはまらないものを「異常」なものとして治療、矯正の対象とする「逸脱の医療化」について考える。「逸脱」しているのに治せない、障害に対して医療・看護はどのようにかかわろうとしているのだろう	亀井
4	いのちを育む～周産期医療と子育ての文化	古今東西の出産や育児の比較をとおして、「生産性」を追求する社会における妊娠、出産、育児について考えよう	亀井
5	女性と母性	男性中心社会の中で、女性と母性は切り離されて考えられてきた。リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)について多様な文化の比較を通して考える。	亀井
6	老いる、ということ	成長を謳う近代社会の中で「老い」がどのように位置づけられてきたのかを踏まえて、その先にある「死」への向き合い方を含めて考えよう。	亀井
7	自然の力、科学の力	アロマセラピー、レメディ、マクロビオティック・・・世界各国の自然と健康をつなげる考え方を知り、自然の一部である私たちについて考察する。	亀井
8	「寄り添う看護」とは何か	決め台詞のように使われる「寄り添う看護」。具体的にどうすることなのか事例から考える。	亀井
9	定期試験	試験	亀井

テキスト	参考書
特にありません。講義の中で資料を配布します。参考図書は積極的に読んでください	『日本の面影』ラフカディオ・ハーン　池田雅之　訳　角川ソフィア文庫 「天、共に在り－－－　アフガニスタン30年の闘い」中村　哲　(NHK出版)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
在宅医療、小児・障害者の医療行政の立場による経験や新生児学療育講座での教育経験を活かし、医療文化を見つめなおし他者に関わり続ける洞察力を教授する。	なし

留意事項	1.講義中の私語は禁止。 2.講義中は携帯電話の使用禁止(電源を切るか、マナーモードに設定する)。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
14	環境学	1	15	選択	講義	1年前期	三輪憲永

科目概要	本授業では、生命の起源と生物の進化、人間活動が生態系に与える影響、人間生活と環境のつながりについて理解することを目的とする。ヒトを含めた生物は環境と相互依存の関係にあり、時間の経過あるいは環境の変化とともに生物も変化してきたが、近年、ヒトの活動が生態系や地球環境に与える影響が問題となっている。大気汚染、水質汚濁、廃棄物、気候変動などの環境上の諸問題及び気候変動による感染症の発生動向の変化の可能性などについて学ぶ。
到達目標	1. 人間活動が生態系に与える影響について理解し、人間生活と環境とのつながりについて説明することができる。 2. 人間の活動によって起きている環境上の問題や、今後起きる可能性の高い問題について説明することができる。 3. 気候変動を原因とする感染症の地域的な発生状況の変化について説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、新聞やテレビのニュースなどについて注目する。
事後学習	授業時に配布するプリントを読んで、授業内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	地球環境と人間	生命の起源、生物の進化と人類の誕生、人間活動と生態系などについて学ぶ。	三輪
2	大気汚染	酸性雨、PM2.5、光化学オキシダントなどの大気汚染について学ぶ。	三輪
3	水環境の汚染	地球の水資源と水の循環、水質汚濁や富栄養化などの水環境の汚染、水を汚染する化学物質などについて学ぶ。	三輪
4	廃棄物	廃棄物の種類と排出状況、廃棄物の処分、逼迫する最終処分場、不法投棄などについて学ぶ。	三輪
5	プラスチックごみ	プラスチックの種類と生産量、プラスチックごみの生物や環境に与える影響、プラスチックのリサイクルなどについて学ぶ。	三輪
6	気候変動と温暖化	地球の大気組成、温室効果ガスと気候変動、気候変動枠組条約などについて学ぶ。	三輪
7	環境の変化と感染症	新たに発生した感染症、感染症発生地域の拡大、国際交流と感染症の拡大、感染症予防法、病原体と媒介生物などについて学ぶ。	三輪
8	まとめ	環境学で学んだ内容について、総合的に理解する。	三輪
9	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
使用しない。	パワーポイントを補助教材として使用し、必要に応じてプリントを配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
15	教育学	1	15	選択	講義	1年前期	黒田　和子

科目概要	「教育」というのは、人間を何かに向かって育てるところにその本質をもつ。つまり、人間というものを「可能性をもつもの」として眺めるのである。「教育」は、可能性をもっとも大きい所に向かってひろげていく営みを意図して行った意識的な行為である。授業では、「可能性に向かってひろがりゆくもの」を今日に至るまでふくらめてきた、教育学としての専門的な知識・歴史・今日の諸問題などを取りあげながら、幅広く考察し、ともに教育について科学する。
到達目標	1.看護と教育学の関係を理解し、教育学を学ぶ必要を語ることができる。 2.学校教育や教育現場における諸事象を知ることを通じて教育の本質に気付くことができる。 3.教育における指導の基本について説明することができる。 4.今日の教育諸問題について知り、それに対して自分の見解を述べることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	%	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	%	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	%	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	・毎回の授業で、次回の講義項目と内容について主旨説明や資料配布等を行うので各自確認をして受講して下さい。
事後学習	・各自で授業内容の復習をして下さい。レポート課題の作成と提出を指示しますので、期限厳守で提出して下さい。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 看護と教育学の関係	授業のガイダンスを行う。 「何のために教えるの。教育は人をよりよくできるの」について教育学を学ぶ意味を考える。	黒田
2	「近代看護教育」の特徴と問題	「教師や看護師は、科学的知識をもっている存在として、いかに教育と向き合うか」について考察する。	黒田
3	教育と学習	人間には何か目に見えない「心」のようなものがあって、それは絶対に他人が知ることができない固有なものである。その固有なものを媒介して、教える側と学ぶ側の関係性はいかにあったらよいのかを考える。	黒田
4	教育評価	1)相対評価2)絶対評価3)形成評価4)最終評価5)第3者評価などの評価の価値と次の実践につなげるための方法について考察する。	黒田
5	教育的使命	・マズローの欲求5段階説・ハリーハーロウの理論・ヴィクトールEフランクルの理論について考察する。	黒田
6	人間の発達と教育方法	「教育による発達」の理論について考察する。	黒田
7	教育教材	学習意欲を高める技法や健康について情報発信できる掲示板づくりなど学習を取り巻く物と空間について考察する。	黒田
8	障がい児教育	発達障害に対する特別ニーズ教育について考察する。	黒田
9	定期試験	試験	黒田

テキスト	参考書
指定なし	古川雄嗣:看護学生と考える教育学　2016 髙谷修;看護学生のための教育学　2018 野村知沙著『看護助手のナナちゃん』小学館 広岡義之著『絵で読む教育学入門』ミネルヴァ書房 教育学:医学書院

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
教育現場での実践経験と研究で積みあげた知見を活かし、教育の本質を学生たちの生活経験に引き寄せ教授する。	なし

留意事項	1.共に学ぶ学生の「学び」を保障するよう心掛ける(講義中の私語は禁止)。 2.講義中は携帯電話の原則使用禁止(電源を切るか、マナーモードに設定する)。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
16	生命倫理	1	15	必修	講義	1年前期	亀井智泉

科目概要	医療の高度な発達とともに、安楽死や選択的妊娠中絶、デザイナーベビーなどの倫理的に解答困難な問題が数多く登場した。また、民主化が進む中で、個人の多様な価値観を尊重しなければならない時代になってきた。そのような状況において、医療問題について、他者と合意形成を行いつつ、どのように判断し、どのように解決策を発見するべきだろうか。具体的な事例を踏まえながら考察する。
到達目標	看護職として答えの出ない課題に向き合わねばならなくなるであろう将来に備えて、自分の中に命への思い、いのちの尊厳を守るための確固たる意志を醸成すること。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	40 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	30 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎回、テーマに沿って事例を提示します。その事例を熟読して、分からない言葉を調べて、正しい言葉で議論できるようにすること。事例の中で看護はどのようにその専門性を発揮したか、自分ならどのように看護するかを考えて講義に臨んでください。
事後学習	講義中に取り上げる専門用語は正しい意味・定義を自分で調べて把握すること。すべての回の内容は関連性があり、つながりあっているので、講義ごとの学びを自分なりに整理しておくこと。臨床の場に出た時にそれが生きてきます。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	いのちとはなんだろう	胎児の成長を、出生まで週を追ってみながら、自分のいのちの始まりを考えます。自分の生まれた時の身長と体重を(可能なら)知って、講義に臨んでください。	亀井
2	いのちを「なかったこと」にできるか	流産した子は「早く忘れなさい」、障害児が生まれたら「なかったことにして次に元気な子を」。生と死を他人事としてとらえた場合とそうでない場合の認識の違いから、「寄りそう」看護とは何かを考えます。	亀井
3	障害を持つこどもを産むということ	外表奇形の児、先天性の疾患のある児、周産期のトラブルで障害を持つに至った児。多様なケースから、障害を持つ子をその特性ごと受け入れるために看護師として求められる姿勢を考える。	亀井
4	こどもが障害を持つということ	元気に生まれてきたはずのわが子に障害があるとわかったら。	亀井
5	出生前診断と優生思想	新型出生前診断について学び、お腹の中で染色体異常や先天性の疾患が分かった場合の家族への支援を考える。家族が答えを出すことを支援するために必要な正しい知識と命への自分なりの信念をかたちづくることを目指す。	亀井
6	こどもの死を考える	小児のアドバンスケアプランニングを考える。生命予後不良=長くは生きられないこどもの死を考えることは、その子がどんな生き方をするか、を共に考え、よりよい経験を積ませる手助けをする「子育て支援」の延長線上にあることに気づく。	亀井
7	脳死臓器移植と不妊治療	他人の臓器をもらって生きること、こどもを人為的に「つくる」こと。医療はだれを幸せにしようとしているのだろう。医療技術の進歩と私たちのいのちへの認識の「不確かさ」を考える。	亀井
8	命をいつくしむ看護とは	権利と尊厳、二つの違いから、その人らしさを大切にする支援の在り方を考える。	亀井
9	定期試験	試験	亀井

テキスト	参考書
特にありません。資料を配布します。参考図書を適宜紹介するので積極的に読んでください。	『不妊治療と出生前診断～温かな手で』信濃毎日新聞取材班　講談社文庫　2015年 『神谷美恵子　聖なる声』宮原安春　文春文庫　2001年 「重い障害を持つ赤ちゃんの子育て』 亀井智泉　メディカ出版　2008年

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
超重症心身障がい児であったわが子を看取った経験と長野県の小児医療、障害医療・福祉行政に携わる経験や信州大学小児科での教育経験を活かし、生命倫理の諸問題についての考え方等を具体的事例などを用いて教授する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
17	法と人権	1	15	必修	講義	1年後期	後藤泰一

科目概要	自由民主主義社会における法は、個人として基本的な権利を尊重された人々が共存していくための道具である。そのための大きな枠組が憲法であり、憲法に従った手続で制定される法律が、直接的に人々の生活を規律する。法律は、憲法の人権規定に反してはならず、人権規定を実現するべく制定される。この講義では、日本国憲法の原理とその下での法の態様について学ぶ。
到達目標	法の描く人間像・人間関係は、"人間の尊厳"という考えと密接に結びついている。"人権"の根拠もまた人間の尊厳にある。では、人権とは何か？個別的な人権を正しく理解することの重要性は高い。日本国憲法の下に多くの法(法律)が定められているが、身近な事例を通して、①法に共通する基礎概念を理解し、②具体的な法的紛争を通して「人権」という考え方をしっかり理解すること、がこの授業の到達目標である。このことを通して、"人間の尊厳"という考えを実感して欲しい。

DPとの対応

○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	・定期試験	100 %	オフィスアワー
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	時間：講義終了後
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	場所：講師控室
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎日、新聞を読んで頂きたい。新聞を取るか図書館で読むかどちらでもいい。政治・経済・法律等々、"印刷された文字"を学生時代に苦労して読むことが、授業への関心をいっそう高めると同時に期待される社会人への第一歩となる(「鉄は熱いうちに打て」)。前期開講科目の「日本国憲法」を履修していることが望ましい。
事後学習	今後、諸君は多くの国家試験や国家資格の勉強をし、数多くの法と向き合うことになる(これは社会人になっても続く)だろう。その際、重要なことは、法の背後に控える人権尊重とか法の理想とする人間関係(人間像)をしっかり理解することである。そのためには、普段の地道な事後学習(反復・復習)を欠かすことはできない。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	法とは何か？　法と道徳(その1)	車内に貼られた「お年寄りに席を譲りましょう」の標語、これも一つの社会的ルールといってよい。満員電車でお年寄りに席を譲らない若者がいるとする。さて、この若者はどうなる(どうする)だろうか。身近な出来事を取り上げて、世間の決まり(規範・ルール)、規範と法の違い、法と道徳の関係、そして、法とは何か等々法に係わる根本的な問題を考えてみよう。	後藤
2	法と道徳(その2)、法の存在形式(法源)のはなし	瀕死の状態でもがき苦しむ人がいるとする。この人を、死なせてやるか、頑張れと励ますか。どちらが道徳的か？法はどうする？　「終末期患者・・・・の命を縮め苦痛から解放するために致死薬を投与する行為・・・・を認めるべきか」(日本医師会『医師の職業倫理指針』)。難しい問題であるが、安楽死や自己決定権についても考えてみよう。	後藤
3	法の目的、権利と義務(その1)	ギリシャ神話のテミスは、正義・法・掟の女神とされ、手に秤と剣を持っている。正義の女神がなぜ殺傷のための剣を持っているのか。そもそも正義とは何か。「配分的正義と平均的正義」「実質的平等と形式的平等」を通して、正義の本質・実体に迫ってみよう。ついでに、悪法も法か？の問題(難問)に言及しよう。	後藤
4	権利と義務(その2)	法は主体と客体から成り立つという"法の基本構造"を説明した上で、法文(条文)の「S+O＋V」という話をしよう(誰も教えない条文の読み方の"コツ"の伝授といえる)。このことをしっかり理解すると、例えば、「愛犬に全財産を与える」という遺言が法的に効力を有するか否か(有効か無効か)、容易に判断できるようになるだろう。	後藤
5	法の適用と解釈(その1)	「理屈はそうだが、どうも結論がね・・・・」「勘定合って銭足りず」といった話を耳にしたことがあるだろう。法を杓子定規に適用した結果、国民感情・人情にもとる判決が出るようでは国民はたまったものではない。法の適用と解釈について考えてみよう。さらに、刑事裁判(犯罪)と民事裁判(損害賠償)の違いや人格権の侵害等にも触れてみよう。	後藤
6	法の適用と解釈(その2)	"社会の変化"と"法の対応"の関係につき、雲右衛門事件や大学湯事件等を題材にして、法の解釈・法の改正(立法)という視点から考えてみよう。さらに、「適用」と「準用」の違い、「推定する」と「みなす」の違い、「本文」と「ただし書」の関係、「無効」と「取消し」と「解除」の違い等のほか、法解釈の技術についても説明しよう。	後藤
7	法及び法学の分類	「法律や法制度・・・・は、永遠の病気のように遺伝して・・・・国から国へ・・・・その間には、正は邪となり、善は悪となる」「先生のお言葉で法律学がますますいやになりました・・・・私は神学でもやってみようと思いますが」(ゲーテ『ファウスト』)。そうはいっても、法や法制度の理解は不可欠である。高齢化社会と成年後見制度について理解を深めておこう。	後藤
8	基本的人権と自由について：人間の尊厳と人権の感覚	「自分とはなんのかかわりもない赤の他人が、そういう取扱いを受けていると聞いただけで、本能的・・・・肉体的に憤激をおぼえる気持ち、これが人権の感覚です。」(憲法学者・宮沢俊義先生)。この授業の最後に、新しい人権としての幸福追求権と自己決定権の関係、患者と医師のインフォームド・コンセント等について考えてみよう。	後藤
9	定期試験	試験	後藤

テキスト	参考書
特にない(プリントを配布する)。ただし、受講者は六法(最新版)必携(『ポケット六法』(有斐閣)をあげておく)。	授業中に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修条件**
なし	なし

留意事項	履修条件ではないが、上で触れたように(事前学習)、前期開講科目の「日本国憲法」を履修しておくことが望ましい。授業中の携帯電話等使用厳禁。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
18	家庭支援論	1	15	選択	講義	1年後期	高下梓

科目概要	家族の構造・機能について概説するとともに、現代社会における地域・家族の諸課題として、家族形態の多様化・少子化・国際化や子育てにおけるニーズを取り上げ、主要な施策を教授する。また、事例を通して家族が抱える様々な課題を多面的にアセスメントし、支援策を考えるための基本的スキルを習得する。
到達目標	1. 家族がもつ様々な機能について説明できる。 2. 個人と家族の発達過程を説明できる。 3. 家庭支援に関わる地域の資源を理解し、多職種と連携・協働する必要性を説明できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、配布資料の該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	1. 講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める。 2. 家庭に関わるニュースや地域における支援の取り組みを調べる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	家族を理解するための視点	社会における家族の位置づけと、家族の構造・機能を理解する。	高下
2	家庭の発達と個人の発達	エリクソンのライフサイクル理論と家族のライフサイクル理論を学び、家族成員と家庭の課題が時期によって変化することを理解する。	高下
3	家族形態とその多様化	家族形態の多様化を理解する。また、ひとり親・離婚・DVなどの状況における家庭のニーズと、国・自治体などによる支援体制を学ぶ。	高下
4	家族関係の記録方法	ジェノグラム・エコマップの記載方法を学び、事例を通して書き方を練習する。	高下
5	子育てをめぐる困難と支援	子育て家庭が抱える現代的な課題と、国・自治体などによる支援の取り組みを理解する。	高下
6	発達障害の子どもを育てる家庭への支援	発達障害の子どもを育てる家庭のニーズと、わが国における教育システムや支援機関について理解する。	高下
7	貧困・要保護家庭への支援	貧困・虐待等により支援を必要とする家庭の特徴と、国・自治体などによる支援の取り組みを学ぶ。また、貧困・虐待のサインを理解する。	高下
8	家族の国際化	外国につながる家庭の特徴と、国・自治体などによる施策や、支援方法を理解する。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
適宜指定する。	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わってきた教員が担当し、対象者理解や家庭支援について学びます。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
19	臨床心理学	1	15	必修	講義	1年前期	内藤美智子

科目概要	本講義ではこころの援助学としての臨床心理学を概説する。心理検査や面接・観察による人間を理解する方法の活用の仕方、援助の方法としての様々な立場の心理療法、様々な心理的症状や心理学的諸問題について学習し、看護場面における臨床心理学の応用について考える。
到達目標	1. 人間を理解する方法として面接・観察や心理検査について説明することができる。 2. 援助の方法として代表的な心理療法について説明することができる。 3. 今日的な心の問題を挙げ、原因・背景を説明することができる。 4. 看護場面における臨床心理学の応用について説明することができる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当部分を読んでおく。
事後学習	授業時に配布された資料に基づき復習し、指示された課題についてまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	こころの援助学としての臨床心理学	臨床心理学とは何か。その歴史と基本的な考え方を学ぶ。さらに看護師として臨床心理学を学ぶ意味について考える。	内藤
2	臨床心理学における人間理解 (1)観察・面接法	臨床心理学における人間理解の方法として行動観察について学ぶとともに、基本的な面接技法を身につける。	内藤
3	臨床心理学における人間理解 (2)心理検査法	臨床心理学における人間理解の方法として心理検査法について概観し、質問紙法・投影法の特徴や知能とパーソナリティのアセスメントについて学ぶ。	内藤
4	心理アセスメントの実際	質問紙法の代表であるYG性格検査を用いてアセスメントを体験し、看護職をめざす者として自身の性格を把握する。さらに「自分を知る」ことの意味・こころのケアを考える。	内藤
5	臨床心理学における援助法 (1)精神分析療法と行動療法	臨床心理学におけるさまざまな援助法について概観し、代表的な心理療法として精神分析療法と行動療法について学ぶ。	内藤
6	臨床心理学における援助法 (2)クライエント中心療法	さまざまな領域で活用されるクライエント中心療法について学び、非指示的な関わりで自己成長・治癒力を引き出すカウンセリング技法を理解する。	内藤
7	現代人が抱えるこころの病と臨床心理学	現代社会が生み出すこころの問題をとり上げ、その原因・背景を探り臨床心理学の視点から解決・改善について考える。	内藤
8	看護場面における臨床心理学の活用	看護職に求められる臨床心理学とは何か。患者のこころと向きあい看者理解を深めるためのカウンセリングマインドについて学ぶ。	内藤
9	定期試験	試験	内藤

テキスト	参考書
・岩壁茂『完全カラー図解 よくわかる臨床心理学』岩壁茂 (ナツメ社) 印刷教材を配布する。	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
臨床心理士としての心理臨床活動経験を活かし、臨床心理学の理論と実践・応用について講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
20	国際理解入門	1	15	選択	講義	1年後期	益山代利子

科目概要	現代の国際社会情勢に関心を持ち、異文化と自国の文化についての理解を深め、国際的な視野で物事を考える。
到達目標	① 異文化コミュニケーションの理論と技法を習得する。 ② 異文化への理解をはかりつつ、自国文化を他者に分かりやすく説明できる。 ③ 多文化共生についての理解を深め、違いを楽しみ、共に支え合う社会への意識を高める。

DPとの対応

○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	80 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %
・受講時の積極性、態度等	20 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間：講義終了後
場所：講師控室

事前学習	毎週の講義項目に関する資料を読み、関連するニュースや文献などを収集する。
事後学習	復習課題の小レポートをまとめて提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法、グループワークや自己紹介の技法、簡単な英語での自己紹介	益山
2	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーションのメタ理論と方法論	益山
3	異文化コミュニケーション	異文化体験でのトラブルとビジネスでの交渉術	益山
4	異文化理解	自己と他者、スピーチの国際比較	益山
5	異文化理解	ステレオタイプと偏見、国籍とアイデンティティ	益山
6	国際理解と多文化共生	日本の中の多文化社会、永住、帰化、移民、技能実習生の受入れ	益山
7	国際理解と多文化共生	地域の多文化共生活動の実際	益山
8	国際理解と多文化共生	看護師、介護福祉士の受入れと国際社会	益山
9	定期試験	試験	益山

テキスト	参考書
プリント教材	「異文化コミュニケーションのA to Z」小坂貴志著　研究者 「異文化理解力」エリン・メイヤー、ダイヤモンド社

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
外資系企業勤務経験、海外留学経験から、ビジネス現場での異文化理解を深める教育に注目する。	他者の意見を尊重しながら自身の意見を述べることができること。

留意事項	他の学生の迷惑になるため、講義中の私語や携帯電話の使用は禁止。 講義中はグループワークに主体的に参加すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
21	ボランティア論	1	15	選択	講義	1年後期	亀井智泉

科目概要	人、社会、自然と直接かかわるボランティアを通して、他者や社会に役立つことで喜びを感じ、祖成長する、人間としてごく自然な暖かい感情を育む。地域や社会の構成員としての自覚を確認し、相互に支え合うという意識を醸成する。学習意欲を高め、就職を含め将来の人生設計に役立てる。
到達目標	1. ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 2. 地域社会において看護の専門職としてボランティア活動の実践者として行動するための知識を持つ。 3. 他者理解と社会貢献、自己と他者を共に尊重するコミュニケーション力を身に着ける。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	40 %	時間：講義終了後 場所：講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	30 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎回、次の講義の資料を配布します。熟読して講義に臨んでください。
事後学習	講義後ミニレポートを課します。常に「自分には何ができるか」と、「今・ここで」求められているのは何か、を考えてレポートを書いてください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ボランティアとはどのようなものか	わが国で現在「ボランティア」と呼ばれているものはいつ、どのようにして生まれたのか。セツルメントや阪神淡路大震災のボランティアなどからその理念と歴史的変遷を学びます。また、学生諸君のボランティア体験やボランティアへの興味関心も把握したいと思います。	亀井
2	ボランティア活動の現状と課題	災害時、時として来ないでほしい、と言われるのはなぜなのか。ボランティアを提供する側、される側の齟齬はどこから来るのかを考えます。	亀井
3	新しい公共を創り出すボランティア活動	「協働」とは何かを明確にしながら政策としておこなわれるのではない住民サービスの創出方法とその効果的存続を考えます。	亀井
4	ボランティアのマネジメント	いつ、だれに、何のために、どのようにして、だれが行うのが良いのか。ボランティアを生かすマネジメントとコーディネートの重要性とその手法を学びます。	亀井
5	看護とボランティア	2019年の台風19号災害の際、看護が行ったボランティアの事例をもとに、看護職のボランティアを考えます。	亀井
6	他者理解とボランティア	ボランティアはプッシュ型の支援とは違います。他者の抱えている課題とニーズを「汲み取る」力を、事例を通して体感し、それを体得する方法を考察します。	亀井
7	地域社会とボランティア	共生型社会を目指すうえで、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンにボランティアはどのように作用するのか、地域づくりの視点から考えます。	亀井
8	まとめ：自分自身のボランティア	自分にできるボランティアは何か。自分のストレングスを把握して、他者とどうつながり、どう生かすのか。実際に考えてみましょう。	亀井
9	定期試験	試験	亀井

テキスト	参考書
特にありません。授業でその都度資料を配布します。	・かこさとし著『未来のだるまちゃんへ』（文春文庫　2016年） ・猪瀬浩平著『ボランティアってなんだっけ?』（岩波ブックレット） 『アフガニスタンの診療所から』中村　哲　ちくま文庫

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
患者家族団体として行政と協働し、長野県の医療的ケア児等支援体制を構築した経験を活かし、当事者や現場から創出される地域エンパワメントの在り方を教授する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
22	音楽療法	1	15	選択	講義	1年後期	山田真治

科目概要	音楽療法には、その名の通り「音楽」というアート(芸術)が深く関わる。しかし、芸術と言っても、普段身近にある音・音楽の存在も含み、"美"や"質の良さ"を極めるという観点だけではない形で人の感性と創造性に働きかける。音楽療法士は、音や音楽を通してクライアント／患者と関わり、彼ら(彼女ら)を理解し、関係を築くなかでサポートしていく。人と関わる目的で用いられる音楽は、緊張を解き、記憶や思い出に触れ、勇気付け、言葉を越えたコミュニケーションを可能にし、様々な感情を体験したり表現したりすることを手伝う。そのとき音楽はどのように存在し、音楽療法士が音・音楽を通して人と関わっていくのかを、オーディオや映像の臨床例を交えながら紹介する。
到達目標	1. 年齢に合った楽曲が選択できる。 2. リズム、メロディーによる効果が理解できる。 3. 対象者の身体状況等に合った楽曲が選択できる。 4. 音楽療法を行う上で、留意しなければならないことを踏まえながら、対象者に合った療法プランを立てることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	90 %	時間:講義終了後 場所:音楽室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	毎回授業時には次回の課題を提示するので必ず準備してくること。
事後学習	1. 授業で取り扱った楽曲については、歌いながら歌詞等を覚えるようにして下さい。 2. 幅広い年齢層が対象者なので日頃から音楽になれ浸しむようにしてより多くのジャンルの音楽に触れるよう心掛けて下さい。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	音楽療法の定義と理解	音楽療法とは何かを学び、その効果について理解する。	山田
2	「音・リズム」による反応効果	音の高低、様々なリズムを聴きながら身体に感じる反応の違 いを理解する。	山田
3	楽曲の選択方法	1. 楽曲選択基準について 2. 年齢について 3. 楽器の効果について　理解する。	山田
4	身体反応の効果	楽曲に合わせた手遊び表現、身体表現の実践をする。	山田
5	歌唱の効果　①	唱歌、童謡の背景をから創造力を高める。	山田
6	歌唱の効果　②	唱歌、童謡の背景をから記憶を取り戻す。	山田
7	歌唱の効果　③	唱歌、童謡の背景から感情移入を体験する。	山田
8	鑑賞の効果	メロディーの起伏、演奏形態(オーケストラ・ピアノ等)による感情の揺らぎの違いを体験し、考察する。	山田
9	定期試験	試験	山田

テキスト	参考書
・『音楽療法のための唱歌・童謡』(学術文芸出版) 授業時にプリントを配布する。	・『標準音楽療法入門』(春秋社) ・『元気のでる音楽療法』(ドレミ楽譜出版)

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
施設、病院での音楽療法の経験を持つ教員が、患者の事例を基に講義を行う。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
23	松本の歴史と文化	1	15	選択	講義	1年後期	木下　守

科目概要	日本人の伝統文化や生活様式に関する知識を知ることから、日本の伝統的な地域文化に関する知識を深める。さらに、松本の歴史から地域文化やその歴史的な成り立ちを学び、地域文化の理解を深め、さらに他の地域と比較することによって視野を広げる。また、地域社会を歴史的に理解するうえで、文化財の果たす役割にも着目する。
到達目標	松本の身近な地域の過去の出来事を、いくつかの資料をとおして学ぶことにより、松本の歴史と文化に興味と関心をもち、現在を考え、未来を考えていくことができる。

DPとの対応

○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	50 %	時間：講義終了後 場所：講師控室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	25 %	
・受講時の積極性、態度等	25 %	
・その他（　　）	0 %	
合計	100 %	

事前学習	1.『松本歳時記』（データ：https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/saijiki-s.pdf）を読む。 2. 家庭で行われる年中行事に注意するとともに、地域の伝統行事に参加する。 3. 近隣の文化財や博物館を訪ねる。
事後学習	1. 講義で疑問に思ったこと、面白いと感じたことを現地で調べてみる。 2. 講義にあったけれど経験したことがないことを家族や友人等に聞いてみる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	文化とは何か	「文化的」「文化圏」「文化祭」「文化包丁」などという言葉から、文化とは何か考える。	木下
2	文化財から見る松本の歴史	弘法山古墳や松本城、旧開智学校校舎などの文化財をとおして松本の歴史を概観する。	木下
3	祭りとは何か	祭りとは何か、御柱祭やお船祭りなど地域の特徴ある祭りの構造を通して考える。	木下
4	神社と寺院	日本人の信仰について、隣接する神戸神社と長照寺を見学しながら考える。	木下
5	石仏と道祖神	多くの石造物が見られる松本で石仏や道祖神とその作者である高遠石工について学ぶ。	木下
6	年中行事と植物	五節供を中心に、年中行事を彩る植物について学ぶ。	木下
7	年中行事と食	正月やお盆をはじめとする年中行事に伴う儀礼食から和食について考える。	木下
8	松本平の伝説	泉小太郎、あめ市、兎田、八面大王など、松本の伝説とその意義について考える。	木下
9	定期試験	試験	木下

テキスト	参考書
講義ごとに配布する資料	特になし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
松本市教育委員会で文化財保護と博物館活動に従事してきました。文化財保護では文化財がどのように市民の皆さんの役に立つのかを市民の皆さんとともに考え、博物館では松本市の歴史文化を学ぶことで郷土に誇りを持てるようにと活動してきました。授業では、学生が、将来患者さんと接する際に、コミュニケーションツールの1つとして活用できるように努めます。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
24	健康とスポーツ	1	15	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	伊藤真之助

科目概要	基本的な身体運動の仕組みを理解できていることを前提とし、さらにその知識を深めることを目標にする。また、高齢者に多い種々の関節痛に対して、その痛みや不安を和らげるエビデンスに基づいた方法を実践する。さらに、老若男女関係なく適度な運動量を確保できるニュースポーツを実践する。これらを通じて獲得した知識によって、医療人としてオリジナリティを持った人材となることも目標にする。
到達目標	1. 健康な生活習慣並びに予防医学の観点から必要な知識を習得し、実践する方法を理解することができる。 2. 幅広い年齢層への運動による心身への効果を理解し、広く関心を持つことができる。 3. 医療人として、運動に対する的確なアドバイスをすることができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	25 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	25 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 運動に対する自身が持っている"イメージ"を整理しておく。 2. 過去の運動経験から感じた物の整理をしていく。 3. 高齢者の運動能力についての事前学習を時肢位する。
事後学習	講義後は適宜出された課題にしっかりと取り組む。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス・健康・運動について	本講義のすすめ方の確認、運動に対する自身が持っている考えをレポートにする	伊藤
2	運動することの意義	これまでの身体活動についてを振り返り、自己体験を通じて、運動をすることの意義についての考察を行う 事前課題:運動に対する考えを考える 事後課題:運動することの意義に関して振り返る	伊藤
3	高齢者の身体活動 ①	加齢による心身の変化についての知識を深める 事前学習:加齢による心身の変化には何があるかを考える 事後学習:加齢におる心身の変化に対し、運動の意義を考える	伊藤
4	高齢者の身体活動 ②	高齢者の生活基本動作についての知識を深める 事前学習:高齢者の日常生活で必要な動きには何があるかを考える 事後学習:高齢者の日常生活における運動機能が果たす役割について考える	伊藤
5	小児の身体活動 ①	乳幼児から成長期までの成長過程での心身の変化についての知識を深める 事前学習:子どもの動きにはどんな特徴があるかを考える 事後学習:子どもにとっての運動の意義を考える	伊藤
6	小児の身体活動 ②	学童期における日常生活動作についての知識を深める 事前学習:学童期における日常生活動作について考える 事後学習:学童期における日常動作に運動機能が果たす役割について考える	伊藤
7	障がい者の身体活動	後天的障がいを持った人への運動意義について知識を深める 事前学習:後天的な障がいにはどんなものがあるか調べる 事後学習:後天的障がい者への運動意義について考える	伊藤
8	予防医学としての運動の役割	成人期における予防医学としての運動についての知識を深める 事前学習:成人期にはどんな身体的特徴があるかを考える 事後学習:予防医学としての運動の役割について考える	伊藤
9	定期試験	試験	伊藤

テキスト	参考書
適宜、資料を配布する。	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
理学療法士として病院にてリハビリテーション業務を経験した教員が講義を行う。	なし

留意事項	公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
25	体育実技	1	30	必修	演習	1年前期	伊藤真之助

科目概要	運動は Quality of life を上げる有力な方法である。運動が骨格筋や代謝に与える影響をスポーツを通じて理解して頂くことが主な目的である。
到達目標	1. スポーツ実践を通じて心身に与える影響を理解する 2. 周囲の仲間との共同して楽しむ能力をを持つことができる 3. 「できない」のではなく、「工夫して実践する」という視点を持つことができる

DPとの対応			成績評価基準			
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	0 %	オフィスアワー
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	時間:講義終了後
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	場所:講師控室
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	30 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(運動技能・運動理解)	70 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	様々な種目の運動・スポーツについてのルールや道具についての知識を理解しておく。
事後学習	それぞれの種目における必要な身体機能・チーム内の役割などを理解し、広く運動に関心をもつ。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	授業の進め方・道具やルールの説明・チーム分けなど	伊藤
2	バスケットボール ①	ドリブル・パス・シュートなどの基本的な動作を理解し実践する	伊藤
3	バスケットボール ②	基本的な動作を応用し、ゲーム形式での試合を実施する	伊藤
4	バスケットボール ③	ゲーム形式での実践を行い、チーム内での作戦や役割分担の重要性を理解する	伊藤
5	バスケットボール ④	様々な疾患を持った方の視点に立ち、バスケットボールを実践体験する	伊藤
6	バスケットボール ⑤	車いすを使用したバスケットボールを実践体験する	伊藤
7	バレーボール ①	サーブ・レシーブ・トスなどの基本的な動作を理解し実践する	伊藤
8	バレーボール ②	スパイク・ブロックなどの試合に必要な動作を理解し実践する	伊藤
9	バレーボール ③	基本的な動作を応用し、ゲーム形式での試合を実施する	伊藤
10	バレーボール ④	ゲーム形式での実践を行い、チーム内での作戦や役割分担の重要性を理解する	伊藤
11	バレーボール ⑤	様々な疾患を持った方の視点に立ち、バレーボールを実践体験する	伊藤
12	フットサル ①	フットサルのルール・ドリブル・パスなどの基本的な動作を理解し実践する	伊藤
13	フットサル ②	フットサルにおける基本的な動作を応用し、チーム内の役割を理解する	伊藤
14	フットサル ③	基本的な動作を応用し、ゲーム形式での試合を実施する	伊藤
15	フットサル ④	ゲーム形式での実践を行い、チーム内での作戦や役割分担の重要性を理解する	伊藤

テキスト	参考書
適宜、資料を配布する。	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修条件
個人またはチームに対し、トレーナー・理学療法士としてトレーニング指導を経験した教員が授業を行う。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
26	教養ゼミナール	1	30	必修	演習	1年前期	小林たつ子/今井栄子/金子潔子/三輪憲永/百瀬ちどり 原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/小林由美/関永信子 横山芳子/山下恵子/伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ 塩澤綾乃/奥原香織/○高下梓

科目概要	大学で学ぶということ、看護の専門教育を受けるということの意味を考え、生涯にわたり主体的・積極的に学び続ける態度を養うためのスタディスキルを修得する。また、グループメンバーや教員の人生体験などに触れながら、広く本学の地域性にも目を向けて自由に探究し、学生主体で調査テーマを決めて調べ学習やグループ討議を行い、その成果を発表する。
到達目標	1. 大学で学ぶことの意味について自己の考えを述べることができ、その具体的な学び方を考えることができる。 2. 看護の専門教育を受けることの意味を考え、自己の興味・関心を表現することができる。 3. 大学図書館の利用および文献検索の方法を理解し、主体的な学習に活用することができる。 4. レポートの書き方、ノートの取り方、資料の保管の仕方などのスタディスキルを身につける。 5. パソコンの操作やインターネットにおける情報収集の利点と注意点を説明できる。 6. グループ討議の進め方とマナーを身につけ、実行できる。

DPとの対応

○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	
○	2. 主体的行動力	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	
○	4. 課題発見能力と課題解決力	
	5. 看護の知識と看護実践力	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	0 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	60 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(グループ活動及び発表)	40 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 事前課題は必ず行い提出する。 2. グループ討議では、自分の考えを積極的に発言できるよう準備をしておく。
事後学習	1. 学んだスタディスキルを日々の学生生活に活用する。 2. 看護の諸領域や地域の健康保健に関心をもち、ニュースや疑問点を調べる。 3. グループ活動を通して得られた情報や成果をまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	大学生活について考える	4年間のスケジュールを確認し、大学生活の見通しをもつ。グループごとに交流を深めるとともに、大学生活の疑問点や、高校と大学との違いを確認し、大学で学ぶことの意義を考える。	担当教員全員
2	大学での学び方	授業の受け方、ノートの書き方、資料の整理方法等を学ぶ。	高下/三輪
3	資料の探し方	図書館司書より図書館の利用方法と、文献検索の方法を学ぶ。また、文献引用のマナーを確認する。	高下/三輪
4	レポートの書き方	レポートの構成や書き方を学ぶ。指定テーマについて、自身の考えを文章化する。	三輪/高下
5	グループ討議・プレゼンテーション	グループ討議のマナーと、プレゼンテーションの行い方を学ぶ。小グループに分かれて探求テーマのアイデアを出し合う。	高下/三輪
6	グループ別の探究テーマの決定	小グループに分かれてグループ別に取り組む探求テーマを話し合い、決定する。	高下/三輪
7	看護師の仕事と基礎看護学および地域・在宅看護学を知る	看護師のキャリアイメージをもつとともに、基礎看護学領域および地域・在宅看護学領域について理解する。	小林た/金子/関永 伊藤/高下/三輪
8	成人看護学および老年看護学を知る	成人看護学領域(急性期・慢性期)および老年看護学領域について理解する。	今井/鮎川/百瀬 近藤/垣内 高下/三輪
9	小児看護学および母性看護学を知る	小児看護学領域および母性看護学領域について理解する。	小林由/山下/塩澤 奥原/三輪/高下
10	精神看護学および公衆衛生看護学を知る	精神看護学領域および公衆衛生看護学領域について理解する。	原岡/藤川/横山 三輪/高下
11	探求テーマの文献検索	グループ別に取り組む探求テーマについて、文献検索を通して先行研究を確認する。	高下/三輪
12	探求テーマの調べ学習と情報整理	グループ別に取り組む探求テーマについて、調べ学習を通して情報を収集・整理する。	三輪/高下
13	発表資料の作成	グループ別に取り組む探求テーマについて、報告資料・プレゼンテーション資料をまとめる。	三輪/高下
14	全体発表会①	グループで取り組んだ探究テーマについて、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	担当教員全員
15	全体発表会②	グループで取り組んだ探究テーマについて、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	担当教員全員

テキスト	参考書
担当教員が必要時、紹介する。	担当教員が必要時、紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
27	連携ゼミナールⅠ(キャリアデザイン)	1	30	必修	演習	2年前期	小林たつ子/今井栄子/金子潔子/三輪憲永/百瀬ちどり 原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/小林由美/関永信子 横山芳子/山下恵子/伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ 塩澤綾乃/奥原香織/○高下梓

科目概要	看護職が専門性を追求していくキャリア開発について理解し、自己を活かすためのキャリアデザインの醸成を目的とする。教員や地域で活躍する専門家の話を通して、自身が目指す看護師像を形作るとともに、将来の自律的なキャリア開発のために学生が立案した計画に沿って情報を収集・整理し、その成果を発表する。
到達目標	1. 専門性の高い看護職の役割について調査し、自己のキャリアデザイン形成を考えることができる。 2. 色々な分野で活躍する看護職業人の生き方・考え方を通して、自らのキャリアを考えることができる。 3. 本県および当地域の特性を理解し、ジェネラリストとしてまたスペシャリストとして地域特性に根差した医療活動を理解し、自己を活かしたキャリアデザインの方向づけができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	0 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	60 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループ活動及び発表)	40 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 事前課題に取り組む。 2. グループ討議の場で、自分の考えを積極的に発言できるよう準備をしておく。
事後学習	1. 個別学習の回は、授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。 2. グループ学習の回は、次回までに必要な作業(分担内容)に取り組む。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業オリエンテーション 社会人基礎力	授業オリエンテーションを行う。社会人に求められる力を確認する。1年次の学習内容を振り返って自己分析し、今後伸ばしたい力・目標を考える。	高下/三輪
2	看護の様々なキャリアに触れる①	教員の職業経験を聴講し、自分のキャリアのイメージを作る。	小林た/金子/鮎川 横山/伊藤/垣内 三輪/高下
3	看護の様々なキャリアに触れる②	教員の職業経験を聴講し、自分のキャリアのイメージを作る。	百瀬/小林由/藤川 山下/近藤/塩澤 奥原/三輪/高下
4	地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答①	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。	特別講師/伊藤 三輪/高下
5	看護の様々なキャリアに触れる③	①救急・災害看護 ②在宅看護 ③公衆衛生看護 の各分野の活動とそこで働く看護専門職の活動について聴講する。	今井/原岡/関永 三輪/高下
6	地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答②	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。	特別講師/伊藤 三輪/高下
7	地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答③	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。	特別講師/伊藤 三輪/高下
8	グループ活動①	少人数グループで、看護のキャリアに関する探求テーマを決め、学習計画を立てて活動を展開する。	高下/三輪
9	グループ活動②	グループごとの学習計画にそって活動を展開する。	高下/三輪
10	グループ活動③	グループごとの学習計画にそって活動を展開する。	高下/三輪
11	グループ活動④	グループごとの学習計画にそって活動を展開する。	高下/三輪
12	グループ活動⑤	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、資料作成、報告会の進行等)	高下/三輪
13	グループ活動⑥	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、資料作成、報告会の進行等)	高下/三輪
14	全体報告会及びまとめ①	グループで取り組んだ調査研究について、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	担当教員全員
15	全体報告会及びまとめ②	グループで取り組んだ調査研究について、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	担当教員全員

テキスト	参考書
担当教員が必要時、紹介する。	担当教員が必要時、紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
28	連携ゼミナールⅡ(卒業研究の基礎)	1	30	必修	演習	3年前期	○小林たつ子/今井栄子/金子潔子/三輪憲永/百瀬ちどり 原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/小林由美/関永信子 横山芳子/山下恵子/伊藤寿満子/近藤恵子/三沢緑 垣内いづみ/塩澤綾乃/奥原香織/高下梓

科目概要	教養ゼミナール、連携ゼミナールⅠで学んだことを基盤に、またこれまで学んできた看護とは何かを追求してきた中から、身近な興味・関心の課題を明確にする。研究方法論での学びを活かし、研究テーマの絞り込み、研究目的、研究方法、結果、考察、結論のプロセスを文献研究等を通し、グループメンバーと協力し合いながら卒業研究につながる能力を修得する。
到達目標	1. 自己の関心のあるテーマとその理由を述べることができる。 2. グループメンバーと協力して、調査を結果にまとめ、結果に基づいて考察をまとめることができる。 3. 卒業研究を行うための準備性が述べられる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	0 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
・その他(ゼミ活動(レポート含む))	60 %	
・その他(報告会及び最終レポート)	20 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 事前課題は必ず行い提出する。 2. グループ討議では、自分の考えを積極的に発言できるよう準備をしておく。
事後学習	ゼミ活動終了後に、ゼミ毎の目標が達成できたかどうか、検討する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業オリエンテーション	①授業オリエンテーション ②各自が学修の中で、疑問や興味・関心などの課題について発表する ③発表内容を基に、各自どこにどのように興味関心をもったかを考えて次回持ち寄る	担当教員全員
2	ゼミ活動(テーマの絞り込み①)	・前回の宿題から各々が発表し、相互に疑問や質問などを出し合い、興味・関心のあった点を話し合い、取り組み課題を決定する ・テーマの絞り込みをする(話し合いや文献検索が必要となる)	各担当教員
3	ゼミ活動(テーマの絞り込み②)	・前回の宿題から各々が発表し、相互に疑問や質問などを出し合い、興味・関心のあった点を話し合い、取り組み課題を決定する ・テーマの絞り込みをする(話し合いや文献検索が必要となる)	各担当教員
4	ゼミ活動(活動計画の立案、研究方法の決定①)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
5	ゼミ活動(活動計画の立案、研究方法の決定②)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
6	ゼミ活動(研究データの取集)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
7	ゼミ活動(研究データを分析し結果としてまとめる)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
8	ゼミ活動(研究データを分析し結果としてまとめる①)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
9	ゼミ活動(研究データを分析し結果としてまとめる②)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
10	ゼミ活動(考察をまとめる①)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
11	ゼミ活動(考察をまとめる②)	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	各担当教員
12	ゼミ活動(研究成果を研究論文の形式でまとめる①)	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、報告書作成、報告会の進行等)	各担当教員
13	ゼミ活動(研究成果を研究論文の形式でまとめる②)	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、報告書作成、報告会の進行等)	各担当教員
14	ゼミ活動①	研究成果を報告書としてまとめ、報告会を行う	担当教員全員
15	ゼミ活動②	研究成果を報告書としてまとめ、報告会を行う	担当教員全員

テキスト	参考書
ゼミ担当教員が必要時、紹介する。	ゼミ担当教員が必要時、紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
29	研究入門	1	15	必修	講義	1年後期	小林たつ子

科目概要	学問を追求していく学修姿勢の基本として、疑問や問いを持つことから始まる事象を研究テーマとして絞り込み、研究としてのプロセスと取り組み方を理解する。文献検索、文献の整理、研究ノート、研究目的、デザイン、研究計画、研究倫理申請等の基本的な要点を理解し、研究への興味関心を醸成する。
到達目標	1. 自分の身近な疑問から、小さな研究テーマを考えることができる。 2. 図書館で必要な文献検索ができる。 3. 身近な疑問のテーマから明らかにしたいことの1点について研究計画書を作成できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	60 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	40 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー

時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	授業毎に提示する。
事後学習	毎回の授業内容を踏まえて個人で行ない次の時間に持参する。その積み重ねのレポートを最後に提出し課題学習とする。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス研究とは何か	研究とは何か。 看護における研究の意義　ナイチンゲールの鶏頭図の研究から	小林た
2	研究テーマの絞り込み	研究テーマを書きだしてみる。研究課題が絞れているか。 何を明らかにしたいかが明確になっているかを考える。	小林た
3	関連文献検索	関連する文献を見つける。 文献検索の仕方(特に医中誌を中心に) 文献を読んで文献カードを作ってみる。	小林た
4	研究計画書作成(1)	論文の文献を基に、質的研究、量的研究とはとその特徴について学ぶ。 研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	小林た
5	研究計画書作成(2)	研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	小林た
6	研究計画書作成(3)	研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	小林た
7	結果・考察(1)	文献論文より結果の読み方、まとめ方を学ぶ。 文献論文より考察の意義と書き方を学ぶ。 文献より結論の出し方表現について学ぶ	小林た
8	まとめ　発表会	まとめ　　みんなで発表会をする。	小林た
9	定期試験	試験	小林た

テキスト	参考書
・坂下玲子著『系統看護学講座　別巻　看護研究』(医学書院)	・南優子『看護における研究(第2版)』(日本看護協会出版会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護研究の必要性と研究疑問を解くための基礎知識とプロセスについて指導する。	なし

留意事項	1. 最初から完璧にはできないが頑張ってすることが重要であるので、最後まで粘り強く取り組むこと。 2. 3年次の授業の研究方法論で、本授業で使用した資料等を使うので保管をしておくこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
30	研究方法論	1	15	必修	講義	2年後期	○今井栄子/三輪憲永

科目概要	看護研究の意義と目的について理解し、看護研究を行うための基礎的知識を身に付ける。また、具体的な研究論文に触れつつ、各種の研究方法を学び、研究の活用と可能性について考察する。
到達目標	1. 看護実践にとって研究の重要性が理解できる。 2. 研究のプロセスとそれぞれの作法が分かる。 3. 自己の疑問から研究テーマが絞り込める 4. 研究計画書が書ける。 5. 卒業研究に移行できる糸口ができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験(研究計画表提出)	100 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー

時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	授業の課題は必ずやってくること。
事後学習	教科書、配布資料を使って復習を行う。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス 第1章　看護における研究の役割	看護における研究の役割 研究とは何か　看護における研究　看護における倫理の考え方　研究対象者の権利と倫理審査体制	今井／三輪
2	第2章　研究過程の概観	研究課題の選択　研究課題と概念枠組みの明確化 研究方法の選定　研究データの収集・分析	今井
3	第3章　文献検討(検索) 尺度の信頼性と妥当性	文献検索に(検索の意義)　資料と活用の仕方　文献の読み方　文献の整理方法　文献検討の構成と記述	三輪
4	第4章　概念枠組みと仮説 第5章　研究デザイン	概念枠組みと仮説設定の必要性　概念枠組みの構築　変数の明確化　仮説の設定 研究過程における研究デザインの位置づけ　研究デザインの種類　実験研究　仮説検定型研究　実態調査研究　事例研究　方法論的研究 参加法　質問用紙と面接法	今井
5	第7章　データの収集　第8章　データの分析	データの収集　母集団とは　標本抽出　データの収集方法 データの分析とは　データの集計　記述統計　推定統計　コンピューターのデータ分析方法	今井
6	第9章　研究結果の活用　第10章　質的・帰納的研究　第11章学生が取り組んだ看護研究のプロセス	研究計画書作成までのプロセス	今井
7	研究計画書の作成	研究計画書作成	今井
8	研究計画書の作成	研究計画書作成	今井
9	定期試験	研究計画書作成提出　定期試験	今井/三輪

テキスト	参考書
・南裕子他『看護における研究(第2版)』(日本看護協会出版会)	・小玉香津子・翰湖史子訳『看護研究計画書 作成の基本ステップ』(日本看護協会出版会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院等での研究経験がある教員が、看護研究を行うための各種研究方法と論文としてまとめるための基礎知識を指導をする。	なし

留意事項	1. 自分の疑問をいくつか持っていることが必要ですので、日頃から疑問を探しておくこと。 2. 1年次の授業の研究入門の資料も活用するので保管しておくこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
31	言語と表現	1	15	選択	講義	1年前期	行田輝廣

科目概要	地域社会の暮らしのことばである「方言」と、メールや手紙を含めた「敬語」を中心に日本語について学習し、社会人として適切な言語表現を身につけることを目的とする。講義では、①病院で聞かれる「方言」には、地域に暮らす患者(特に高齢者)の率直で端的な思いが込められていることを説明する。②敬語の種類やルールについて説明し、ケーススタディによって、話し言葉・書き言葉の敬語を学習する。最終的には人と人がお互いの意思を伝え合い、理解し合うために有効な手段である『ことば』について理解を深め、『ことば』を用いて過不足のない表現ができるようになることを目指す。
到達目標	1. 日本語の基礎を学び、相手に分かり易く、正確に伝わる文章を書くことができる。 2. 方言や敬語の基礎を学び、相手と場に応じた効果的なコミュニケーションができる。 3. 相手に説明したり説得したりするための言語表現や方法を身につけることができる。

DPとの対応

		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
		2. 主体的行動力
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
		4. 課題発見能力と課題解決力
	○	5. 看護の知識と看護実践力
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	50 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %
・事前/事後学習の課題、レポート	20 %
・受講時の積極性、態度等	10 %
・その他( )	0 %
合計	100 %

オフィスアワー

時間:講義終了後
場所:講師控室

事前学習	テキストの内容を把握するとともにActivity(問題)を読み、Follow- upの問いを解き、前提となる素地力を高める。
事後学習	テキストのWork、「課題シート」を見返し、既習内容の定着を図る。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 言語環境を考える	1 講座の目的・内容 2 日本語表現の特徴 ○Work1～3 3 心を伝える方法 ○Work10 「自己PR課題シート②」 ○Work10(Follow up) ・課題シート①	行田
2	「伝え合い」を考える	1 自己PR発表会 2 分かり易いスピーチの仕方と評価 ○課題シート②	行田
3	挨拶と人間関係を表す言葉を考える	1 社会におけるあいさつのはたらき 2 くだけた話し方、改まった話し方 ○Work10、11(Follow up)・課題シート③	行田
4	方言・敬語の役割を考える	1 敬語・方言の役割と種類 ○Work12(Follow up) ・課題シート④及び見返し課題シート③	行田
5	場に応じた方言・敬語を考える	1 敬語・方言を使って話す ○Work13(Follow up) ・課題シート⑤及び見返し課題シート④	行田
6	場に応じた方言・敬語を考える	1 方言の効用 2 敬語を使って書く ○Work12、13(Follow up) ・課題シート⑥及び見返し課題シート⑤	行田
7	実用的文章の特徴を考える	1 伝統的な手紙の形式、E-mailの特徴と書き方 ○Work8、9(Follow up) ・課題シート⑦及び見返し課題シート⑥	行田
8	伝えるための論理や方法を考える	1 アサーションスキルを学ぼう ○16(Follow up) 2 相手に説明したり、説得したりする効果的な方法 ○Work18(Follow up) ・課題シート⑧及び見返し⑦	行田
9	定期試験	試験	行田

テキスト	参考書
・石塚修、今田水穂、大倉浩、小針誠、島田康行、田川拓海、那須昭夫著『日本語表現&コミュニケーション 改訂版(社会を生きるための22のワーク)』(実教出版)	・池上 彰著『わかりやすく〈伝える〉技術』(講談社現代新書 2009年) ・外山滋比古著『思考の整理学』(ちくま文庫 1986年)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
中学校・高等学校での国語教育の経験を活かして、講義を行う。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
32	キャリア形成論	1	15	選択	講義	4年後期	宮坂佐和子

科目概要	コミュニケーションに関わる心理学の基本的知識を習得し、コミュニケーションに関する自己理解・他者理解を通してよりよいコミュニケーションに向けての自己課題を検討する。 また、看護の様々な場面・対象者とのコミュニケーションや支援のあり方について、事例・ロールプレイを題材に討議・検討する。
到達目標	1. 自分自身の特徴を多面的に理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。 2. 他者理解の多様な観点を理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。 3. 看護の場面におけるコミュニケーションの特徴と配慮事項を説明できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間：講義終了後 場所：講師控室
○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する。 2. 事前課題は必ず行い提出する。 3. 演習に必要な事前学習・課題がある場合は、演習前に提示する。
事後学習	講義後は事後課題を行ない指示された日時に提出をする。提出期限を遵守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	「看護職を志したきっかけ」についてレポートし、グループで共有する。	宮坂
2	職業としての看護の確立 専門職とは何か	①職業としての看護の始まり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の発展 ⑤職業としての看護の新たな展開についての講義	宮坂
3	看護職の資格と養成および教育制度	看護基礎教育、看護職者の就業状況と継続教育についての講義	宮坂
4	看護職のキャリア形成①	看護職の技能修得段階（ベナー看護論）、新人看護職員研修制度、キャリアラダーについての講義	宮坂
5	看護職のキャリア形成②	看護職のキャリアデザインとワークライフバランスについての講義	宮坂
6	看護職のキャリア形成③	ジェネラリストスペシャリストの役割と、キャリア発達・キャリア開発の多様性についての講義	宮坂
7	より専門性が高い看護職の養成と活用	専門看護師制度、認定看護師制度、認定看護管理者制度、特定行為研修制度、診療看護師の養成と活用について、実践例の講義	宮坂
8	自分のキャリアプラン	自分のキャリアプランを考えて、レポートにまとめる。	宮坂
9	定期試験	試験	宮坂

テキスト	参考書
・茂野香おる編『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①』(医学書院) ・上泉和子編『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①』(医学書院)	・『新人看護職員研修ガイドライン』(厚生労働省) ・『ベナー看護論：達人ナースの卓越性とパワー』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護総責任者として実務経験がある教員が、専門職として成長するプロセスとキャリア形成に必要な条件について知識と考え方を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
33	形態機能学Ⅰ (細胞組織・骨筋系・神経系)	2	30	必修	講義	1年前期	岳鳳鳴

科目概要	看護の構成要素である人間の構造と機能の基礎を学ぶために、人体の構造と機能について学ぶ。生命維持のために分子・組織・器官・個体のそれぞれのレベルにおいてどのようなことが営まれているかを学ぶ。具体的には、組織構造の基本、ゲノム、遺伝子と細胞と組織、血液、造血器機能について学ぶ。続いて、看護の基礎となる人体の構造とその体系を学ぶ。具体的には、骨格系、筋系、消化器系、の構造と機能について学ぶ。
到達目標	1. 人体を構成する細胞の構造・それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造と機能を説明できる。さらに、それぞれの器官系が連動しながら人体の構成を理解して説明できる。 2. 血液・造血系の構造と機能を説明できる。 3. 骨格系の構造と機能を説明できる。 4. 消化器系の構造と機能を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	業終了時、次回までの自己学習の範囲とその課題を伝えるので、事前学習をして授業に臨んでください。
事後学習	毎回、授業の終わりに、本日の授業の要点について質問を行いますので、説明できるようにテキストの該当箇所を必ず復習してください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	総論 (人体とは)	人体各部の区分、人体の構成(遺伝子・細胞・組織・器官・系統)	岳
2	人体を造る4つの組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	岳
3	体液	体液の組成、体液のバランスと生命維持、酸・塩基平衡と電解質異常、組織間液とリンパ	岳
4	血液・造血Ⅰ	血液の組成、血球の分化と成熟、赤血球の構造と機能、貧血、ヘモグロビンの構造と機能、ビリルビンの腸肝循環と黄疸	岳
5	血液・造血Ⅱ	白血球、血小板の構造と機能、止血、凝固と線溶の機序、血液型	岳
6	運動系 骨格Ⅰ	人体の骨格の構造と機能、骨の発生と成長	岳
7	運動系 骨格Ⅱ	各骨格の名称と構造	岳
8	運動系 骨格筋Ⅰ	関節の構造と種類、各骨格筋(体幹)の名称と機能	岳
9	運動系 骨格筋Ⅱ	各骨格筋(体肢)の名称と機能	岳
10	運動系 関節と運動	骨格筋と運動、随意運動・不随意運動、脊椎反射、単収縮と強縮、等尺性収縮と等張性収縮	岳
11	消化器Ⅰ:消化器系総論 歯・口腔	消化器系の概要、消化の過程、腹膜と臓器の関係、歯・口腔の構造と機能	岳
12	消化器Ⅱ:咽頭・食道・胃	咽頭・食道・胃の構造と機能,食欲中枢、咀嚼	岳
13	消化器Ⅲ:小腸・大腸	小腸・大腸の構造と機能、排便の機序	岳
14	消化器Ⅳ:肝臓・胆嚢	肝臓・胆嚢の構造と機能	岳
15	消化器Ⅴ:膵臓、消化と吸収	膵臓の構造と機能、タンパク質・脂質・糖質の消化と吸収	岳
16	定期試験	試験	岳

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)	・人体の正常構造と機能(日本医事新報社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
医師としての病院での勤務経験を活かして、形態機能学について講義する。	なし

留意事項	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
34	形態機能学Ⅱ (呼吸・循環・消化器・泌尿器系)	2	30	必修	講義	1年後期	奥村　雅代

科目概要	「形態機能学Ⅰ」に引き続き、看護学の構成要素である人体の構造と機能の基礎について学ぶ。具体的には、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系の構造について学び、さらにそれらの器官が果たす機能について、呼吸と血液の働き、血液の循環、および体液の調節などに焦点を当てて理解を深め、健康維持のために果たす機能の基礎知識を学ぶ。
到達目標	1. 循環器系の構造と機能を説明できる。 2. 呼吸器系の構造と機能を説明できる。 3. 泌尿器系の構造と機能を説明できる。 4. 生殖器系の構造と機能を説明できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	70 %	オフィスアワー
・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	時間:講義終了後
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	場所:講師控室
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(　　)	0 %	
合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	テキストの該当箇所を熟読する。授業終了時、次回までの自己学習の範囲とその方法を伝えるので、事前学習をして授業に臨んでください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	循環器系	循環器系の構成	奥村
2	循環器系	心周期	奥村
3	循環器系	末梢血管の構造、胎児の血液循環	奥村
4	循環器系	循環の調節機構	奥村
5	呼吸器系	呼吸器系の構成	奥村
6	呼吸器系	肺呼吸と内呼吸	奥村
7	呼吸器系	呼吸気量、ガス交換とガスの運搬	奥村
8	呼吸器系	呼吸運動の調節機構	奥村
9	泌尿器系	泌尿器系の構成	奥村
10	泌尿器系	尿細管と糸球体傍装置の構造と機能	奥村
11	泌尿器系	排尿路の構造と機能	奥村
12	泌尿器系	蓄尿と排尿	奥村
13	生殖器系	男性生殖器	奥村
14	生殖器系	女性生殖器	奥村
15	生殖器系	受精と胎児の発生、誕生	奥村
16	定期試験	試験	奥村

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
35	形態機能学Ⅲ (内分泌・免疫・生殖・感覚器系)	1	30	必修	演習	1年後期	田所治

科目概要	内分泌系、神経系、感覚系、皮膚の構造と機能を学ぶ。組織標本等の見学実習等を行い、実習後、形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容との統合を図る。この講義を通して、知識の修得統合とともに、人間の尊厳について考える。
到達目標	1. 内分泌系の構造と機能を説明できる。 2. 神経系の構造と機能を説明できる。 3. 感覚器系の構造と機能を説明できる。 4. 皮膚の構造と機能を説明できる。 5. 生体の防御機構を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	テキストの該当箇所を熟読する。授業終了時、次回までの自己学習の範囲とその方法を伝えるので、事前学習をして授業に臨んでください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	内分泌系	自律神経と内分泌器官の機能	田所
2	内分泌系	視床下部、下垂体	田所
3	内分泌系	甲状腺、副甲状腺	田所
4	内分泌系	膵臓、副腎	田所
5	内分泌系	性腺、消化管のホルモン	田所
6	神経系	神経系の全体像と分類	田所
7	神経系	中枢神経系の構造と機能	田所
8	神経系	末梢神経系の構造と機能	田所
9	感覚器系	眼の構造と視覚	田所
10	感覚器系	耳の構造と聴覚・平衡覚	田所
11	感覚器系	味覚器と味覚、嗅覚器の構造と嗅覚	田所
12	皮膚	皮膚の構造と機能	田所
13	生体防御	非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構(免疫)	田所
14	解剖学実習見学	人体の各器官の形態と位置　見学	田所
15	形態機能学まとめ	形態機能学のまとめ	田所
16	定期試験	試験	田所

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)	なし
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
36	生化学	2	30	必修	講義	1年後期	川上 由行

科目概要	近年の生化学の進歩により、生体での各現象を生体分子の構造やその変化の過程として具体的に把握できつつある。これらの詳細な理解には生命現象の本質的な部分について、生化学を体系的に理解しておくことが重要となる。更に、これらを踏まえた上で看護において特に必要な生化学的知識を身につける。
到達目標	生命体の正常な仕組みや機能が破綻した状態である病気を、正しい理解へと繋ぐために必須である生化学の基本的事項について、自らの言葉で説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他( )	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。
事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。 また、疑問点は、質問して下さい。 そして、その日のうちに理解するように努めてください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	看護・医学の基礎専門科目としての生化学	医学・看護学における生化学の役割、生体分子と細胞の構造と機能	川上
2	代謝の基礎と酵素・補酵素	代謝と生体のエネルギー、酵素の構成とアイソザイム、水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン	川上
3	糖質の構造と機能	三大栄養素における糖質、単糖・二糖・多糖・ホモ多糖・ヘテロ多糖・複合多糖の構造と機能	川上
4	糖質代謝	解糖系、TCAサイクル、電子伝達系、ATP、糖新生、ペントースリン酸回路	川上
5	脂質の構造と機能	三大栄養素における脂質、単純脂質と複合脂質、飽和・不飽和脂肪酸、必須脂肪酸、コレステロール・リポタンパク とメタボリックシンドローム	川上
6	脂質代謝	脂質の消化と吸収、中性脂肪の分解、β酸化、ケトン体、エイコサノイド、脂肪酸の合成	川上
7	タンパク質の構造と機能	三大栄養素におけるタンパク質、必須アミノ酸、分枝アミノ酸、ペプチド結合、一次構造と二次構造、αヘリックスとβシート構造	川上
8	タンパク質代謝	タンパク質の消化と吸収、糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸、グルコースアラニン回路、尿素の生成αケト酸の生成と代謝、尿素の生成、アミノ酸からの含窒素化合物合成	川上
9	アミノ酸の置換と新型コロナウイルスの進化	ヒトのみならずウイルス粒子に於いても同様なアミノ酸同士のペプチド結合を基盤とするタンパク質、タンパク質・アミノ酸のまとめとして、ウイルス粒子の構成タンパク質に注目し、オミクロン株などの新型コロナウイルスの変異(進化)の要点のみを解説する	川上
10	ポルフィリン代謝と異物代謝	ポルフィリンの構造、ヘムを含む生体分子、ヘムの分解rとビリルビン代謝、生体異物としてのアルコールの分解	川上
11	遺伝子と核酸	セントラルドグマ、メンデル遺伝学、遺伝子の本体としてのDNA、ヌクレオシド・ヌクレオチドの合成と分解、コドンとアミノ酸	川上
12	遺伝子の複製	DNAの複製の開始、寿命とテロメア、DNA損傷、修復、組換え、遺伝子の変異(サイレント変異・ミスセンス変異・ナンセンス変異:フレームシフト変異)	川上
13	転写とRNAプロセシングと翻訳後の修飾	転写の開始とRNA鎖の伸長、RNAのプロセシング(キャップ構造の付加、RNAスプライシング、ポリ鎖の付加)、オペロン調節、エピジェネティック修飾、翻訳、シャペロン	川上
14	細胞のシグナル伝達としてのホルモン	ホルモンの受容体とフィードバック調節、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、抹消ホルモン	川上
15	国家試験の動向からみる基礎専門科目としての生化学	看護師国家試験における実際の出題例を提示し、専門基礎分野としての「生化学」での学びを復習する	川上
16	定期試験	試験	川上

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』(医学書院)	毎回の配付プリント資料
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
臨床現場からの症例相談を受け、各症例について生化学的側面からの解析を行い、年に数編の論文を発信してきている。また、原因病原体の生化学的性状・遺伝学的性状を解析し、年に数編の論文を発信するなど、これまでの経験と研究活動を活かして講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
37	臨床栄養学	1	15	必修	講義	2年前期	水野尚子

科目概要	栄養素とその働き、食物の摂取と消化吸収を学び、生命現象の意義について生化学的側面からとらえ、生体内のエネルギー獲得の仕組みと生体の恒常性の維持に関連して、糖質・たんぱく質・脂質などの代謝を学ぶ。また、栄養評価や、栄養指導、保健指導などの方法を学ぶ。さらに、ライフステージ別の栄養摂取課題、健康づくりについて学ぶ。看護職として臨床や地域の現場で栄養管理や栄養指導ができるための基礎的知識を身につける。
到達目標	栄養素の種類や機能、代謝、消化・吸収の知識を習得する。また、ライフステージ別・疾患別の食事療法、適切な栄養管理について理解する。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間：講義終了後 場所：講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	受講前に学ぶ箇所の確認をしておくこと。
事後学習	前回の学修内容に関するテキストの復習と課題についてまとめてのぞむこと。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	人間栄養学と看護 栄養素の種類と働き	栄養と栄養素の定義を理解し、人間における「食」についてを考える 三大栄養素の種類と生体内での主な働きを理解する ビタミン、ミネラルについて、栄養素の種類と生体内での主な働きを理解する	水野
2	食物と消化と栄養素の吸収・代謝	各種栄養素の消化・吸収・代謝について学ぶ 食物のエネルギー、基礎代謝、エネルギー必要量について学ぶ	水野
3	食事と食品 栄養ケア・マネージメント	食品と栄養素の関連・食事摂取基準値について学ぶ。栄養ケア・マネジメントについて学ぶ	水野
4	栄養状態の評価・判定	栄養ケア・マネジメントから栄養状態の評価・判定の定義と目的・判定方法の種類とその指標を学ぶ	水野
5	ライフステージ栄養管理	乳幼児期、学童期におけるライフステージ別の栄養管理について学ぶ 思春期・青年期、成人期におけるライフステージ別の栄養管理について学ぶ 妊娠期、授乳期、更年期、高齢期におけるライフステージ別の栄養管理について学ぶ	水野
6	臨床栄養　病院食 栄養補給法　静脈栄養法	病院食の分類とその特徴、栄養補給法・静脈栄養法について学ぶ	水野
7	臨床栄養 疾患・症状別食事療法　その他	循環器疾患(高血圧他)・消化器疾患(胃・腸・肝臓・胆嚢・膵臓各疾患)の食事療法の意義と内容について理解する 栄養代謝疾患(糖尿病他)腎臓疾患・血液疾患・食物アレルギー・ 骨粗鬆症・手術前後・その他の食事療法の意義と内容について理解する	水野
8	健康づくりと食生活	健康づくりを目指す食習慣について学ぶ	水野
9	定期試験	試験	水野

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 人体構造と機能(3) 栄養学』(医学書院)	・『栄養科学ファウンデーション 応用栄養学』(朝倉書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
クリニック、保健センター、健康管理、生活習慣病の重症化予防における栄養管理、栄養指導、特定保健指導での経験を活かし、臨床栄養学について展開しつつ授業を行う。	なし

留意事項	栄養管理について、チーム医療における看護師の役割を理解し、積極的に学習する意欲を持って臨むこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
38	臨床薬理学	2	30	必修	講義	2年後期	荒敏昭

科目概要	薬物に関する基礎的な知識を習得するとともに、基本的な薬物について臨床での活用と関連させて学ぶ。総論では薬物療法の目的、薬理作用、薬物動態、中毒、医薬品の分類・保管方法などを学ぶ。各論では医薬品を系統別に分け、疾病の病態と合わせて治療薬の作用機序、使用方法、副作用、薬物相互作用、看護上の留意点などについて学ぶ。
到達目標	1. 薬物が生体のメカニズムに及ぼす変化(作用、副作用)を説明できる。 2. 疾患の病態生理および治療方針を理解し、その上で使用される薬物選択を説明できる。 3. 疾患による薬物動態の変化とそれに対する薬物の投与方法を説明できる。 4. 医薬品の分類、表示・保管方法について説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	教育内容に記載したテキスト(教科書および配付資料)の該当部位を熟読してから講義に出席する。
事後学習	重要項目を記した資料を配付するため、それに従い各自で講義内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	薬理学とは 薬による病気の治療	薬物の定義、薬物の使用目的を理解する(教科書P1-6) 医薬品の分類(医薬品、医薬部外品、化粧品)を理解する(教科書P197-201)	荒
2	薬物の作用機序 用量と反応	薬物の作用機序の概略を理解する(教科書P14-22, P38-39) 用量と反応の関係を理解する(教科書P26-28)	荒
3	薬物動態①:吸収～排泄	薬物の吸収、代謝、分布、排泄の基本的事項を理解する(教科書P29-32)	荒
4	薬物動態②:薬物の投与経路	薬物の投与経路およびその特徴を理解する(教科書P29-31)	荒
5	薬物動態③:薬物の投与計画 薬効に影響する要因	薬物動態を変化させる要因(年齢、臓器障害)を理解する(教科書P215-216) 薬物血中濃度モニタリングを理解する(教科書P28-29, P4)	荒
6	薬物相互作用	薬力学的薬物相互作用を理解する(教科書P33-34, P39) 薬物動態学的薬物相互作用を理解する(教科書P33-34, P39)	荒
7	薬物の副作用 薬と法律	薬物の副作用の概略について理解する(教科書P197-205) 医薬品の分類、表示と保管、新薬の開発について理解する(教科書P26)	荒
8	末梢神経作用薬	末梢神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用、使用目的、副作用を理解する(教科書P35-50, P65-66)	荒
9	中枢神経作用薬	全身麻酔薬、鎮静薬、抗うつ薬、統合失調症治療薬などの作用、副作用、薬物相互作用を理解する(教科書P50-65)	荒
10	抗感染症薬、消毒薬	抗感染症薬の作用機序、使用方法、副作用を理解する(教科書P108-121) 消毒薬の種類を理解する(教科書P121-125)	荒
11	抗炎症薬	炎症反応および抗炎症薬の作用機序、薬理作用、副作用を理解する(教科書P99-105)	荒
12	血液作用薬	抗凝固薬の種類、作用機序、薬物相互作用を理解する(教科書P142-146) 貧血治療薬、脂質異常症治療薬を理解する(教科書P95-96)	荒
13	循環器作用薬①:高血圧、狭心症、心不全	高血圧、狭心症、心不全の治療方針、治療薬の作用、副作用、薬物相互作用を理解する(教科書P129-142, P158-160)	荒
14	循環器作用薬②:不整脈 呼吸器・消化器作用薬	抗不整脈薬の作用、副作用を理解する(教科書P146-150) 気管支喘息、消化性潰瘍治療薬の作用を理解する(教科書P150-158)	荒
15	抗がん薬・免疫治療薬 糖尿病治療薬	抗がん薬・免疫抑制薬、抗アレルギー薬を理解する(教科書P91-95, P106-108)糖尿病の症状および治療薬を理解する(教科書P78-83)	荒
16	定期試験	試験	荒

テキスト	参考書
・時政孝行『はじめる！つかえる！看護のための薬理学』(南山堂)	配付資料
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
なし	なし

留意事項	定期試験は、履修規定に準ずる。再試験は1回までとする。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
39	病態治療学Ⅰ (内分泌・免疫・生殖・感覚器系)	2	30	必修	講義	1年後期	澤野紳二

科目概要	循環系、消化器系、脳神経系、血液造血系などにおける症状・徴候および疾病の病因、病態、治療、予後などにつき学習し、それぞれの疾病の成り立ちと回復の促進について理解する。
到達目標	1. 循環器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 2. 血液造血系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 3. 消化器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 4. 脳神経系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	テキストの該当箇所を熟読する。授業終了時、次回までの自己学習の範囲とその方法を伝えるので、事前学習をして授業に臨んでください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	病態治療学総論	看護と病態学　病気の原因 、代謝障害:細胞死、脂質代謝、糖代謝など	澤野
2	代謝障害	個体の老化と諸臓器の変化、高齢者特有の病態、物質代謝異常、小胞体ストレス	澤野
3	循環障害	虚血、充血、うっ血の原因と病体、出血の原因と止血機構、局所性の循環障害、全身性の循環障害、リンパの循環障害、ショックの定義と病体	澤野
4	炎症と免疫	炎症の定義・分類・経時的変化、アレルギー、免疫機構	澤野
5	腫瘍	腫瘍とは、腫瘍の種類と分類、癌の発生、癌の広がりと進行度、病理診断	澤野
6	循環器系疾患	心電図等の循環器の検査法、先天性心疾患(ファロー四徴症、心房中隔欠損症など)	澤野
7	循環器系疾患	動脈硬化、高血圧、心臓弁膜症、大動脈瘤、大動脈解離	澤野
8	循環器系疾患	狭心症、心筋梗塞、心不全	澤野
9	血液・造血系	貧血、血友病、白血病、悪性リンパ腫、播種性血管性凝固症候群(DIC)	澤野
10	消化器系疾患	胃食道逆流症、胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎	澤野
11	消化器系疾患	胃癌、十二指腸癌、大腸癌、舌癌、食道癌	澤野
12	消化器系疾患	肝炎、胆のう炎、胆石、胆道癌、膵炎、膵臓癌	澤野
13	消化器系疾患	肝硬変、肝臓癌、イレウス、肛門疾患	澤野
14	脳神経系	くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍・脊髄疾患、末梢神経障害(手根管症候群、肘部管症候群など)	澤野
15	脳神経系	パーキンソン病、ALS、多発性硬化症、ギランバレー症候群	澤野
16	定期試験	試験	澤野

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』(医学書院)	・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
外科医及び市中病院での救急医療経験を十分に活かして、疾病・治療論について講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
40	病態治療学Ⅱ (呼吸器、骨筋、腎泌尿器、内分泌、生殖器系)	2	30	必修	講義	2年前期	澤野紳二

科目概要	呼吸器疾患、骨・筋系疾患、腎泌尿器疾患、内分泌系疾患、女性生殖器疾患などにおける症状・徴候および疾病の病因、病態、治療、予後などにつき学習し、それぞれの疾病の成り立ちと回復の促進について理解する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 2. 骨・筋系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 3. 腎泌尿器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 4. 内分泌系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 5. 女性生殖器疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	テキストの該当箇所を熟読する。授業終了時、次回までの自己学習の範囲とその方法を伝えるので、事前学習をして授業に臨んでください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	先天異常・遺伝子異常	多因子遺伝が原因となる疾患、染色体異常による疾患、疾患の原因となる遺伝子異常	澤野
2	アレルギー、免疫、膠原病	生体防御機構、アレルギー反応の型、関節リウマチ、SLE	澤野
3	呼吸器系	かぜ、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	澤野
4	呼吸器系	肺結核、肺血栓塞栓症	澤野
5	呼吸器系	気胸、肺性心、肺腫瘍	澤野
6	骨・筋系	捻挫、脱臼、側弯症、骨折、変形性関節症、関節リウマチ、人工関節置換術後合併症	澤野
7	骨・筋系	骨折:骨折治癒の過程、ギプス・手術後の合併症、小児骨折の特徴	澤野
8	骨・筋系	腰椎椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折、脊柱管狭窄症、骨粗しょう症、高齢者の骨折、フォルクマン拘縮、廃用症候群	澤野
9	腎・泌尿器系	慢性腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群　透析とその合併症	澤野
10	腎・泌尿器系	腎炎、膀胱炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、結石、陰茎・陰嚢・精巣の疾患、性分化異常、性機能障害	澤野
11	内分泌系	バセドウ病、橋本病、栄養・代謝異常:糖尿病、肥満症、痛風、高脂質血症	澤野
12	内分泌系	アジソン病、クッシング症候群、性腺疾患、乳腺疾患	澤野
13	女性生殖器	乳癌、月経異常、子宮内膜症	澤野
14	女性生殖器	子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍	澤野
15	皮膚、耳鼻・咽喉、歯・口腔、眼疾患	皮膚疾患、難聴、めまい嚥下障害、う蝕(虫歯)、歯肉炎、歯周炎、口内炎、腫瘍、屈折・調節の異常、結膜の疾患、水晶体の疾患(白内障)、緑内障、全身疾患と眼病変	澤野
16	定期試験	試験	澤野

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』(医学書院)	・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
外科医及び市中病院での救急医療経験を十分に活かして、疾病・治療論について講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
41	感染症学	2	30	必修	講義	2年前期	川上 由行

科目概要	健康と生命を脅かす病原微生物の各種性状や、惹起される種々の感染症に対峙するための各種消毒・滅菌法、化学療法、そして病原体による其々の感染対策法について適切に理解し、感染制御への意識を培う。
到達目標	感染症の起因病原微生物の基本的性状を、自身の言葉で説明できる。 また、其々の病原体の感染様式を理解した上で、専門医療職種として提供する看護および感染対策の実際について、正しい感染制御の理論に結び付けて、自らの言葉で説明することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。
事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。 また、疑問点は、質問して下さい。 そして、その日のうちに理解するように努めてください。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	看護・医学の基礎専門科目としての病原微生物学	微生物と病原微生物学、微生物の生物学的位置、ワクチンの種類と予防接種	川上
2	細菌・真菌・ウイルスの分類と性状	細菌・真菌・ウイルスの形態学、グラム染色、細菌細胞の構造と機能・分裂と増殖、細菌の遺伝、ウイルスの臨床的分類	川上
3	常在菌と正常細菌叢	常在細菌叢の分布と内因性・外因性感染症と菌交代現象	川上
4	微生物感染の機構(1)	生体と病原体、感染の成立から発症、感染経路と感染様式、顕性・不顕性感染	川上
5	微生物感染の機構(2)	定着因子、増殖因子、生体防御機構からの回避、細胞内寄生性、内毒素と外毒素	川上
6	感染に対する生体の防御機構	自然免疫と獲得免疫、抗原と抗体、免疫反応、免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝの特徴、ﾜｸﾁﾝ	川上
7	感染の徴候と症状	生体防御発現による症状、炎症発現としての局所症状、病原体ﾋﾞﾙﾚﾝｽによる症状	川上
8	感染源・感染経路からみた感染症	経口感染、経気道(空気・飛沫)感染、接触感染、桂皮感染、垂直(母児)感染	川上
9	滅菌と消毒	滅菌と消毒の定義と滅菌法の実際、消毒薬、消毒の三要素	川上
10	化学療法	選択毒性、化学療法指数、静菌と殺菌、抗菌ｽﾍﾟｸﾄﾙ、薬剤耐性、抗生物質の分類	川上
11	感染症の現状と対策	文明病としての感染症、振興・再興感染症、医療関連感染、日和見感染、感染症法	川上
12	病原微生物と感染症(1)	グラム陽性菌感染症;ブドウ球菌(MRSAを含む)、連鎖球菌(肺炎球菌を含む)と腸球菌(VREを含む)	川上
13	病原微生物と感染症(2)	グラム陰性菌感染症;リン菌、髄膜炎菌、緑膿菌、セパシア、レジオネラ、腸内細菌(大腸菌、赤痢、サルモネラ、ビブリオを含む)	川上
14	病原微生物と感染症(3)	キャンピロバクター、ヘリコバクター(ピロリ菌を含む)、結核菌、放線菌ほか	川上
15	病原微生物と感染症(4)	マイコプラズマ、カンジダ、アスペルギルス、インフルエンザ、ノロウイルスほか	川上
16	定期試験	試験	川上

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学』(医学書院)	毎回の配付プリント資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
臨床微生物学者として、また感染制御ドクター(I.C.D.;2020年更新済み)として研究活動を展開し論文を発信してきている。これまでに、長野県新型インフルエンザ対策委員のメンバーとして最前線に立ち、また新型コロナ禍に於いては、新型コロナ講座を開講し正しい知識の普及などに努めてきたが、これらの経験と研究活動を活かして講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
42	感染看護学	1	15	選択 (救急・災害必修)	講義	2年後期	今井栄子

科目概要	「感染看護学」は、小児・母性・成人・老年すべての人々、また病院・家庭・地域などの場の特定なく、領域・臨地を横断的に感染予防・防止、感染管理と感染症の看護について学ぶ。臨床では高度先進医療の発展により、易感染患者増大、さらに次々と新興感染症が発見される現代においていかに患者・家族・地域をこれらから守っていくかを考えていくことを学びます。また　医療従事者にとって、感染問題は対患者のみでなく医療従事者本人の問題でもある。「真の看護が感染を問題とするならば、それはただ感染を防止するということにおいてだけである」感染予防・防止は看護の重要な役割というナイチンゲールの教えを基に、標準予防策・経路別予防策など患者に対してと医療者の感染対策などCDCの感染管理を中心に24時間患者の一番そばにいる看護がどのようにかかわることが感染予防・防止につながるかシミュレーションを交えて学ぶ。
到達目標	1. 感染の予防・防止の重要性が理解できる。 2. 感染看護のプロセスとそれぞれの方法がわかる。 3. 患者を守ることが、医療従事者をも守ることであるということこと理解できる。 4. 感染予防・防止の知識と実践へのシミレーションを理解でき、実施できる。 5. 臨地実習で知識を活用できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(シミュレーション)	20 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	授業の課題は必ず実施する。(シラバスにより示された当日の講義を必ず読んでくること)
事後学習	教科書の専門用語は、簡単に説明できるようにノートにまとめ、復習を行う。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	感染看護オリエンテーション	感染看護学を学ぶにあたって。感染管理の歴史的展開とその意義	今井
2	感染看護学Ⅰ 感染看護学Ⅱ	感染予防・防止　標準予防策・経路別予防策 医療者・職業感染対策	今井
3	感染看護学Ⅲ	病院感染対策　易感染患者・多剤耐性菌他	今井
4	感染看護学Ⅳ	環境と新興・再興感染症　　医療器具:消毒と滅菌	今井
5	感染看護学Ⅴ	感染防止対策の評価　サーベイランス	今井
6	感染看護のシミュレーション①	感染症発症に対する感染予防・防止策を考える<感染症・看護ケア・防止対策>	今井
7	感染看護のシミュレーション②	感染症発症に対する感染予防・防止策を発表・評価	今井
8	まとめ	感染看護学のまとめ	今井
9	定期試験	試験	今井

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』(医学書院)	・坂本史衣著『基礎から学ぶ医療関連感染対策』(南江堂)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
大学病院で感染管理をしていた実務経験者が、これから臨床に出る学生に感染管理・感染看護学を通して感染予防・感染防止を講義・演習を通して教授する。	なし

留意事項	救急看護学実習、災害看護学実習(救急・災害)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
43	看護とリハビリテーション	1	15	必修	講義	1年後期	○丸山陽一/中村良/大久保公貴

科目概要	リハビリテーションの概論、および 機能障害の悪化を防ぎ、残存機能の維持や二次的合併症の予防など,リハビリテーション看護の概念、対象論、方法論を学ぶ。運動器障がい、脳血管障がい、心臓疾患などの具体的な援助事例を通して、看護過程の展開の要点を学ぶ。
到達目標	1. リハビリテーション看護を理解できる。 2. リハビリテーションの基本理念である全人的復権の意味が理解できる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(シミュレーション)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	教科書を一読しておくこと。
事後学習	講義にて配られた資料を確認。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	リハビリテーションの概念	定義・歴史・範囲・関連職種の役割・障害の捉え方について(ICF)・倫理と法的問題を学ぶ。	丸山
2	医学的リハビリテーションについて	疾患・病気・年齢によるリハビリテーションの特徴を理解する。	丸山
3	リハビリテーション看護の概念と目的	リハビリテーション看護について学び、一般の急性期看護との違いを述べることができる。 経過別リハビリテーションについて理解できる。	中村
4	整形外科・感覚障害患者のリハビリテーション看護	整形外科・神経難病患者をリハビリテーション看護の視点での対応を理解する。	中村
5	障害者の心理	障害者の気持ちや介助方法を学び、障害受容過程にあわせた対応が理解できる。	中村
6	脳血管疾患患者のリハビリテーション看護	高次機能障害・失語症を理解することができる。失語症を含む高次機能障害患者への援助について理解できる。	大久保
7	日常生活におけるリハビリテーション看護	摂食・嚥下障害患者への援助 摂食嚥下機能療法・評価について実習を通じて理解できる。	大久保
8	日常生活におけるリハビリテーション看護と自立支援	排泄・更衣・清潔の援助について実践を想定した方法を理解する。自立支援について理解を深める。	大久保
9	定期試験	試験	中村

テキスト	参考書
・『成人看護学 リハビリテーション看護論』(ヌーヴェルヒロカワ)	なし

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
医療施設における理学療法士としての経験を看護の日常生活過程を整える支援に引き寄せて看護実践に生きるリハビリテーションを教授する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
44	疫学	2	30	必修	講義	2年後期	三輪憲永

科目概要	本授業では、疫学の概念、疫学で用いられる指標、スクリーニング及び疫学研究の方法などについて理解することを目的とする。「科学的根拠に基づく保健・医療(EBM: Evidence-Based Medicine)」を実践するために必要な科学的根拠の多くは、疫学研究の結果から得られる。それぞれの疫学研究方法の特徴と研究から得られるエビデンスの質の違いについて学ぶ。また、個人情報の保護、情報提供者の自由意思に基づく同意(インフォームド・コンセント)などの倫理的な考え方についても学ぶ。
到達目標	1. 疫学指標について理解し、それぞれの指標の特徴について説明することができる。 2. 疫学研究手法の全体像を理解し、それぞれの方法の特徴を説明することができる。 3. スクリーニングについて理解し、スクリーニング結果について説明することができる。 4. 疫学研究の研究者が守るべき倫理について説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布する練習問題について復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	疫学の概念と歴史	疫学が取り扱う分野、疫学の歴史、疫学調査の手順について学ぶ。	三輪
2	疫学で用いられる指標	罹患率、累積罹患率、有病率、致命率、死亡率、相対危険、寄与危険、オッズ比など疫学で用いられる指標について学ぶ。	三輪
3	疫学研究の手順	調査対象の選択、標本の抽出法、信頼性と妥当性、誤差などについて学ぶ。	三輪
4	記述疫学と分析疫学	記述疫学の方法、仮説の設定、分析疫学の種類と特徴、生態学的研究、横断研究などの疫学研究手法について学ぶ。	三輪
5	観察研究	症例対照研究、コホート研究の特徴と違いについて学ぶ。	三輪
6	介入研究	無作為化(ランダム化)比較試験、二重盲検法について学ぶ。	三輪
7	システマティックレビュー	システマティックレビュー及びメタアナリシスの手順と出版バイアスなどについて学ぶ。	三輪
8	バイアスと交絡	選択バイアス、情報バイアス、交絡因子などについて学ぶ。	三輪
9	スクリーニング	偽陽性と偽陰性、敏感度と特異度、スクリーニングの妥当性などについて学ぶ。	三輪
10	情報の収集と情報処理	疫学研究で使用する情報の収集及び処理方法、情報セキュリティなどについて学ぶ。	三輪
11	疫学で用いられる統計手法	正規分布、バラツキ、相関係数、t検定、カイ二乗検定などについて学ぶ。	三輪
12	保健統計	生命表、人口静態統計、人口動態統計、患者調査などについて学ぶ。	三輪
13	疫学研究と倫理	疫学研究で守るべき倫理、個人情報保護、インフォームドコンセントなどについて学ぶ。	三輪
14	領域別の疫学	栄養疫学、運動疫学、感染症疫学、社会疫学、メンタルヘルスなど各領域別の疫学調査の具体例について学ぶ。	三輪
15	まとめ	疫学で学んだ内容について、総合的に理解する。	三輪
16	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・一般社団法人日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学』(南江堂)	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
公衆衛生行政の中での経験や活動、また感染症流行予測調査やスクリーニング検査の経験と活動を活かし、疫学の手法などについて講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
45	公衆衛生学	1	15	必修	講義	1年後期	三輪憲永

科目概要	本授業では、公衆衛生活動の歴史と変遷及び現状について学び、実際に社会的組織活動を通してどのように公衆衛生活動が行われているか理解することを目的とする。「衛生」の「生」は生命であり、「衛」はそれを守るという意味である。「公衆」即ち、社会集団として生活する人々の寿命を延ばし、肉体的及び精神的に健康状態保つ方策を考えるための基礎的知識を習得する。予防医学と健康増進、感染症や生活習慣病などの予防対策、環境衛生、労働衛生、各種の保健活動などについて学び、公衆衛生活動について総合的に理解する。
到達目標	1. 公衆衛生活動の歴史と変遷及び現在の公衆衛生活動について説明することができる。 2. 予防医学や健康増進について説明することができる。 3. 最近問題となっている主な疾病の予防対策について説明することができる。 4. 種々の保健活動について、それぞれ具体的に説明することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布するプリントを読んで、授業内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	公衆衛生学序論、保健統計と疫学	健康の定義、公衆衛生の歴史、公衆衛生活動、健康指標、人口統計、疫学などについて学ぶ。	三輪
2	疾病予防と健康管理	疾病と予防医学、健康管理と健康増進などについて学ぶ。	三輪
3	主な疾病の予防①	感染症及び循環器系疾患について学ぶ。	三輪
4	主な疾病の予防②	糖尿病、脂質異常症、がん、腎疾患、アレルギーについて学ぶ。	三輪
5	環境保健	環境と生態系、ヒトに影響を与える環境要因、大気と水の衛生、環境保全などについて学ぶ。	三輪
6	保健行政①	地域保健、母子保健、こども・子育て支援制度について学ぶ。	三輪
7	保健行政②	学校保健及び産業保健について学ぶ。	三輪
8	保健行政③	高齢者の保健、精神保健、国際保健について学ぶ。	三輪
9	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・監修　小山洋『「シンプル衛生公衆衛生学』(南江堂)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
公衆衛生行政に従事した経験を活かし、公衆衛生活動の概要などについて講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
46	保健・医療・福祉行政論	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年前期	○三輪憲永/原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	本授業では、日本の保健医療福祉に関連する行政の仕組みと役割及び財政的な裏付け、行政における保健師の役割、諸外国における保健医療福祉の課題と日本の国際協力などについて学ぶ。また、地域の健康課題の背景を分析し、課題を明確にして問題を解決するための方法、さらには事業化と施策化へのプロセスについて学ぶ。
到達目標	1. 保健・医療・福祉行政の仕組みと役割について説明することができる。 2. 保健・医療・福祉行政の財政的な裏付けについて説明することができる。 3. 地域保健の体系と保健師の役割について説明することができる。 4. 地域の健康課題の背景を分析し、課題を解決するための事業を立案することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	90 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワーク)	10 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布する練習問題について復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	行政の仕組みと役割	国・都道府県・市町村における行政のしくみと役割について学ぶ。	三輪
2	保健医療福祉行政の基本	保健医療福祉行政の根拠及び基本となる考え方について学ぶ。	三輪
3	社会環境の変化と健康問題	社会環境の変化と関連する健康問題について学ぶ。	三輪
4	保健医療福祉行政の動向と国際保健	保健医療福祉行政の動向及び諸外国における保健医療福祉の課題と日本の国際協力について学ぶ。	三輪
5	地域の保健医療福祉行政の体系①	地域保健に関する都道府県と市町村の役割分担などについて学ぶ。	三輪
6	地域の保健医療福祉行政の体系②	地域保健に関する公的機関と役割及び長野県の行政組織について学ぶ。	三輪
7	保健医療福祉計画	日本における保健医療福祉に関する各種の計画及び地域保健対策について学ぶ。	三輪
8	保健医療福祉の財政	地方公共団体の種類と財政制度及び保健医療福祉に関する財政について学ぶ。	三輪
9	行政における保健師の役割	行政における保健師の役割と活動について学ぶ。	三輪
10	保健医療福祉における事業化と施策化	保健医療福祉における事業計画の策定と実践及び保健計画の策定について学ぶ。	三輪
11	保健事業の立案プロセス	保健事業の立案プロセスについて学ぶ。	三輪
12	まとめ	第1回から第11回までのまとめ	三輪
13	事業化の実際①	地域診断からの課題の抽出と対策の検討・決定	三輪/原岡 横山/五十嵐
14	事業化の実際②	対策から事業化に向けての計画立案、実施、評価	三輪/原岡 横山/五十嵐
15	施策化の実際	事業化から施策化のプロセス	三輪/原岡 横山/五十嵐
16	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・藤内修二ほか著『標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
地方自治体の公衆衛生行政に従事した経験と活動を活かし、保健行政などについて講義する。	なし

留意事項	公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
47	社会保障制度	1	15	必修	講義	1年後期	三輪憲永

科目概要	本授業では、社会保障制度の体系と内容について学び、これらの制度を維持するための法律や規則、行政のしくみと取り組みについて理解することを目的とする。日本国憲法第25条では、国民には生存権があり、国には国民の生活保障に対する義務があることが示されている。社会保障は、国民が生活していくうえで、個人や家族の努力だけでは対応が困難な状況に対し、憲法第25条に規定された最低水準の生活を保障する公的な制度である。社会保障制度の歴史と展開、社会保障制度の現状について学ぶ。
到達目標	1. 社会保障の体系と内容について説明することができる。 2. 医療保障について学び、健康保険、高齢者医療制度、財政などについて説明することができる。 3. 介護保障について学び、介護保険、財政などについて説明することができる。 4. 所得保障について学び、年金保険制度、労働保険制度、財政などについて説明することができる。 5. 公的扶助及び社会福祉サービスについて説明することができる。

DPとの対応

		成績評価基準		
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %

オフィスアワー
時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布するプリントを読んで、授業内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	社会保障と社会福祉	社会保障の体系と内容、社会福祉の内容と法制度について学ぶ。	三輪
2	社会保障・社会福祉の動向	社会保障・社会福祉の現状について学び、社会の変化に対応可能な社会保障・社会福祉について考える。	三輪
3	医療保障	健康保険、保険診療、高齢者医療制度、国民医療費などについて学ぶ。	三輪
4	介護保障	介護保険制度、保険給付、介護保険の財政などについて学ぶ。	三輪
5	所得保障	所得保障制度のしくみ、年金保険制度、労働保険制度、社会手当などについて学ぶ。	三輪
6	公的扶助	生活保護制度、低所得者対策などについて学ぶ。	三輪
7	社会福祉サービス	高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、少子化対策などについて学ぶ。	三輪
8	まとめ	社会保障制度で学んだ内容について、総合的に理解する。	三輪
9	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・福田素生ほか著『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
なし	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
48	衛生関係法規	1	15	必修	講義	2年後期	三輪憲永

科目概要	本授業では、法とは何かを知るために、法の概念及び一般的・基本的事項について学んだ上で、衛生関係法規の全体像について理解することを目的とする。衛生関係法規は、国民の生命や生活を守り、健康を増進することを目的とした、日本の保健・医療・福祉行政に関する諸制度を規定している関連法規であり、看護に携わる者が、国民の生命や生活を守り、健康を増進するためには、衛生関係法規の理解が必要不可欠である。衛生関係法規の全体像を理解し、他の職種と連携して保健・医療・福祉活動を実践するための基礎的な知識を修得する。
到達目標	1. 法の種類、概念及び一般的・基本的事項について説明することができる。 2. 衛生関係法規、厚生行政のしくみについて説明することができる。 3. 看護師あるいは保健師として働くために必要な法の内容について説明することができる。 4. 衛生関係法規の全体像を理解し、他の職種と連携して保健・医療・福祉活動を実践することができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	100 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間：授業内で伝達
場所：研究室

事前学習	テキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	授業時に配布するプリントを読んで、授業内容を復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	法の概念	法の種類、衛生法規の分類、厚生行政の仕組みについて学ぶ。	三輪
2	看護関連法	保健師助産師看護師法の構造と付属法令、目的、言葉の定義などについて学ぶ。	三輪
3	看護関連法	保健師助産師看護師法に規定された免許、試験、業務、研修、義務、罰則、医療過誤などについて学ぶ。	三輪
4	医事法	医療法、医療関係資格法、保健医療福祉資格法、医療を支える法について学ぶ。	三輪
5	保健衛生法	地域保健、健康増進、精神保健、母子保健、学校保健、感染症、食品などに関する法について学ぶ。	三輪
6	薬務法、環境衛生法	薬事一般に関する法、営業に関する法、環境整備に関する法、薬害被害者の救済、麻薬・毒物などについて学ぶ。	三輪
7	社会保険法、福祉法	健康保険法、介護保険法、国民年金法、厚生年金保険法などについて学ぶ。社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法などについて学ぶ。	三輪
8	まとめ	衛生関係法規で学んだ内容について、総合的に理解する。	三輪
9	定期試験	試験	三輪

テキスト	参考書
・森山幹夫著『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
衛生行政に従事した経験を活かし、衛生関係法規の全体像について講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
49	保健統計学Ⅰ(基礎)	1	15	必修	講義	2年前期	高下梓

科目概要	集団の健康に関する特徴を把握するために用いられる人口統計や、代表的な保健・医療に関わる指標を解説するとともに、基幹的な保健統計調査の基本と動向を理解する。また、根拠に基づく看護研究の理解と実施に必要な文献検索の方法と、基本的な統計手法を習得する。
到達目標	1. 人口統計の基本と測定尺度、主要健康指標の意味、算出方法、その動向を説明できる。 2. 保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。 3. 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。 4. 基礎的な統計的方法を用いた適切な図表の選択・作成、研究報告の統計分析結果の解釈ができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義に関連するテキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	1. 授業時に配布するプリントを読み、授業内容を復習する。 2. パソコンの操作方法(Excel、文献検索)や統計分析に関する事後課題に取り組む。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	人口統計	人口静態統計、人口動態統計、主な健康指標の概要と動向を理解する。	高下
2	保健統計調査 文献検索の方法	保健統計調査(基幹統計)と、疾病・障害の定義と分類を理解する。 看護研究の理解・実施に必要な文献検索の方法を学び、実践する。	高下
3	データの種類、主な図表の特徴	統計において扱うデータの性質について理解する。 主な図表の特徴を理解する。	高下
4	データの代表値と分布	平均値・中央値・分散等、主な代表値と散布度を理解する。	高下
5	代表的な確率分布	二項分布、正規分布をはじめとする代表的な確率分布について理解する。	高下
6	関連の指標	相関・回帰・クロス集計を理解する。	高下
7	推測統計学の枠組み	点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性の概念を理解する。	高下
8	様々な統計分析	カイ二乗検定、t検定、相関の特徴と結果の読み取り方を理解する。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
・『標準保健師講座 疫学・保健統計学 第3版』(医学書院)	・『系統看護学講座　統計学 第7版』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
心理検査の作成や自治体による大規模調査の集計に携わった経験と活動を活かし、保健統計の基礎について指導する。	なし

留意事項	授業内容によっては、パソコンを使用する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
50	保健統計学Ⅱ(応用)	1	15	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	高下梓

科目概要	地域の健康課題を把握するために用いられる基礎的な保健統計調査と医療経済統計情報の基本と動向を理解する。また、公衆衛生看護活動に必要な情報の収集方法と、データの分析・解釈および結果のまとめ方を習得する。
到達目標	1. 地域の保健・医療・福祉・健康に関する情報、指標について説明できる。 2. 公衆衛生上の特性の記述や評価の際に、情報を取り扱う基礎技術、主要統計、既存資料を活用できる。 3. 基礎的な統計的方法を用いた適切な図表の選択・作成、分析の実施、分析結果の解釈ができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義に関連するテキストの該当箇所を熟読する。
事後学習	1. 授業時に配布するプリントを読み、授業内容を復習する。 2. パソコンの操作方法(Excel、文献検索)や統計分析に関する事後課題に取り組む。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	保健統計調査	基幹統計と、それ以外の基礎的な統計調査(感染症発生動向調査、食中毒統計調査など)に関する概要と動向を理解する。	高下
2	測定と尺度 医療経済統計	健康評価尺度、心理発達尺度等の概要を理解する。 医療経済統計の基本と動向を理解する。各種調査のデータを用いて基本的な作表の方法を体験する。	高下
3	情報処理 適切な図表の作成と活用	データの電子化、レコードリンゲージ等の情報処理の基礎を理解する。 データに合わせた図表の選び方、図表の作成方法を確認し、サンプルデータをもとに実践する。	高下
4	保健統計調査結果の活用	保健統計調査結果の活用と、適切な図表の作成を学ぶ。また、その図表をどのような場面で使うかを考える。	高下
5	カイ二乗検定	サンプルデータを使ってカイ二乗検定を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。	高下
6	t検定	サンプルデータを使ってt検定を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。	高下
7	相関	サンプルデータを使って相関分析を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。	高下
8	その他の統計分析	ノンパラメトリック分析、多変量解析など様々な統計分析方法の概要を理解する。	高下
9	定期試験	試験	高下

テキスト	参考書
・『標準保健師講座 疫学・保健統計学 第3版』(医学書院)	・『系統看護学講座 統計学 第7版』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
心理検査の作成や自治体による大規模調査の集計に携わった経験と活動を活かし、保健統計の応用について指導する。	なし

留意事項	授業内容によっては、パソコンを使用する。 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
51	看護援助的関係論	1	15	選択	講義	1年後期	藤川君江

科目概要	看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成についての理解を深めるとともに、自分自身について振り返り、自己理解と他者理解を通し、援助的人間関係のあり方について学ぶ。プロセスレコードを読み返すことによって、看護師は、患者と向き合った場面で自分のなかに生じた思いと、表現された言葉との不一致を自覚することができる。
到達目標	1. 対人関係形成における自己の傾向について述べることができ 2. 援助関係の形成に必要なコミュニケーションについて説明ができる。 3. 自己理解、自己分析の意義・方法について説明ができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	なし
事後学習	自己理解・他者理解のプロセスレコードについて、考察と学びを記入して、指示された日時に提出する。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	人間関係ー集団-について 人間関係の基本的意義、看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方	藤川
2	看護における人間関係	保健医療チームとはどういう性格をもつものなのかを考察し、保健医療チームにおけるチームワークを促進を考える。	藤川
3	家族の人間関係と看護師の関わり	家族関係論と看護ケアの視点	藤川
4	ソーシャルサポート／ノーマライゼーション	1. ソーシャルサポートの概念、意義、活用 2. ノーマライゼーションの基本概念、援助することの持つ意味	藤川
5	他者理解・自己理解	・プロセスレコードとは	藤川
6		・プロセスレコードを通して、自己理解・他者理解を考えてレポートを提出	藤川
7	自己理解	自分のことを知ろう	藤川
8	まとめ	共同ワーク　協力ゲーム	藤川
9	定期試験	試験	藤川

テキスト	参考書
なし	・『看護のためのコミュニケーションと人間関係』(中央法規) ・長谷川雅美他編『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード—プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』』(日総研) ・『系統看護学講座人間関係論』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
52	看護学概論	2	30	必修	講義	1年前期	○小林たつ子/金子潔子

科目概要	WHOをはじめとするさまざまな健康の概念の変容をふまえ、看護とは何かを理解する。看護活動の場の拡大と多職種との連携の中で看護職の役割の明確化、生活の場の多様性と生活者としての捉え方、地域包括ケアシステムと看護職の役割、主な理論と事例に触れながら「看護とは」を明確にし、看護職を目指すことへの誇りと看護に対する興味関心の深化を図る。
到達目標	1. 看護学のイントロダクションの科目として、看護学を学ぶ目的や看護学の大要を理解する. 2. 看護学における目的論・対象論・方法論について学び、「看護とは何か」を探求するための、基本的概念や理論、看護の変遷等の基礎的理解を深める。 3. 社会における看護の重要性と専門職者としての自己の成長を希求できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	90 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	5 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワークの成果)	5 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 事前課題については1回目の授業で説明をする。 2. 課題学習は指定された日時、方法で必ず提出すること。
事後学習	その日のうちに学んだ単元の資料の整理と内容の復習をし提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	看護学とは何か	授業ガイダンス　事前課題とレポート課題について 看護学に於ける基礎看護学の意義と位置づけ	小林
2	看護の歴史	看護の成立と発展の歴史、看護の普遍的必要性 教科書①p2～9、 テキスト2p13～20	小林
3	看護とは何か ナイチンゲールの看護原理と定義	近代看護の理念と看護の本質　　教科書①p10～16 看護覚え書き 1. 看護の理念を構成するもの、看護の定義、(主な看護の理論家:ナイチンゲールの看護の考えから「看護とは何か」を考える。	小林
4	看護とは何か ヘンダーソンの看護原理と定義1	近代看護の理念と看護の本質　　教科書①p10～16 看護覚え書き 2. 看護の理念を構成するもの、看護の定義、(主な看護の理論家:ナイチンゲールの看護の考えから「看護とは何か」を考える。	小林
5	看護とは何か ヘンダーソンの看護原理と定義2	近代看護の理念と看護の本質　　教科書①p16～20 看護の基本となるもの 3. 看護の理念を構成するもの、看護の定義、(主な看護の理論家:ヘンダーソンの看護の考えから「看護とは何か」を考える。	小林
6	看護と健康	健康の原則・段階・水準、健康の考え方、社会や文化と健康 「健康とは何か」身近に引き寄せて考える 教科書①第3章p94～135　参考書2p39～107	小林
7	看護の対象の理解	看護の対象の理解(成長と発達、統合体としての人間、ライフサイクル)① 看護の対象の理解(成長と発達、統合体としての人間、ライフサイクル)② 教科書①第2章p64～90	小林
8	看護独自の機能	看護独自の機能を発揮するための技術 コミュニケーションとは　自分自身を知る意味と自分を知るためのツール 看護の役割と機能　教科書①第1章p27～47	小林／金子
9	看護活動の場	看護の継続性と情報共有 入院から退院、外来から在宅療養、地域包括ケアシステム等 教科書①第1章p48～60	小林／金子
10	看護の提供者	保健師助産師看護師法　法と職業倫理、 CNS,CN,CANなどのキャリア開発 教科書①第4章p146～176	小林
11	看護における倫理1	患者の権利とインフォームドコンセント、現代医療におけるさまざまな倫理問題 倫理原則とケアの倫理、 看護者の倫理綱領 教科書①第5章p182～207	小林
12	看護における倫理2	患者の権利とインフォームドコンセント、現代医療におけるさまざまな倫理問題 倫理原則とケアの倫理、 看護者の倫理綱領 教科書①第5章p182～207	小林
13	看護の実践1	クリティカルシンキングと看護過程 教科書④第3章p218～228	小林／金子
14	看護の実践2	人間存在の意味(生きる意味、生活の質と健康、看護と治療の融合)	小林
15	まとめ	看護とは何かについて振り返る　看護を学んでいくことへの希望　将来像	小林
16	定期試験	試験	小林

テキスト	参考書
・茂野香おる編『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論』(医学書院) ・ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ著 湯槙ますほか訳『看護覚え書』(現代社) ・ﾊﾞｰｼﾞﾆｱ・ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝ著 湯槙ますほか訳『看護の基本となるもの』(日本看護協会出版会) ・茂野香おる編『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』(医学書院)	・『看護倫理綱領』(日本看護協会出版会) ・都留春夫他訳『看護における健康の概念』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護とは何か、看護の役割・機能、看護の歴史や理論について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
53	基礎看護技術Ⅰ (日常生活援助技術)	2	60	必修	演習	1年前期	○小林たつ子/金子潔子/伊藤寿満子/倉科恵里

科目概要	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的日常生活援助技術を用いて振り返るなど能動的に学び修得する。また、対象者の自立度に応じた安全性、安楽性、快適性、自立性を考慮し、自宅で暮らす時の援助技術の工夫についても共働学修する。
到達目標	1. 日常生活を支える看護師の役割を理解し、その役割達成のための倫理的配慮ができる。 2. 日常生活を支える看護技術の原理・原則をふまえた基本的な方法が説明できる。 3. 対象の状況に合わせた具体的方法について、科学的根拠に基づいた説明ができる。 4. ケアの過程において安全性・安楽性,快適性、自立性を配慮した基礎看護技術が実施できる。 5. すべての看護技術に標準予防策が実施できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、演習レポート	10 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・その他(技術試験)	10 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力			%	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義・演習時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2. 事前課題は必ず行い提出するとともに、講義・事前課題で学習したことを基に演習に参加する。 3. 演習に伴う事前学習・課題がある場合は、単元ごとに演習前に提示する。 4. 指示された動画等を視聴する。
事後学習	1. 演習後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。 2. 技術の習得は反復学習を必要とする。技術アワーを活用しつつ、主体的かつ積極的に自己学習を行う。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス 導入:看護技術とは　安全確保、安楽性、個別性と共通性の追求	講義:ガイダンス 看護技術とは　看護技術の特徴　技術と倫理　看護技術を適切に実践するための要素(安全・安楽・プライバシー・自立他)　看護技術の修得	小林/金子 伊藤/倉科
2	導入:看護技術とは　安全確保、安楽性、個別性と共通性の追求 感染予防	講義:感染予防の基礎知識、標準予防策(スタンダードプリコーション)他 感染予防:手洗い・マスク・手袋・エプロンの装着 感染性廃棄物の取扱い	小林 伊藤/倉科
3	感染防止の技術2	演習:実習室の使用について 衛生学的手洗・マスク・手袋・エプロンの装着　外し方	小林/金子 伊藤/倉科
4	感染防止の技術3	演習:衛生学的手洗い、マスク・手袋・エプロンの装着　外し方	小林/金子 伊藤/倉科
5	環境を整える技術1	講義:環境とは　療養環境のアセスメント　ベッド周囲の環境整備　病床を整える ナイチンゲールの環境	小林 伊藤/倉科
6	環境を整える技術2	講義:ベッド周囲の環境整備の方法　病床を整える方法	小林 伊藤/倉科
7	環境を整える技術3	演習:ベッド周囲の環境整備　リネン類のたたみ方　開き方　ベッドメーキング	小林/金子 伊藤/倉科
8	環境を整える技術4	演習:ベッド周囲の環境整備　リネン類のたたみ方　開き方　ベッドメーキング	小林/金子 伊藤/倉科
9	活動と休息の援助1	講義:活動と休息の援助 ボディメカニクス　体位変換・歩行の援助・移乗・移送	小林 伊藤/倉科
10	活動と休息の援助2	講義:睡眠と休息の援助 睡眠の種類とメカニズム・睡眠障害のアセスメント・睡眠・休息の援助 デモンストレーション:体位変換	小林 伊藤/倉科
11	活動と休息の援助3	演習:①体位変換・安楽な体位 ②車椅子移乗・移送　ストレッチャー移乗・移送 ③歩行介助	小林/金子 伊藤/倉科
12	活動と休息の援助4	演習:①体位変換・安楽な体位 ②車椅子移乗・移送　ストレッチャー移乗・移送 ③歩行介助	小林/金子 伊藤/倉科
13	清潔・衣生活の援助1	講義:清潔の援助の基礎知識 清潔の援助の実際(入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・整容他)	小林 伊藤/倉科

教育内容	14	清潔・衣生活の援助2	講義：清潔の援助の基礎知識 清潔の援助の実際（入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・整容他）	小林 伊藤/倉科
	15	清潔・衣生活の援助3	講義：衣生活の援助の基礎知識 援助の実際（病衣の選択、病衣・寝衣交換） デモンストレーション　全身清拭　寝衣交換	小林 伊藤/倉科
	16	清潔・衣生活の援助4	演習：臥床患者の寝衣交換　シーツ交換	小林/金子 伊藤/倉科
	17	清潔・衣生活の援助5	演習：全身清拭・寝衣交換	小林/金子 伊藤/倉科
	18	清潔・衣生活の援助6	演習：全身清拭・寝衣交換	小林/金子 伊藤/倉科
	19	清潔・衣生活の援助7	演習：洗髪	小林/金子 伊藤/倉科
	20	清潔・衣生活の援助8	演習：洗髪	小林/金子 伊藤/倉科
	21	清潔・衣生活の援助9	演習：足浴　フットケア	小林/金子 伊藤/倉科
	22	飲食の援助1	講義：食事援助の知識　食事とは・栄養のアセスメント 摂食・嚥下訓練	小林 伊藤/倉科
	23	飲食の援助2	演習：食事摂取の援助　口腔ケアの方法	小林/金子 伊藤/倉科
	24	技術試験	※事前に実施要領についてオリエンテーションを行う。出題の技術についても説明する。 ※練習の仕方、指導体制についても説明する。	小林/金子 伊藤/倉科
	25	排泄の援助1	講義：排泄の援助 排泄に関する基礎知識、自然排尿、自然排便の介助 （導尿、グリセリン浣腸、摘便ストーマケアは除く）	小林 伊藤/倉科
	26	排泄の援助2	演習：①ベッド上での排泄、ポータブルトイレ 演習：②オムツ交換・陰部洗浄	小林/金子 伊藤/倉科
	27	排泄の援助3	演習：①ベッド上での排泄、ポータブルトイレ 演習：②オムツ交換・陰部洗浄	小林/金子 伊藤/倉科
	28	罨法1	講義：苦痛の緩和・安楽確保　罨法とは　温罨法　冷罨法　身体ケアを通じてもたらされる安楽	小林 伊藤/倉科
	29	罨法2	演習：罨法の実際　湯たんぽ　氷枕	小林/金子 伊藤/倉科
	30	まとめ　振り返り	講義・演習の振り返り	小林 伊藤/倉科
	31	定期試験	試験	小林 伊藤/倉科

テキスト	参考書
・茂野香おる他著『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』（医学書院 第16版） ・任和子他著『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③』（医学書院 第17版）	・任和子他著『根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術』（医学書院 第1版） ・藤本真記子監修『看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術』（メディックメディア、第1版）
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
病院での看護師経験を持つ教員が、基本的生活支援技術と個別性に合わせた援助の判断とその根拠を指導する。	看護学概論を履修していること

留意事項	1. 看護師としての身だしなみを整え演習に臨むこと。身だしなみが整っていない場合は演習に参加できない。 2. 技術アワーの時間を設定するので、技術の練習・習熟に活用する。 3. 術演習は演習に関連した講義を受けていない場合は演習を行うことができない。欠席した場合は、授業で配布された資料を熟読し自己学習して、担当教員の口頭試問を受け合格した場合に演習を履修できる。履修後指定されたレポートの提出により技術演習は修得したこととする。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
54	基礎看護技術Ⅱ (診療の補助技術)	2	30	必修	演習	1年後期	○小林たつ子/金子潔子/伊藤寿満子/倉科恵里

科目概要	何らかの健康問題を持つ人のニーズを踏まえ、必要性と科学的根拠に基づいて実施する援助技術で、主として薬物療法、栄養障害のケア、皮膚・排泄障害のケアなどの病態や治療に伴って必要となる看護ケアについて学修する。シミュレーション機器や事例を用いて、安全性・安楽性を考慮し、アセスメントとケアの判断力を修得する。
到達目標	1. 治療過程を支える看護師の役割を理解し、倫理的配慮ができる。 2. 治療過程を支える看護技術の具体的方法について科学的根拠に基づいた説明ができる。 3. ケアの過程おいて起こりうる危険を予測し、安全性・安楽性を配慮した方法について説明できる。 4. 治療過程を支える援助(薬物療法、検査)が説明できる。 5. すべての看護技術に標準予防策が実施できる。

DPとの対応

		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
		2. 主体的行動力
		3. 地域貢献力と多職種連携能力
		4. 課題発見能力と課題解決力
	○	5. 看護の知識と看護実践力
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	80 %	オフィスアワー
・授業内の小テスト、	0 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・事前/事後学習の課題、演習レポート	10 %	
・その他(技術試験)	10 %	
	%	
合計	100 %	

事前学習	1. 講義・演習時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2. 指示された事前課題は必ず行い参加する(事前課題提出は指示に従う)。 3. 指示された動画等を視聴する。
事後学習	1. 演習後は事後課題を行い指示された日時に提出する。提出期限を厳守する。 2. 技術の習得は反復学習を必要とする。主体的かつ積極的に自己学習を行う。 3. 技術アワーの時間を設定するので、技術の練習・習熟に活用する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス 感染予防の基礎	講義:診療の補助業務とは 感染予防の基礎知識 看護専門職に求められる倫理的配慮	小林/金子 伊藤/倉科
2	感染予防の考え方とその方法	講義:スタンダードプリコーションの復習　感染予防の基本技術　消毒・滅菌 無菌操作:滅菌物の取り扱い(滅菌パック、滅菌包み、清潔・汚染区域、滅菌手袋など)、 CDCガイドラインに基づく標準予防策	小林 伊藤/倉科
3	無菌操作の基本技術1	演習:無菌操作、滅菌物の取り扱い、ガウンテクニックの基本技術について　滅菌手袋の装着	小林/金子 伊藤/倉科
4	無菌操作の基本技術2	演習:無菌操作、滅菌物の取り扱い、ガウンテクニックの基本技術について　滅菌手袋の装着	小林/金子 伊藤/倉科
5	検査・処置を受ける患者の看護1	講義:検査・処置を受ける患者の援助方法 検体検査:血液検査、身体計測、検尿、検便、痰の採取と援助方法、腹腔穿刺、腰椎穿刺 生体情報のモニタリング:CTスキャン、MRI、パルスオキシメーター	小林 伊藤/倉科
6	検査・処置を受ける患者の看護2	講義:静脈血採血とその方法	小林 伊藤/倉科
7	検査・処置を受ける患者の看護3	演習:静脈血採血の実際	小林/金子 伊藤/倉科
8	検査・処置を受ける患者の看護4	演習:静脈血採血の実際	小林/金子 伊藤/倉科
9	薬物療法1	講義:与薬の基礎知識　薬物とは　薬物療法における看護師の役割 経口与薬　吸入　点眼　点鼻　経皮的与薬　直腸内与薬	小林 伊藤/倉科
10	薬物療法2	講義:注射の基礎知識　注射の実施方法(皮下注射、皮内注射　筋肉内注射　静脈内注射)	小林 伊藤/倉科
11	薬物療法3	講義:点滴静脈内注射　輸液療法　輸血療法	小林 伊藤/倉科
12	薬物療法4	演習:皮下注射・筋肉内注射の実際	小林/金子 伊藤/倉科
13	薬物療法5	演習:皮下注射・筋肉内注射の実際	小林/金子 伊藤/倉科

教育内容	14	薬物療法6	演習：点滴静脈内注射　静脈注射	小林/金子 伊藤/倉科
	15	薬物療法7	演習：点滴静脈内注射　静脈注射	小林/金子 伊藤/倉科
	16	排泄の援助1	講義：排尿の機序と排尿障害 一時的導尿と持続的導尿　　膀胱内留置カテーテル挿入患者の看護	小林 伊藤/倉科
	17	排泄の援助2	講義：排尿の機序と排尿障害 一時的導尿と持続的導尿　　膀胱内留置カテーテル挿入患者の看護 一時的導尿　デモンストレーション	小林 伊藤/倉科
	18	排泄の援助3	演習：一時的導尿の実際	小林/金子 伊藤/倉科
	19	排泄の援助4	演習：一時的導尿の実際	小林/金子 伊藤/倉科
	20	排泄の援助5	講義：排便の機序と排便障害　排便を促す援助　　グリセリン浣腸　　摘便	小林 伊藤/倉科
	21	排泄の援助6	演習：グリセリン浣腸の実際	小林/金子 伊藤/倉科
	22	酸素療法1	講義：酸素療法（酸素吸入療法）	小林/金子 伊藤/倉科
	23	酸素療法2	演習：酸素ボンベの取扱い 酸素マスク・酸素カニューラの実際	小林/金子 伊藤/倉科
	24	吸引1	講義：排痰ケアの基礎知識 援助の実際（咳嗽介助　ハフィング）　吸引（一時的吸引・口腔・鼻腔・気管内吸引）	小林 伊藤/倉科
	25	吸引2	演習：吸引の実際　一時的吸引（口腔・鼻腔）	小林/金子 伊藤/倉科
	26	吸引3	演習：吸引の実際　一時的吸引（口腔・鼻腔）	小林/金子 伊藤/倉科
	27	包帯法1	講義：包帯法の基礎知識 包帯法とは　　巻軸帯の巻き方　三角布を用いた上肢の固定方法など	小林 伊藤/倉科
	28	包帯法2	講義：包帯法の実際 巻軸帯の巻き方　三角布を用いた上肢の固定方法など	小林 伊藤/倉科
	29	技術試験	※事前に実施要領についてオリエンテーションを行う。出題の技術についても説明する。 ※練習の仕方、指導体制についても説明する。	小林/金子 伊藤/倉科
	30	まとめ	講義・演習の振り返り	小林 伊藤/倉科
	31	定期試験	試験	小林 伊藤/倉科

テキスト	参考書
・任和子他著『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③』（医学書院 第17版）	・吉田みつ子他『写真でわかる「基礎看護技術アドバンス」』（インターメディカ） ・三上れつ他『演習・実習に役立つ基礎看護技術』（ヌーヴェルヒロカワ 第4版） ・竹尾恵子他『看護技術プラクティス 第3版』（学研メディカル秀潤社 第3班）
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
病院での看護師経験を持つ教員が、病態や治療に伴って必要となる看護ケア技術を指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰの履修履歴があること

留意事項	1. 技術演習はその技術に関連した講義を受けていないと履修できない。欠席した場合は担当教員による口頭での試験を行うので、資料を熟読し、学生が日時を設定する。口頭の試験に合格した者が演習を履修できる。 2. 身だしなみ（爪や髪の毛などを含む）を整えていない場合は演習に参加できない。 3. 技術アワーの時間を設定するので、技術の練習・習熟に活用する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
55	基礎看護技術Ⅲ (看護過程と看護理論)	1	15	必修	講義	2年前期	○金子潔子/小林たつ子/伊藤寿満子/倉科恵里

科目概要	看護の実際において看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、看護理論を基に科学的に看護を実践するための看護過程について、看護過程の理論とその概要、重要性、必要性を理解する。
到達目標	1. 看護過程の概念および看護実践における、目的志向的、患者思考的なツールである意味が理解できる。 2. 一連の看護過程の各段階に必要な基本的知識・技術・態度について、自己の看護観を基盤に理解する。 3. 看護理論の枠組みを使用する意味が理解できる。 4. 看護記録の意義が理解でき、具体的記録方法の基礎理解ができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	80 %	オフィスアワー
・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(　　)	0 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 講義終了時、次回の講義に関連する課題と熟読ページを提示する。 2. 演習やグループワークについても事前学習や課題等、単元ごとに提示する。
事後学習	事後課題として指示された課題を時間厳守で提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス、看護過程とは、事例紹介	1. 看護過程の理論を学ぶにあたって(科目ガイダンス) 2. 看護過程とは(看護過程の構成要素) 3. 看護過程と看護理論(ヘンダーソンの看護理論) 4. 演習事例の紹介及び事前学習について	金子/小林 伊藤/倉科
2	情報の収集とその整理、そして解釈	5. ヘンダーソンの理論による看護過程の展開 基本的看護の構成要素、常在条件、病理的状態 ゴードンの11の機能的健康パターンによる看護過程の展開 6. 演習の進め方、演習による看護記録について	金子
3	アセスメントの仕方、関連図の書き方1	7. 基本的ニードの充足状態 8. アセスメントとは (関連図とは何か、関連図の書き方)	金子
4	アセスメントの仕方、関連図の書き方2	9. 関連図とは何か、関連図の書き方 10. 看護問題の統合について	金子
5	看護問題の明確化、看護問題の優先度、看護目標の立案	11. 看護問題の明確化 12. 看護問題の優先度 13. 看護目標(達成可能・評価可能な目標の立案)	金子
6	具体的な看護計画、実施の記録、評価・修正	14. 看護計画の立案(個別性のある援助計画、評価できる計画) 15. 評価・修正	金子
7	看護記録の意義と書き方	16. 看護記録の意義、SOAPの書き方及び評価・修正との関連	金子
8	NANDA-Ⅰについて まとめ	17. NANDA -Ⅰについて説明する。 看護診断名、NIC,NOC、リンケージについて簡単な事例で説明する。 電子カルテとの関連について説明する。	金子/小林 伊藤/倉科
9	定期試験	試験	金子

テキスト	参考書
・有田清子他『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②』(医学書院) ・任和子編著;『実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド—ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる—』(照林社)	・古橋洋子『電子カルテ導入のための看護診断・成果・介入・活用マニュアル』(Gakken) ・『関連図の書き方をマスターしよう』(医学芸術社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護過程の重要性及び必要性について指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメントの履修履歴があること

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
56	ヘルスアセスメント	2	60	必修	演習	1年後期	○金子潔子/小林たつ子/伊藤寿満子/倉科恵里

科目概要	ヘルスアセスメントの概念、目的、方法論の全容を学び、対象を全人的に把握することの重要性とその意義を理解する。ヘルスアセスメントで必要な観察技術や測定技術、コミュニケーション技術を用いて対象の健康状態を査定し、正常と正常からの逸脱を判断できる知識・技術について学修する。シミュレーション機器(シナリオ、フィジコ)を用いグループで共有学習しアセスメント能力を強化する。
到達目標	1. 看護におけるヘルスアセスメントの意味を理解し、説明できる。 2. ヘルスアセスメントの基本技術(問診・視診・聴診・触診・打診)が実践できる。 3. ヘルスアセスメントの基本技術を実践し、その結果から対象の健康状態(正常と正常からの逸脱)を判断し、記述できる。 4. 得られたデータをアセスメントし、記録することができる。看護過程の展開のプロセスであることがわかる。 5. ヘルスアセスメントを実施する際に、対象者と援助的関係を構築し、個人のプライバシーの保護など倫理的配慮ができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・演習への取り組み	10 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(技術試験)	10 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	各単元に教科書のページを示したので熟読してくる。また、提示された事前課題を仕上げて演習に望むこと。 1)次回の講義で学習する器官の名称と機能について復習し、覚えて臨む。 2)講義・演習の前に教科書の該当箇所を読む。 3)指定した課題を仕上げて持参する。
事後学習	事後課題として指示された課題を時間厳守で提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス イグザミネーション	ヘルスアセスメントを学ぶにあたって(事前・事後課題の提示) ヘルスアセスメントとは　問診・視診・聴診・触診・打診の基本技術	金子/小林 伊藤/倉科
2	健康歴の聴取	講義:健康歴の聴取の意義、健康歴聴取の実際　教科書②p16～19を読む	金子
3	一般状態	講義:一般状態とは 内容(身体的側面、心理的側面、社会的側面、生活習慣)皮膚、爪 教科書②p162～165	金子
4	健康歴聴取	演習:健康歴聴取(身体計測、皮膚・爪/ S・Oデータアセスメント)	金子
5	呼吸器系	講義:呼吸器(胸部の形態と外観, 肺の打診と特色・聴診、呼吸音の特色) 教科書①p124～135	金子
6	循環器系	講義:循環(胸部の外観, 頚静脈, 動脈, 最大拍動点, 心音) 教科書①p135～143	金子
7	呼吸音・心音聴取とアセスメントの実際1	演習:呼吸器・循環器アセスメント　正常から逸脱した呼吸音、心音聴取	金子
8	呼吸音・心音聴取とアセスメントの実際2	演習:呼吸器・循環器アセスメント　正常から逸脱した呼吸音、心音聴取	金子
9	呼吸音・心音からトリアージの実際	講義:臨床における呼吸器・循環器のアセスメントの実際　トリアージ	金子
10	バイタルサイン測定1	講義:バイタルサインとは　バイタルサインの測定の意義と方法 (体温・呼吸・脈拍・血圧)　教科書①p86～108	金子/小林 伊藤/倉科
11	バイタルサイン測定2	講義:バイタルサインとは　バイタルサインの測定の意義と方法 (体温・呼吸・脈拍・血圧)　教科書①p86～108	金子/小林 伊藤/倉科
12	バイタルサイン測定とアセスメントの実際1	演習:バイタルサインの測定とアセスメント (体温・呼吸・脈拍・血圧)	金子/小林 伊藤/倉科
13	バイタルサイン測定とアセスメントの実際2	演習:バイタルサインの測定とアセスメント (体温・呼吸・脈拍・血圧)	金子/小林 伊藤/倉科

教育内容	14	中間振り返り	中間振り返り：バイタルサイン測定までの基礎知識の確認	金子/小林 伊藤/倉科
	15	腹部のアセスメント1	講義：腹部のアセスメント腹部（消化器系）の構造と機能 教科書①p152～159 乳房・腋窩のアセスメント　教科書①p146～151	金子
	16	腹部のアセスメント2	講義：腹部のアセスメント腹部（消化器系）の構造と機能 教科書①p152～159 乳房・腋窩のアセスメント　教科書①p146～151	金子
	17	腸蠕動・乳房のアセスメントの実際1	演習：腸蠕動音の聴取　問診、視診　触診　打診　聴診 乳房のアセスメント腋窩：問診　視診　触診	金子
	18	腸蠕動・乳房のアセスメントの実際2	演習：腸蠕動音の聴取　問診、視診　触診　打診　聴診 乳房のアセスメント腋窩：問診　視診　触診	金子
	19	骨・筋肉系のアセスメント	講義：筋・骨格（関節，四肢の筋力，脊柱および下肢の形態と歩行） 教科書①162～170	金子
	20	筋・骨格系のアセスメントの実際	演習：筋・骨格系のアセスメント	金子
	21	技術アワー1	授業・演習内容の振り返り　技術アワー　バイタルサイン測定	金子/小林 伊藤/倉科
	22	技術試験1	バイタルサインの測定とそのアセスメントの実際、看護記録	金子/小林 伊藤/倉科
	23	技術試験2	バイタルサインの測定とそのアセスメントの実際、看護記録	金子/小林 伊藤/倉科
	24	感覚器系のアセスメント	講義：鼻・耳・口腔・咽頭の構造と機能　アセスメント 教科書①p181～194	金子
	25	神経系のアセスメント	講義：神経系のアセスメント 教科書①p171～181	金子
	26	感覚器系・神経系のアセスメントの実際1	演習：鼻・耳・口腔・咽頭のアセスメント/神経系のアセスメント	金子
	27	感覚器系・神経系のアセスメントの実際2	演習：鼻・耳・口腔・咽頭のアセスメント/神経系のアセスメント	金子
	28	事例を基にヘルスアセスメントの実施1	グループワーク：事例を基にバイタルサインの測定と主要疾患のアセスメント	金子
	29	事例を基にヘルスアセスメントの実施2	グループワーク：事例を基にバイタルサインの測定と主要疾患のアセスメント	金子
	30	まとめ・振り返り	振り返り　演習内容のまとめ、授業内容の振り返り	金子/小林 伊藤/倉科
	31	定期試験	試験	金子

テキスト	参考書
・『系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ』（医学書院 2018） ・看護がみえる3　フィジカルアセスメント（メディックメディア）	教科書の他に、参考書を1冊準備する。 1. 横山美樹『はじめてのフィジカルアセスメント』（メヂカルフレンド社） 2. 草間朋子監修『からだの仕組みと働きを知る』（東京化学同人 2016） 3. 鎌倉やよい他『実践するヘルスアセスメント』（学研）
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
病院での看護師経験を持つ教員が、ヘルスアセスメントの概念や目的、方法について指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰの履修履歴があること

留意事項	1. 本科目は、人体の構造と機能の学習内容が基盤となる。よって、事前学習は必須である。 2. 演習に該当する講義を受けずに履修することはできない。講義を欠席した場合は、必ず担当教員の口頭による試験を受けること。口頭の試験に合格した者が演習を履修できる。日時は学生が調整して設定する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
57	看護過程展開論	1	30	必修	演習	2年前期	○金子潔子/小林たつ子/伊藤寿満子/倉科恵里

科目概要	「基礎看護技術Ⅲ」の基礎的な理解を基に、事例を用いてPBL方式で看護過程の展開の一連のプロセスを演習する。情報収集とその分析、アセスメント、全体像、看護問題の明確化(看護診断)、看護計画の立案、実施、評価、修正の実際、看護記録、看護サマリーを学修する。
到達目標	1. 事例を通して看護過程を展開し、専門的で多様な理論や知識を活用する意義とその実際的活用ができる。 2. 看護理論の枠組みを使用する意味が理解でき、一連の看護過程が展開できる。 3. 看護実践の記録としての意義と意味を理解し、看護記録ができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	50 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(看護過程の展開レポート)	40 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 講義終了時、次回の講義に関連する課題と熟読ページを提示する。 2. 演習やグループワークについても事前学習や課題等、単元ごとに提示する。
事後学習	事後課題として指示された課題を時間厳守で提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	グループワーク 事例紹介	事例の提示と必要な知識を確認する。	金子/小林 伊藤/倉科
2	グループワーク 情報の整理	事例展開① ヘンダーソンの枠組みで情報(常在条件・病理的状態)の整理と解釈をする。	金子
3	グループワーク 基本的欲求のアセスメント	事例展開② 基本的欲求の14項目のアセスメントをする。	金子
4	グループワーク 事例展開③	事例展開③ 基本的欲求の14項目のアセスメントをする。	金子
5	グループワーク 事例展開④	事例展開④ 看護問題を統合し看護問題の明確化をする。	金子
6	授業の振り返り	質問や補足授業及びグループワークを行う。	金子/小林 伊藤/倉科
7	グループワーク 事例展開⑤	事例展開⑤ 看護問題の優先度をつける。看護問題に対する看護目標(長期目標・短期目標)を立てる。	金子
8	グループワーク 事例展開⑥	事例展開⑥ 看護問題に対する看護計画を立案する。	金子
9	成果発表会の準備	各自が立案した援助計画を発表する準備を行う。	金子
10	成果発表会	各自が立案した援助計画を発表し意見交換を行う。	金子/小林 伊藤/倉科
11	グループワーク 援助計画の実施の準備	小グループで援助計画の一部を実施する準備をする。 患者役、看護師役、観察兼記録者	金子
12	グループワーク 援助計画の実施	小グループで援助計画の一部を実施し、援助を振り返るとともに記録を行う。 患者役、看護師役、観察兼記録者	金子
13	グループワーク 援助計画の実施	小グループで援助計画の一部を実施し、援助を振り返るとともに記録を行う。 患者役、看護師役、観察兼記録者	金子/小林 伊藤/倉科
14	グループワーク	事例に対し、情報の整理、解釈、基本的看護のニードの充足状況のアセスメント、看護問題の抽出、看護問題の統合と明確化、優先順位、看護目標・看護計画の立案、実施、記録と評価修正について、理論を基に展開してきた内容を整理する。	金子
15	講義:まとめ	基礎看護学実習Ⅱで、看護過程を実際に展開するにあたり、看護実践するということについて説明し、授業の総まとめを行う。	金子/小林 伊藤/倉科
16	定期試験	試験	金子

テキスト	参考書
・有田清子他『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』(医学書院) ・任和子編著『実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイドーヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによるー』(照林社)	・古橋洋子『電子カルテ導入のための看護診断・成果・介入・活用マニュアル』(Gakken) ・『関連図の書き方をマスターしよう』(医学芸術社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、事例を用いて看護過程の一連のプロセスを指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの履修履歴があること

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
58	看護倫理学	1	15	必修	講義	2年後期	小林たつ子

科目概要	看護職として、どのような倫理観をもって判断し行動したらよいかの倫理的態度の基本を修得する。また様々な価値、信条を持つ人々を対象とした倫理的な看護実践を提供するための基礎となる、人間の尊厳、意思決定、インフォームドコンセント、個人情報と守秘義務等の理解を基盤に看護の倫理原則、看護実践上の倫理概念を理解する。この基本的知識を根拠とし、臨床で遭遇する倫理的問題をもつ事例を検討し、倫理的問題へのアプローチの方法を理解する。
到達目標	1. 看護実践における倫理の重要性について理解する。 2. 臨床現場で看護師が遭遇する倫理的問題・ジレンマの背景・本質について考察する。 3. 倫理的問題解決のための方法について理解する。 4. 臨床で遭遇する医療状況における、患者・家族の確認について考察する。 5. 看護者の倫理綱領について検討し、看護専門職者が持つべき倫理的感受性を高め、責務を追求しようとする姿勢が持てる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワークへの取り組み)	10 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストで各回に該当する部分を読んでくる。
事後学習	配布資料、テキストの事例について復習する。適宜レポートを課す。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス看護の倫理学とは	・科目の進行・学習の仕方について、評価等 ・倫理とは何か、日常生活の中の倫理について ・医療倫理・看護倫理の基本的な考え方 ・看護倫理の歴史的推移	小林
2	看護の倫理綱領	・看護の倫理原則 ・看護専門職と倫理規範「看護職の倫理綱領」 ・看護師ではなく看護学生としての倫理的態度について検討する	小林
3	看護倫理に関する言葉の概念と考え方	・看護倫理における重要な概念 【アドボカシー、パターナリズム、プライバシーと守秘義務、ケアリング等】 ・インフォームドコンセントと看護師の役割、プライバシーと守秘義務	小林
4	倫理的問題解決モデル	・看護の場における倫理的問題・ジレンマ ・倫理的分析と意思決定モデル ・倫理的判断に必要な要素	小林
5	看護倫理と法的問題	・看護倫理判断に必要な法令やガイドライン「看護職者の基本的責務」 ・ナイチンゲール誓詞、ヒポクラテスの誓い、リスボン宣言	小林
6	事例を基に検討会1	事例から考える看護場面における倫理的問題の分析と対処①	小林
7	事例を基に検討会2	事例から考える看護場面における倫理的問題の分析と対処②	小林
8	振り返り ・ まとめ	・守秘義務と個人情報 【医療現場での場合】【日常生活の中での場合LINE、メール等】 ・全体のまとめ	小林
9	定期試験	試験	小林

テキスト	参考書
・宮坂道夫『系統看護学講座別巻「看護倫理」第2版』(医学書院) ・日本看護協会監修『看護の基本的責務』(日本看護協会出版会)	・ミルトン・メイヤロフ、田村真、向野宜之助訳『ケアの本質』(ゆるみ出版)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護職者としてどのような倫理観を持って判断し、行動したらよいのか指導する。	なし

留意事項	自分の考えを出し合って多くの価値観に触れることが重要であるので、話し合いが多い。他者の考えをよく聴きながら考え、自己の考えを積極的に表出することが学びとなるため、積極的・主体的に討論会に参加すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
59	地域・在宅看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	関永信子

科目概要	在宅看護の社会的背景をはじめ、在宅看護の目的、基本的な理念や関連する概論を学修し、地域で暮らす対象者への支援の基盤となる制度や役割を学ぶ
到達目標	1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景を説明できる。 2. 在宅看護の特徴や役割を説明できる。 3. 在宅看護の援助の基本や求められる姿勢が説明できる。 4. 在宅看護を支えるシステムや制度を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(課題レポート授業への取り組み)	20 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	地域包括ケア論の学習内容を復習し参加する。
事後学習	1. 15回の授業のうち、4回ほど10分程度の小テストを実施する。(テスト内容や範囲は事前に告知する。) 2. 保健医療福祉に関する.新聞、雑誌、報道などから一つ「話題」を選び、自分の意見や感想をレポートとして提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	在宅看護の変遷	在宅看護の原点　在宅看護の制度化	関永
2	在宅看護の背景と目的	在宅ケアを必要とする背景　在宅看護の目的	関永
3	在宅看護に求められる理念	在宅看護の基本理念　倫理	関永
4	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者　在宅看護の成立要件	関永
5	在宅看護に求められる役割	在宅看護の役割　求められる姿勢	関永
6	家族と家族支援	家族について　家族への支援	関永
7	在宅看護を支える仕組み	地域包括ケア	関永
8	在宅看護を支える法制度1	社会資源　制度	関永
9	在宅看護を支える法制度2	介護保険制度　医療保険制度など	関永
10	訪問看護ステーション	訪問看護ステーションの概要と役割	関永
11	在宅看護の展開	療養の場の移行期に伴うケア　退院支援　退院調整　継続ケア　連携	関永
12	在宅看護を支える人々1	訪問看護師　介護支援専門員　退院支援看護師他	関永
13	在宅療養を支える人々2	地域包括支援センターの業務と役割	関永
14	訪問看護の実際1	訪問看護の実践内容	関永
15	訪問看護の実際2	在宅看護の求めれる役割	関永
16	定期試験	試験	関永

テキスト	参考書
・臺有佳編者『ナーシンググラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア』(メディカ出版)	テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、在宅看護の概要やサービス提供の仕組みおよび訪問看護の実際を指導する。	なし

留意事項	1. 地域包括ケア論の学習を基盤に、本科目を関連づけ学修する。 2. 学修課題には主体的に取り組む。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
60	地域・在宅看護援助論Ⅰ (援助方法論)	1	30	必修	演習	2年後期	○関永信子/木村久枝

科目概要	地域で生活する人々とその家族を理解し、在宅看護の基本に基づいた援助方法を学修する。さらに臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
到達目標	1. 対象者に応じた日常生活援助の基本や工夫を理解する。 2. 日常生活を支える看護技術を修得する。 3. 在宅医療機器の安全な取り扱いと管理が説明できる。 4. 社会資源の援助内容と活用方法を理解し、看護の役割を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(課題レポート授業への取り組み)	20 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 学習の前半に、「地域包括ケア論」「地域・在宅看護学概論」に関する基礎的な内容を事前学習として提示する 2. 15回の授業中、4回程度学習内容を確認する小テストを行う(範囲や内容は事前に告知する)
事後学習	「学びのカード」に主体的に学んだ内容を記載する

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	在宅日常生活援助に基本	権利保障　自己決定の尊重　生活を支える社会資源	関永
2	在宅看護を支える基本技術1	家庭訪問　訪問時の手順と倫理やマナー	関永
3	在宅看護を支える基本技術2	コミュニケーション　感染予防　療養環境の整備	関永
4	コミュニケーション	コミュニケーションの支援　文字盤や意思伝達装置	関永/木村
5	在宅医療機器の取り扱い1	在宅酸素療法対象者　在宅酸素機器の管理と指導	関永/木村
6	在宅医療機器の取り扱い2	在宅人工呼吸器の対象者　在宅人工呼吸機器の管理と指導	関永/木村
7	排泄援助が必要な対象者へのケア1	排泄援助の基本　排泄援助の工夫　ストーマ　膀胱留置カテーテルの管理	関永/木村
8	排泄援助が必要な対象者へのケア2	在宅における排泄用具の選び方　排泄用具の数々　紙おむつの種類	関永/木村
9	清潔援助が必要な対象者へのケア1	清潔援助の基本　清潔援助	関永/木村
10	清潔援助が必要な対象者へのケア2	在宅における清潔援助の工夫　身の回りのもので活用する清潔援助	関永/木村
11	食の援助が必要な対象者へのケア1	食生活や嚥下に関する工夫　自助具　とろみ剤	関永/木村
12	食の援助が必要な対象者へのケア2	食の援助　経管栄養と胃瘻の援助	関永/木村
13	在宅看護の展開1	退院時の意思確認　家族の意向　在宅療養成立要件　サービス	関永
14	在宅看護の展開2	情報の収集　居宅介護サービス計画書　医師の訪問看護指示書　など	関永
15	在宅看護の展開3	療養者と家族のニーズ　優先度　短期目標と長期目標の設定	関永
16	定期試験	試験	関永

テキスト	参考書
・臺由香編者『ナーシンググラフィカ 在宅看護論 在宅療養を支える技術』(メディカ出版) ・関永信子著『ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開』(ふくろう出版)	テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および臨床判断を行う際の根拠について指導する。	なし

留意事項	1. 既習内容と関連づけ、アクティブな学習に心がける。 2. 実際の場面を想定した学習を通して援助技術を習得する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
61	地域・在宅看護援助論Ⅱ (援助の実際)	1	30	必修	演習	3年前期	○関永信子/木村久枝

科目概要	地域で生活する人々への根拠に基づく援助と求められる援助の実際を学修する
到達目標	1. 対象者の日常生活を支える支援とシステムが説明できる。 2. 訪問場面を模擬体験し、求められる援助の基本と訪問時の配慮が理解できる。 3. 療養生活における医療機器や生活環境の安全管理が理解できる。 4. 在宅生活を支える看護者の役割と多職種連携が理解できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	20 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(看護過程の展開)	50 %	
合計	100 %	

事前学習	「地域・在宅看護学概論」、「地域・在宅看護援助論Ⅰ」の学習を復習し参加する。
事後学習	「学びのカード」に主体的に学んだ内容を記載する

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	在宅看護の展開	学習のガイダンス　学習の進め方と事前課題の提示　学習資料の配布など	関永
2	在宅看護過程の展開1	事例の紹介　(脳梗塞・認知症・筋萎縮性側索硬化症)	関永
3	在宅看護過程の展開2	情報の整理とアセスメント	関永
4	訪問看護の実際1	医師による訪問看護指示書　訪問目的と訪問時のマナー	関永/木村
5	訪問看護の実際2	訪問時のロールプレイ	関永/木村
6	訪問看護の実際3	訪問時のロールプレイ	関永/木村
7	在宅医療機器の管理と指導1	在宅酸素療法対象者の概要　酸素機器の取り扱いと指導	関永/木村
8	在宅医療機器の管理と指導2	在宅人工呼吸療法対象者の概要　人工呼吸機器・排痰機器の取り扱いと指導	関永/木村
9	在宅におけル事故防止1	在宅生活に潜む危険や事故	関永/木村
10	在宅における事故防止2	在宅療養中、起きやすい4つの場面から事故の予測と対策をシュミレーションする	関永/木村
11	住環境の整備1	住環境のアセスメント　紙上事例	関永/木村
12	住環境の整備2	住環境の整備　安全な自宅生活を提案する(見取り図の作成)	関永/木村
13	在宅療養を支える多職種連携1	訪問看護の実際『印象や記憶に残る事例から』	関永/木村
14	在宅療養を支える多職種連携2	訪問看護の実際	関永/木村
15	在宅看護に求められる看護の役割	看護の展開と求められる援助と役割	関永

テキスト	参考書
・臺由香編者『ナーシンググラフィカ 在宅看護論 在宅療養を支える技術』(メディカ出版) ・関永信子著『ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開』(ふくろう出版)	テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および臨床判断を行う際の根拠について指導する。	なし

留意事項	1. 既習内容と関連づけ知識を統合する。 2. 地域・在宅看護実習に活用できるよう学習内容の統合を図る。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
62	地域包括ケア論	1	15	必修	講義	1年後期	関永信子

科目概要	地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援するための、地域包括ケアの基礎的な理解とサービス提供の仕組みについて理解し、多職種連携やチーム医療による看護の役割を学修する。
到達目標	1. 暮らしと地域包括ケアの対象を説明できる 2. 生活を支える地域包括ケアの構成要素とサービス提供の仕組みが説明できる 3. 対象を取り巻く保健・医療・福祉間の必要性が理解できる 4. 長野県松本市の地域の環境が生活に与える影響をインタビューできる

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(課題レポート授業への取り組み)	20 %	
合計	100 %	

事前学習	課題については1回目の授業時に提示する。
事後学習	1. 暮らしに着目し、自らのライフイベントをイメージする。 2. .高齢者を想像し、「地域での暮らしと課題」をレポートする。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	暮らしと日常生活	日常生活とは何か　暮らしの困難さについて	関永
2	支え合って生きる	友人や知人　自助と互助　共助と公助　社会資源	関永
3	地域の文化と自然環境	地域の特性と健康	関永
4	地域で療養生活を送る人々	地域包括ケアの対象者と家族	関永
5	生活を支える制度と仕組み	生活支援と福祉サービス	関永
6	地域生活を支える人々	専門職と非専門職	関永
7	暮らしの中で行われる治療と看護	在宅医療	関永
8	求められる看護の役割	求められる姿勢　尊重　権利の擁護	関永
9	定期試験	試験	関永

テキスト	参考書
・関永信子著『地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践』(翔雲社)	指定はしない。授業に応じ資料や参考文献を提示する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、地域の特性や実情に応じたサービス提供の仕組みや、多職種連携について指導する。	なし

留意事項	1. アクティブな学習(調べる・確かめる・確認する)に心がける。 2. 自分の考えや思いを文章で表現する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
63	家族看護学	1	15	必修	講義	3年前期	○百瀬ちどり/横山芳子/内藤美智子

科目概要	家族看護を基盤に、療養者とその家族の健康と生活に対する課題を理解し、家族に応じた援助の工夫や配慮を学ぶ。近代家族の特徴や家族の機能および家族の基礎理論を理解する。次いで看護領域で用いられる代表的な家族の定義を理解し、時代や文化、社会の変動を踏まえて多様化する家族の価値観やライフスタイルに応じた家族への援助を学ぶ。
到達目標	1. 近代家族の特徴と多様な家族を説明できる。 2. 要介護者を介護する家族の状況と介護問題を討議できる。 3. 家族への援助のポイントや援助の課題を説明できる。 4. 介護を通してもたらされる家族への影響と看護の役割を説明できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	80 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(課題レポート授業への取り組み)	20 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	課題については1回目の授業時に提示する。
事後学習	1. 暮らしに着目し、自らのライフイベントをイメージする。 2. 高齢者を想像し、「地域での暮らしと課題」をレポートする。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	多様な家族の理解	近代家族の特徴・多様な家族形態を理解する	内藤
2	「家族の健康」上のニーズを理解する	家族の機能と家族の問題・健康な家族とは、を理解する	内藤
3	要介護高齢者と家族の理解及び援助について学ぶ	高齢者虐待、要介護高齢者を介護する家族の状況を理解し、看護援助を考える	横山
4	母子看護と家族の理解及び援助について学ぶ	障害を持つ児を介護する家族の状況を学び看護援助を考える	横山
5	急性期にある療養者と看護	家族への援助のポイントと課題を理解する	横山
6	慢性期にある療養者と家族と家族	在宅療養のプロセスと援助の課題を理解する	百瀬
7	終末期にある人と家族の理解と援助	家族の心理とそれにによってもたらされる影響を理解する	百瀬
8	家族看護の方法	家族看護の実践	百瀬
9	定期試験	試験	百瀬/横山

テキスト	参考書
・「家族看護学」南江堂	指定しない。授業に応じ資料や文献を提示する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員等が、多様化する家族の価値観やライフスタイルに応じた援助を指導する。	なし

留意事項	レポートの提出には、表紙にテーマ・科目名・提出日・学籍番号・氏名・を明記　A4用紙横書き　明朝体(パソコン・手書きどちらも可)10.5から11フォント　2枚程度　参考文献があれば明記する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
64	成人看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	○今井栄子/鮎川昌代

科目概要	ライフサイクル/成人期(青年期・壮年期・中年期)の人々における発達課題や健康上のニーズ・健康問題を身体的・心理精神的・社会的特徴を統合的にとらえ、対象者の持つ健康課題、その看護について理論的基礎から学び、さらに対象者のセルフケアの促進に視点を向け成人各期の特徴を基本に、ストレスと危機、健康障害について理解を深め、健康管理行動を促進、回復を支援する治療における看護援助の目的・方法、看護の役割を考えることができることをねらいとする。
到達目標	1. 対象論の理解:ライフサイクルにおける成人期の位置づけと各サイクルの定義・発達課題について説明できる(対象論の理解)。 2. 発達段階の成人各期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 3. 成人期の健康・健康障害について説明できる。 4. 成人看護学で活用される看護理論の概要について説明できる。 5. 病気の経過とそれに対する基本的看護の説明ができる。 6. 成人看護学実践者として、看護者の役割について説明できる。 7. 成人看護学を実践する際の看護過程について説明できる。 8. チーム医療について、看護者の立ち位置、役割を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義当日該当箇所を要約しノート記載して出席。 2. 各授業の終了前、該当テーマについて知識の確認を行う。
事後学習	当日の該当テーマに沿って講義・教科書から復習・まとめをすること。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション　対象論・援助論(生活者としての対象者をとらえる)①	Part 1 成人看護学の概念 第Ⅰ章　成人看護学の概念と構成	今井/鮎川
2	オリエンテーション　対象論・援助論(生活者としての対象者をとらえる)②	第Ⅱ章　成人看護学の特性	鮎川
3	成人期の健康障害　倫理的判断　倫理的課題①	第Ⅲ章　保健・医療・福祉における動向と課題	鮎川
4	成人期の健康障害　倫理的判断　倫理的課題②	第Ⅳ章　成人看護における倫理と看護者の役割	鮎川
5	健康レベルの枠組み①	Part 2 成人期にある人の健康 第Ⅴ章　健康レベルにおける枠組み①	鮎川
6	健康レベルの枠組み②	第Ⅴ章　健康レベルにおける枠組み②	鮎川
7	看護理論とその応用①	Part 3　成人期にある人への看護援助 第Ⅵ章　成人期に使用される理論・モデル①	今井/鮎川
8	看護理論とその応用②	第Ⅵ章　成人期に使用される理論・モデル②	今井/鮎川
9	ヘルスアセスメントの目的 内容と方法①	第Ⅶ章　成人におけるヘルスアセスメント	今井
10	ヘルスアセスメントの目的 内容と方法②	第Ⅸ章　継続看護と健康教育	鮎川
11	成人期の特徴を捉えた看護過程①	第Ⅷ章　看護過程の展開	今井
12	成人期の特徴を捉えた看護過程②	第Ⅷ章　ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断	今井
13	看護診断①	看護診断　NANDA-I とは①	今井
14	看護診断②	ゴードンの機能的健康パターンと看護診断NANDA-I の実際　①	今井
15	看護診断③	ゴードンの機能的健康パターンと看護診断NANDA-I の実際　②	今井
16	定期試験	試験	今井/鮎川

テキスト	参考書
・大西和子他編集『成人看護学概論』(ヌーヴェルヒロカワ) ・NANDAI-I　看護診断　定義と分類　2021-2023(医学書院)	なし
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人期看護の特性などについて指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
65	成人急性期看護論	2	60	必修	演習	3年前期	○今井栄子/近藤恵子/垣内いづみ

科目概要	成人急性期看護における基礎知識と実践能力を育む。周手術期のシュミュレーション課題を通して演習、看護過程の展開を理解・実施し、実践力をつける。各病院の電子カルテに対応できるNANDA-Iを活用して情報収集、アセスメント、分析・理解、看護診断、看護ケア、評価の展開ができることを目指す。
到達目標	1. 成人急性期に必要な知識、専門用語の習得と説明ができ、看護過程の展開ができる。 2. 対象者の周手術期のフィジカル・ヘルスアセスメントができる。 3. 疾病の特徴、周手術期の期間(術前・術中・術後)に必要な看護ケアの説明ができる。 4. 対象者に必要な看護過程の展開ができる 特に各手術期間に応じた看護診断、看護ケアの理解と説明ができる。 5. 術後合併症予防のための看護介入の説明ができる。 6. 退院指導、継続看護の必要性を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・その他(Active Note 作成)	10 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(看護過程展開シート)	10 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義当日該当箇所を熟読、要約しノート記載して出席。 2. 各授業の終了前、該当テーマについて知識の確認を実施する。事前学習、授業中の集中力を主体的に自己研鑽のこと講義、事前学習課題で学習したことを基に演習に臨む演習に伴う記録など課題は、必ず提出のこと 支持された動画を視聴し、学習記録を提出する。
事後学習	当日の該当テーマに沿って講義・教科書から復習・まとめをすること。看護過程の演習記録は指示された日時に提出する。(提出期限を厳守)

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション 成人看護学急性期周手術期の概要 1	総論 序章 外科看護の特徴と課題 第1章 外科患者の病態の基礎 第2章 外科的治療を支える分野	今井
2	成人看護学急性期周手術期の概要 2	第3章 外科治療の実際	今井
3	法的環境 1	第4章 救急看護の基礎	今井
4	法的環境 2	第5章 看護を取り巻く法的環境	今井
5	周手術期患者の看護 1	第6章 周手術期看護の概論	今井
6	周手術期患者の看護 2	第7章 手術前患者の看護	今井
7	周手術期患者の看護 3	第8章 手術中患者の看護 第12章 集中治療を受ける患者の看護	今井
8	周手術期患者の看護 4	第9章 手術後患者の看護	今井
9	周手術期患者の看護 5	第10章 手術を受ける高齢者の看護	今井/垣内
10	脳神経・頭部疾患患者の看護	各論 第4章 脳・神経 第5章 頭部・頸部	今井/垣内
11	胸部疾患患者の看護	各論 第1章 肺および胸部 肺・胸部の疾患 胸部疾患患者の看護 1	今井
12	胸部疾患患者の看護	各論 第1章 肺および胸部 肺・胸部の疾患 胸部疾患患者の看護 2	今井/近藤
13	心臓・脈管系患者の看護 1	第2章 心臓および脈管系 心臓・脈管系疾患患者の看護 1	今井

教育内容	14	心臓・脈管系患者の看護 2	第2章　心臓および脈管系　心臓・脈管系疾患患者の看護 2	今井
	15	消化器・腹部疾患系患者の看護	第3章　消化器および腹部　消化器および腹部疾患系患者の看護	今井/近藤
	16	看護過程	ロイ適応モデルの看護過程 ゴードン　機能的健康パターンと看護診断1	今井
	17	アセスメント①	ゴードン　機能的健康パターンと看護診断2	今井
	18	アセスメント②	ゴードン　機能的健康パターンと看護診断3	今井
	19	アセスメント③	ゴードン　機能的健康パターンと看護診断4	今井
	20	看護診断①	看護診断とは　NANDA-I	今井
	21	看護診断②	看護診断　　NANDA-I	今井
	22	シミュレーション①	開腹手術事例展開　演習1	今井/近藤/垣内
	23	シミュレーション②	開腹手術事例展開　演習2	今井/近藤/垣内
	24	シミュレーション③	開腹手術事例展開　演習3	今井/近藤/垣内
	25	シミュレーション④	開腹手術事例展開　演習4	今井/近藤/垣内
	26	シミュレーション⑤	腹腔鏡下手術例展開　演習1	今井/近藤/垣内
	27	シミュレーション⑥	腹腔鏡下手術例展開　演習2	今井/近藤/垣内
	28	シミュレーション⑦	腹腔鏡下手術例展開　演習3	今井/近藤/垣内
	29	事例展開発表①	演習事例発表1	今井/近藤/垣内
	30	事例展開発表②	演習事例発表2	今井/近藤/垣内
	31	定期試験	試験	今井/近藤/垣内

テキスト	参考書
・矢永勝彦(編)『系統別看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」』 ・北島政樹(編)『系統別看護学講座 別巻「臨床外科看護各論」』 ・T.ヘザー・ハードマン上鶴重美訳『NANDA-I 看護診断 定義と分類』(医学書院)	・M.ゴードン著、上鶴重美訳『アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断』

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人急性期看護における基礎知識と実践能力について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名（複数の教員が担当する場合、科目責任者＝〇）
66	成人慢性期看護論	2	60	必修	演習	2年後期	〇鮎川昌代/近藤恵子/垣内いづみ

科目概要	成人各期の健康保持や疾病予防と、成人の健康課題・管理・マネージメントに応じた看護について理解し、成人慢性期看護学の基本となる援助方法を学ぶ。リアリティのある事例のシミュレーションを設定し、「気づく」を支援し、ディスカッション（プレブリーフィングとディブリーフィング）を重ね、記録によるリフレクションを活用して、臨床判断能力を学ぶ。
到達目標	1. 成人期の心身の特徴及び罹患率の高い疾患の看護について理解し、健康問題をもつ成人のアセスメント及びその援助法を学習する。 2. 慢性期看護の特徴及びがん看護の特徴を学ぶ。 3. 事例を通して、慢性期・終末期における患者のアセスメント、看護上の問題を取り出し、援助計画を立案することができる。 4. 慢性期・終末期の患者への具体的な援助技術、援助方法を実践し修得できる。 5. 慢性期・終末期にある患者の意思決定支援について、看護の立場から自分の意見を述べることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	〇	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間：授業終了後 方法：Teams他
	〇	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	〇	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	40 %	
	〇	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講態度（積極性など）	0 %	
	〇	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2. 事前課題は必ず行い提出するとともに、講義・事前課題で学習したことを基に演習に参加する。 3. 演習に伴う事前学習・課題がある場合は、単元ごとに演習前に提示する。 4. 指示された動画等を視聴する。
事後学習	講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	・健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学修する。	鮎川/近藤/垣内
2	データーヘルス計画	・成人期にある人の発達課題と発達危機について理解し、看護の役割を学習する。 ・医療費から見る慢性疾病構造の変化を学修する。	鮎川/近藤/垣内
3	健康課題	・生活習慣病を含む非伝染性疾患（non-communicable diseases:NCDs）。 ・慢性期疾患の急性増悪や繰り返す入退院について学修する。	鮎川/近藤/垣内
4	慢性疾患管理	・成人教育のアンドラゴジー（Adoragogy）の観点からの十分な疾患教育。 ・一次予防から3次予防の必要性を学習する。	鮎川/近藤/垣内
5	健康マネージメント	・成人期にみられる多様な健康課題と保健行動 ・自己効力理論・セルフマネージメントを理解し、成人看護への応用を学習する。	鮎川/近藤/垣内
6	病みの軌跡	・慢性疾患をもつ成人に有用な病みの軌跡の理論を理解し、看護への応用について学習する。	鮎川/近藤/垣内
7	変化のステージモデルと健康信念モデル	・成人に有用な変化ステージモデルと健康信念モデルとその活用法を学習する。	鮎川/近藤/垣内
8	セルフケアの再獲得（リハビリテーションを含む）	・さまざまな喪失をした成人がその人らしく自立して生きるためのセルフケアの再獲得と看護の役割を学修する。	鮎川/近藤/垣内
9	がん治療における看護①	・化学療法、放射線療法について ・ステロイド治療について	鮎川/近藤/垣内
10	がん治療における看護②	・終末期がん患者の気持ちによりそうコミュニケーションについて ・プロセスレコードの記載について	鮎川/近藤/垣内
11	成人期にある人の看護実践の倫理	・成人・家族を看護するうえで直面しやすい倫理問題とその背景について理解し、最善策を検討する方法や支援について理解し、看護への応用を学習する。	鮎川/近藤/垣内
12	成人期にある人の看護実践を考える	・成人の患者教育について ・看護計画の立案と看護展開（アセスメント）の理解	鮎川/近藤/垣内
13	慢性疾患を持つ患者の看護【糖尿病】①	・事例1Ⅱ型糖尿病（強化インスリン療法が必要になった糖尿病患者）の理解 ・事例1の看護展開（アセスメント、情報の統合・判断結果）の理解	鮎川/近藤/垣内

教育内容	14	慢性疾患を持つ患者の看護【糖尿病】②	・血糖自己測定の意義と方法 ・慢性腎臓病（糖尿病性腎症が進行し、透析導入となった患者）の理解	鮎川/近藤/垣内
	15	処置を受ける患者の看護（演習①）	・食品交換表の理解と使用方法 ・退院調整や退院指導の方法	鮎川/近藤/垣内
	16	処置を受ける患者の看護（演習②）	・血糖自己測定の演習 ・退院指導パンフレットの作成	鮎川/近藤/垣内
	17	その人らしく生きていくための看護支援①	・術後放射線療法後に化学療法を受けている乳がん患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	18	その人らしく生きていくための看護支援②	・肺がんの骨転移でがん性疼痛のある終末期の患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	19	その人らしく生きていくための看護支援③	・慢性心不全で生活習慣改善の指導を受けている患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	20	その人らしく生きていくための看護支援④	・COPDでNIPPV療法中の患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	21	その人らしく生きていくための看護支援⑤	・不慮の事故で一肢切断を受けた患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	22	その人らしく生きていくための看護支援⑥	・脳血管障害後で半身麻痺がある患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	23	その人らしく生きていくための看護支援⑦	・職場復帰に不安をみせる人工肛門患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	24	その人らしく生きていくための看護支援⑧	障害受容が困難な関節リウマチ患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	25	その人らしく生きていくための看護支援⑨	・中途視覚障害者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	26	その人らしく生きていくための看護支援⑩	・セルフコントロール腹膜透析患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	27	その人らしく生きていくための看護支援⑪	・健康診断で肝機能障害を指摘された患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	28	その人らしく生きていくための看護支援⑫	・患者とその家族の援助を理解する。	鮎川/近藤/垣内
	29	成人期からのアンチエイジング①	・食事療法・運動療法	鮎川/近藤/垣内
	30	成人期からのアンチエイジング②	・身体の免疫システムに密接に関係するストレスに打ち勝つ。	鮎川/近藤/垣内
	31	定期試験	試験	鮎川/近藤/垣内

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 成人看護学総論』（医学書院） ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2～11』（医学書院）	・解剖生理学、栄養と代謝、疾病論・障害論で使用したテキスト ・Anselm L.Strauss他著、南裕子監訳『慢性疾患を生きるーケアとクオリティ・ライフの接点』（,医学書院 1987）
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人慢性期看護における基礎知識と実践能力について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
67	緩和ケア論	1	15	選択	講義	2年後期	○鮎川昌代/垣内いづみ

科目概要	緩和ケアは、WHOによって「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理的問題、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切な評価と治療によって、苦痛の予防と緩和を行うことで、QOLを改善するアプローチである」と定義されている。「基本的な苦痛の緩和」のシミュレーション演習を取り入れながら、知識を持ち実践できる臨床判断能力を学ぶ.
到達目標	1. 緩和ケア、End・of・Life Care の歴史・理念を理解し、日本の現状について説明できる。 2. 緩和ケアの対象者の心身の特徴と必要な看護について説明できる。 3. 緩和ケア領域における患者・家族のスピリチュアルな側面について説明することができる。 4. 緩和ケアにおける倫理的課題について説明できる。 5. 最期を迎える対象者への End・of・Life Care、家族のグリーフワークについて、理解できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	10 %	時間:授業終了後 方法:Teams他
○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	40 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他( )	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	プレゼンテーションの準備、指定文献のプレゼンテーションの準備。
事後学習	配布資料を使って復習を行う。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	緩和ケア概論	緩和ケアの歴史と理念、日本の緩和ケアの現状、チーム 医療の必要性や緩和ケアに関する制度について学習する。(がん基本法・医療費に関する制度など)	鮎川/垣内
2	全人的苦痛とは何か	緩和ケアの対象者と看護の特徴について学習する。(全人的苦痛・意思決定への支援・緩和ケアにおける看護介入・ケアの場など)	鮎川/垣内
3	死に行く人の心理プロセス	緩和ケアにおける対象者の身体的苦痛とケアの方法について学習する。(疼痛管理・主な身体的症状へのケア死に行く人の心理・危機への介入・がんと職業など)	鮎川/垣内
4	スピリチュアルな苦痛	緩和ケアにおける対象者のスピリチュアルな苦痛とケアの方法について学習する。(がんというスティグマとは)	鮎川/垣内
5	倫理的課題	緩和ケアにおける倫理的課題について学習する。 (QOL・尊厳死・安楽死・鎮静などに関する課題をグループで討議)	鮎川/垣内
6	死生観とは	看取りのケアと家族へのケアを学習する。 (死が近づいたときの変化、予期悲嘆・悲嘆へのケアなど)	鮎川/垣内
7	グループ発表	End-of-Life Careにおける自身の体験や映画からの事例を作成し、発表する。	鮎川/垣内
8	緩和ケアのまとめ	緩和ケアに関する総括	鮎川/垣内
9	定期試験	試験	鮎川/垣内

テキスト	参考書
必要に応じて資料を配布する。	・特定非営利活動法人日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会(2014) ・著:小松浩子他『系統看護学講座別巻 がん看護学』(医学書院 2017) ・編:恒藤暁他『緩和ケア』(医学書院 2014) ・著:キュブラー・ロス、鈴木 晶『死ぬ瞬間』(2001)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、緩和ケアに求められる基礎的知識を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
68	老年看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	百瀬ちどり

科目概要	加齢による身体、精神、心理、社的な特徴とそれに伴う生活の変化など、老年期にある人々について理解を深める。老年期の考え方、捉え方について今日的な課題も含めて、様々な側面から考えることができることを目指す。高齢者の健康を支えるための看護の役割とそれに伴う倫理について理解する。生活障害、健康障害を持つ高齢者やその家族について理解し、自己の老年観の形成を目指す。
到達目標	1. 加齢変化が引き起こす身体的、心理的、社会的な生活面の変化を理論的・体験的に理解できる。 2. 老年者に特徴的な疾患とその看護について説明することができる。 3. .老年者を取り巻く現状(統計的・社会保障面等)と課題について説明できる。 4. 自己の老年観を養うことができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワーク)	10 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	加齢に伴う変化について必ず読んでくること。
事後学習	事後課題についてまとめること。レポート等は提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	高齢社会の現状	統計指標から高齢社会の現状を読み取る	百瀬
2	高齢者をめぐる社会保障①	高齢者に関わる保健医療福祉制度の変遷と現状を学ぶ	百瀬
3	高齢者をめぐる社会保障②	介護保険制度について理解する	百瀬
4	老年期の理解①	生活の変化が与える影響を理解する	百瀬
5	老年期の理解②	身体的変化、心理的変化が与える影響を理解する	百瀬
6	高齢者の健康問題	高齢期に起こりやすい疾患について理解する	百瀬
7	認知症高齢者対策	認知症の基本的な理解と制度や政策について理解する	百瀬
8	高齢者を理解する①	DVDを視聴し、自己の高齢期を考える　グループワーク	百瀬
9	高齢者を理解する②	加齢に伴う身体・心理・社会的な変化を体験する　高齢者体験演習	百瀬
10	高齢者の生活史を理解する	身近な高齢者とのコミュニケーション　課題レポート	百瀬
11	終末期ケアと家族	終末期の介護や介護家族について看護の視点から学ぶ	百瀬
12	老年看護の機能する場	老年看護が必要とされる場の広がりと看護活動の特徴について理解する	百瀬
13	高齢者の権利擁護	高齢者の意思決定支援、高齢者虐待防止と看護	百瀬
14	高齢者のリスクマネジメント	薬物治療・手術時の看護、災害時の支援について理解する	百瀬
15	老年看護の課題	高齢者の社会参加、生活環境の変化、家族形態の変化、生活支援と看護を理解する	百瀬
16	定期試験	試験	百瀬

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院) ・『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、高齢者の進退・心理・社会的特性について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
69	老年症候群援助論	1	15	必修	講義	2年後期	百瀬ちどり

科目概要	老年症候群について理解を深め、看護援助が説明できることを目指す。加齢に伴う様々な身体的変化や社会的変化がもたらす高齢者の急性疾患や慢性疾患の特徴的な病態と症状について理解する。様々な症状を多面的に理解しアセスメントする能力を養う。高齢者の看護援助の基本的知識の習得を目指す。
到達目標	1. フレイルと老年症候群について理解する。 2. 高齢者が多くの疾患や症状を併せ持つことを理解する。 3. 老年症候群に含まれる様々な症状について理解する。 4. 加齢変化と病態・治療とをアセスメントし援助が考えられる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	90 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(　　)	0 %	
合計	100 %	

事前学習	加齢に伴う身体的な変化、生理機能の変化について復習して参加すること。
事後学習	講義後は事後課題を行うこと、提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	老年症候群の病態と症状の理解1	フレイルと老年症候群	百瀬
2	老年症候群の病態と症状の理解2	急性疾患・慢性疾患に付随する症候	百瀬
3	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護1	摂食・嚥下機能低下を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
4	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護2	排泄障害を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
5	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護3	運動機能障害を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
6	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護4	睡眠障害を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
7	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護5	感覚器の障害(視覚・聴覚)を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
8	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護6	コミュニケーション障害を持つ高齢者のアセスメントと看護	百瀬
9	定期試験	試験	百瀬

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』(医学書院) ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院)	・葛谷雅文、雨海照祥編『フレイル　高齢社会における最重要課題と予防戦略』(医歯薬出版) ・『生活機能から見た老年 看護過程』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、高齢者の急性疾患や慢性疾患の特徴的な病態と症状を指導する。	老年看護学概論の単位を修得していること。

留意事項	形態機能学を復習して臨むこと

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
70	老年看護援助論	1	30	必修	演習	3年前期	百瀬ちどり

科目概要	事例を用いて慢性症状や機能障害を持つ高齢者への看護援助を考える。紙上事例から、老年期に起こりやすい健康問題のアセスメント、看護援助計画の立案、実践のための知識・技術を習得し看護過程が展開できる能力を養う。学内での講義と臨地実習をつなぐことを狙いとする。
到達目標	1. 生活機能の視点からヘルスケア・アセスメントの技法について習得する。 2. 紙上事例に示された情報から看護に必要な情報を選び、情報の解釈、情報の関連を考えて対象の全体像を把握する。 3. 高齢者が持てる機能を活かして健康に生きてゆくための視点をもって看護援助が考えられる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	人体の解剖生理について復習する。加齢変化について復習する。
事後学習	課題レポートは指示された期日に指示された形式で提出すること。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	老年看護における看護過程の展開ー脳血管障害による片麻痺のある高齢者ー事例の提示	百瀬
2	病態の説明1	脳血管障害の治療と看護	百瀬
3	病態の説明2	運動・排泄機能障害と看護	百瀬
4	病態の説明3	移乗・移動動作と看護	百瀬
5	演習1　グループワーク	看護過程の展開 情報整理と確認・アセスメント	百瀬
6	演習2　グループワーク	アセスメントと関連図	百瀬
7	演習3	認知機能障害によっておこる様々な症状の理解。環境の変化によるせん妄への介入	百瀬
8	演習4　グループワーク	認知機能障害によっておこる様々な症状の理解。環境の変化によるせん妄への介入	百瀬
9	演習5　グループワーク	ケア計画の展開	百瀬
10	演習6	グループワークの介入計画の発表、全体討議	百瀬
11	演習7	ケア計画の見直し	百瀬
12	演習8	ケア計画、手順書の作成	百瀬
13	演習9　グループワーク	手順書の確認・討議	百瀬
14	演習10	事例の看護援助を基に高齢者の意思確認をする　ロールプレイ	百瀬
15	演習11	要介護高齢者の看護過程のまとめ	百瀬
16	定期試験	試験	百瀬

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院)	・『生活機能のから見た老年 看護過程』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、老年看護の基本的技術を指導する。	老年看護学概論、老年症候群援助論の単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
71	認知症ケア論	1	15	選択	講義	2年後期	百瀬ちどり

科目概要	認知症について、医学的理解を深め多様な症候について理解する。認知症の高齢者の生活障害と生活支援、健康支援のための援助について、看護の役割を理解する。認知症をめぐる政策についても触れ、高齢者と認知症の今日的課題について理解する。入院治療を要する認知症高齢者の急性期に起こりやすい症状、回復期の支援のあり方を学ぶ。
到達目標	1. 認知症の定義、症状が理解できる。 2. 周辺症状と中核症状と生活障害を理解し援助が考えられる。 3. 認知症高齢者の生活の場、療養の場における看護について理解する。 4. 認知症高齢者の尊厳を守るということを理解する。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	50 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	50 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間：授業内で伝達
場所：研究室

事前学習	1. 老年看護学概論・老年症候群援助論を復習しておくこと。 2. 認知症について病態を確認し参加する。
事後学習	指示された課題は提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	認知症の病態と治療の理解①	認知症を引き起こす疾患の病態・治療の理解	百瀬
2	認知症の病態と治療の理解②	認知機能評価と看護の考え方	百瀬
3	認知症高齢者と家族への看護	認知症の人の特徴・行動障害がもたらす生活上の困難の理解	百瀬/特別講師
4	認知症高齢者を介護する家族の理解	認知症の人を介護する家族の負担と社会資源の活用の理解	百瀬
5	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響①	事例を用いて認知症の行動障害と日常生活上の困難、入院治療を必要とする人のアセスメントする	百瀬
6	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響②	事例を用いて、事例に必要な看護援助を考える	百瀬
7	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響③	事例を用いて在宅支援・家族への支援についてユマニチュードを活用した介入を考える	百瀬
8	認知症高齢者とのコミュニケーション	認知症高齢者の意思を尊重するための関りを理解する	百瀬
9	定期試験	試験	百瀬

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院)	・『生活機能のから見た老年 看護過程』(医学書院)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、認知症の高齢者の生活障害と生活支援、健康支援について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
72	小児看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	山下恵子

科目概要	小児看護の特徴及び小児看護を必要とする対象の特徴を把握し、小児看護の基盤となる概念や日常生活援助の方法を理解することを目的とする。また、小児看護の歴史期的変遷や現状を把握し、子どもの権利や健康の保持増進などを念頭におきながら、子どもを取り巻く今日的課題を明らかにし、特別な支援が必要とする子どもと家族の援助方法について学ぶ。
到達目標	1. 小児看護の対象と看護の役割について説明できる。 2. 子どもと家族を取り巻く社会、子どもと家族の特徴について説明できる。 3. 新生児期から思春期の身体・心理・社会的成長・発達について説明できる。 4. 子どもの健康な成長・発達を促進する援助について説明できる。 5. 特別な支援を必要とする小児と家族の援助について説明できる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	90 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義に関連したテキスト・参考文献の該当箇所を熟読して出席する。 2. 事前課題・学習の指示がある場合は、指示を守る。
事後学習	1. 講義後は、復習を行う。 2. 事後課題提出の提示がある場合は、指示された日時・場所を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	小児看護の特徴と理念①	小児看護の対象と看護目標と役割、小児と家族の諸統計、小児看護の変遷について理解する	山下
2	小児看護の特徴と理念②	小児看護における倫理、小児看護の課題について学ぶ	山下
3	家族の特徴とアセスメント	家族の特徴、アセスメントの方法を理解する	山下
4	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉・母子保健・医療費の支援、予防接種・学校保健・特別支援教育・臓器移植について理解する	山下
5	子どもの成長と発達	発達理論、原則成長発達に影響する因子、成長・発達の評価方法を理解する	山下
6	新生児期・乳児期の特徴	新生児期、乳児期の特徴とその期における養育や看護について理解する	山下
7	幼児期・学童期の特徴	幼児期、学童期の特徴とその期における養育や看護について理解する	山下
8	思春期・青年期の特徴	思春期、青年期の特徴とその期おける看護について理解する	山下
9	子どもの栄養	子どもにとっての栄養の意義と小児各期の栄養の特徴と支援について理解する	山下
10	子どもの事故と予防	子どもに起こりうる主な事故、外傷と看護について学び、事故防止と安全教育について考える	山下
11	子どもの状況に特徴づけられる看護①	病気が子どもや家族に与える影響を知り、外来、入院、在宅療養中の子どもと家族の看護について理解する	山下
12	子どもの状況に特徴づけられる看護②	救急外来を訪れる小児の特徴と小児救急における看護、災害時の子ともと家族の支援について理解する	山下
13	障がいのある子どもと家族の看護	障がいについての考え方・原因・背景を理解し、子どもと家族のニーズと支援方法を考える。特徴及び社会的支援、在宅療養支援方法について理解する	山下
14	子どもの虐待と看護	子どもの虐待の特徴と求められる看護について理解する	山下
15	これからの小児看護とまとめ	子どもの権利と小児看護の質の向上に貢献する活動と課題について考える	山下
16	定期試験	試験	山下

テキスト	参考書
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院) ・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディカ)	・授業内で提示する

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の健康障害と看護について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
73	小児看護援助論Ⅰ (健康障害と看護)	1	30	必修	演習	2年後期	山下恵子

科目概要	小児の健康状態や成長発達に応じた小児の主な健康障害と看護、健康障害が小児とその家族に及ぼす影響について理解することを目的とする。また、健康障害を持つ小児やその家族に対して、成長・発達、生活ニーズに応じた看護が展開できる基礎的知識と技術を学ぶ。
到達目標	1. 小児のヘルスアセスメントに必要な技術や方法を説明できる。 2. 症状を示す子どもの看護を説明できる。 3. 疾病の経過の特徴とその看護を説明できる。 4. 小児の看護過程の展開の方法を説明できる。

DPとの対応

		成績評価基準		
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験	80 %	オフィスアワー
	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力	・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %	

事前学習	1. 講義に関連したテキスト・配布資料・参考文献の該当箇所を熟読して出席する。 2. 事前課題・学習の指示がある場合は、指示を守る。
事後学習	1. 講義・演習後は、復習を行う。 2. 事後課題提出の提示がある場合は、指示された日時・場所を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ヘルスアセスメントの方法	アセスメントに必要な技術、身体的アセスメントの方法を学ぶ	山下
2	症状別看護	不機嫌、啼泣、痙攣、発熱、嘔吐、下痢、脱水特徴と看護について学ぶ	山下
3	疾病の経過の特徴と看護①	急性期・周手術期の経過の特徴と子どもと家族の反応と生命維持、苦痛の緩和について学ぶ	山下
4	疾病の経過の特徴と看護②	慢性期の特徴と子どもに与える影響とセルフケア能力の育成と支援、終末期の特徴と子どもと家族の心理やその支援について学ぶ	山下
5	感染症と看護①	小児の感染症の特徴、予防接種と子どもに起こりやすい感染症とその看護について学ぶ	山下
6	感染症と看護②	呼吸器感染症及び消化器感染症の子どもと家族の看護について学ぶ	山下
7	先天性障害をもつ子どもの看護及び新生児の看護	出生前診断、ダウン症候群、18トリソミー症候群、低出生体重児、新生児仮死がみとめられる子どもの看護について学ぶ	山下
8	代謝性疾患をもつ子どもの看護	Ⅰ型糖尿病の特徴と管理や具体的な支援の方法について学ぶ	山下
9	循環器疾患をもつ子どもの看護	先天性心疾患の特徴と治療と看護、後天性心疾患の特徴とその後の子どもと家族の支援について学ぶ。	山下
10	消化器疾患をもつ子どもの看護	消化器疾患の特徴と治療、消化器における形態異常やその他の消化器疾患の子どもと家族の看護について学ぶ	山下
11	小児がんと看護	小児がんの特徴と治療、治療の経過とその看護、退院・自宅での生活移行期及び長期フォローアップについて学び、小児がんのトータルケアについて考える	山下
12	免疫・アレルギー疾患をもつ子どもの看護	小児の免疫機能を理解し、食物アレルギー、気管支喘息の長期的管理における子どもとその看護について学ぶ	山下
13	腎泌尿器疾患をもつ子どもの看護	腎泌尿器疾患の特徴と治療、ネフローゼ症候群等の腎疾患の急性期・慢性期における子どもと家族の看護について学ぶ	山下
14	神経疾患をもつ子どもの看護	神経疾患の特徴と治療、てんかん、脳性麻痺・重症心身障害のある子どもと家族の看護、医療的ケアの必要な子どもと家族の支援体制と看護について学ぶ	山下
15	小児の看護過程	健康障害を持つ小児の看護過程の展開方法を模擬事例を通して学ぶ	山下
16	定期試験	試験	山下

テキスト	参考書
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院) ・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディカ)	鴨下重彦・柳澤正義監修　こどもの病気の地図帳　講談社 医学情報研究所　病気がみえる　Vol.15　小児科　メディックメディア

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の健康障害と看護について指導する。	小児看護学概論の単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
74	小児看護援助論Ⅱ (看護技術と看護過程)	1	30	必修	演習	3年前期	山下恵子

科目概要	小児看護学概論及び小児看護援助論Ⅰでの学びをもとに小児の健康状態と成長発達及び小児と家族の状況を踏まえた支援を行うために必要な援助技術を修得することを目的とする。小児の健康上の問題解決のために必要な看護援助技術のエビデンスを理解し、演習を通して技術を修得する。
到達目標	1. 模擬事例の子どもの成長・発達と健康障害、生活ニーズについて説明できる。 2. 小児の健康状態と成長・発達に関した情報収集を演習を通して習得できる。 3. 模擬事例のアセスメント、関連図、看護診断、看護計画が立案できる。 4. 小児の成長・発達に応じた安全・安楽を考えた小児特有の基礎的看護技術や保健指導が演習を通して習得できる。 5. 小児の健康状態と成長・発達及び小児と家族の状況に適したケア方法を考えることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	40 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	40 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・その他(グループワークレポート)	10 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワーク発表)	10 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 演習に関連したテキスト・配布資料・参考文献の該当箇所を熟読して出席する。 2. 事前課題・学習の指示がある場合は、指示を守る。
事後学習	1. 演習後は、復習を行う。 2. 事後課題提出の提示がある場合は、指示された日時・場所を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	小児の看護過程、アセスメント①	看護過程の展開方法を模擬事例を通して、情報収集、情報の解釈・分析まで行う	山下
2	小児の看護過程、アセスメント②	情報収集、情報の解釈・分析から看護診断を行う	山下
3	関連図①	関連図の書き方を理解し、病態、子どもの発達や家族背景の関連図を作成する	山下
4	関連図②	作成した関連図の発表を行う	山下
5	看護計画①	看護診断、関連図から導き出された看護問題の看護計画の立案する	山下
6	看護計画②	立案した看護計画から実践する具体的援助を考える	山下
7	日常生活援助技術	安全なベッドと環境、おむつ交換、衣類交換、清潔の保持の方法、調乳・授乳、乳児の抱き方、ベビーカー・車椅子移乗の方法を実施する	山下
8	アセスメント技術①	立案した看護計画をもとにしながら、バイタルサイン測定、身体計測方法を考え実施する	山下
9	アセスメント技術②	立案した看護計画をもとにしながら、バイタルサイン測定、身体計測方法を考え実施する	山下
10	検査・治療処置の看護	採尿、経口与薬、輸液管理、吸入、酸素療法、腰椎穿刺の実施時の看護を学ぶ	山下
11	力を引き出す技術①	プレパレーション、デイストラクション、病気や検査の説明などの具体的な方法を考える	山下
12	力を引き出す技術②	プレパレーション、デイストラクション、病気や検査の説明などの具体的な方法を考える	山下
13	模擬事例の看護発表①	模擬事例の関連図・看護診断、看護計画、看護実践の発表を行い、検討する	山下
14	模擬事例の看護発表②	模擬事例の関連図・看護診断、看護計画、看護実践の発表を行い、検討する	山下
15	小児の看護過程の展開のまとめ	看護過程の展開方法、必要な看護技術のまとめ	山下
16	定期試験	試験	山下

テキスト	参考書
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院) ・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディカ)	鴨下重彦・柳澤正義監修 こどもの病気の地図帳 講談社 医学情報研究所 病気がみえる Vol.15 小児科 メディックメディア 概論や援助論Ⅰで配布した資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、事例に基づく看護過程の展開方法と看護の実際について指導する。	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰの単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
75	小児発達学	1	15	選択	講義	2年後期	山下恵子

科目概要	小児を取り巻く社会の現状や成長・発達のプロセスと各期の特徴、評価方法を理解し、発達を促進する基礎的な援助方法を修得することを目的とする。隔離や活動制限、在宅療養の場などの様々な状況下での成長発達を促進する具体的な援助方法を修得する。
到達目標	1. 小児の成長発達のプロセスを説明できる。 2. 子どもにとっての栄養、遊び、学習の過程について説明できる。 3. チャイルドライフスペシャリストの役割と現場での活動について説明できる。 4. 入院生活で起こりうる隔離、活動制限、在宅療養の場での発達を促す具体的な援助を考えることができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	
	2. 主体的行動力	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	
	4. 課題発見能力と課題解決力	
○	5. 看護の知識と看護実践力	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	50 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(グループワークレポート)	20 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 講義に関連したテキスト・配布資料・参考文献の該当箇所を熟読して出席する。 2. 事前課題・学習の指示がある場合は、指示を守る。
事後学習	1. 講義後は、復習を行う。 2. 事後課題提出の提示がある場合は、指示された日時・場所を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	小児発達学の概要	小児の成長・発達、ライフサイクル、発達に影響を与える要因について考える	山下
2	栄養と発達	子どもにとっての栄養の意義と発達への影響、課題について考える	山下
3	遊びと学習の発達	子どもにとっての遊びの意義と発達への影響、学習の過程について考える	山下
4	療養生活における発達支援①	療養生活が発達に与える影響と発達を促進する支援について、チャイルドライフスペシャリスト(CLS)の現場での活動から学ぶ	山下/特別講師
5	療養生活における発達支援②	「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助をグループに分かれて考え、発表する。	山下
6	療養生活における発達支援③	「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助をグループに分かれて考え、発表する。	山下
7	療養生活における発達支援④	「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助をグループに分かれて考え、発表する。	山下
8	グループワーク発表とまとめ	「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助をグループに分かれて考え、発表する。	山下
9	定期試験	試験	山下

テキスト	参考書
	舟島なをみ著『看護のための人間発達学』(医学書院) 授業時に提示する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の発達支援について指導する。	なし

留意事項	特別講師の講義は履修学生以外も可能な限り受講することが望ましい。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
76	母性看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	小林由美

科目概要	リプロダクティブヘルス/ライツなどの母性看護の基盤となる概念を理解し、性と生殖をめぐる健康の課題について、女性のライフステージ各期だけでなく、多様な性をもつ対象者への支援の必要性を考えられるようにする。また、わが国における母子保健の歴史的変遷や現状を把握し、母子保健の意義を理解する。
到達目標	1. 母性看護の役割を理解し、それを説明することができる。 2. 母性看護学に必要な理論と概念について説明することができる。 3. 女性の生涯を通した健康の保持・増進への援助の必要性を説明することができる。 4. 現代日本の母子保健における課題について説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス　母性看護学とその対象	ガイダンス　母性看護学とは　母性看護の対象とは 第1章ABF	小林
2	母性看護学の基盤となる概念①	ウエルネス志向、ヘルスプロモーション、ジェンダー 第1章DE　第3章C　第4章	小林
3	母性看護学の基盤となる概念②	リプロダクティブヘルス/ライツ 第1章D	小林
4	母性看護学の基盤となる概念③	セクシュアリティ　多様な性 第1章C	小林
5	歴史的変遷と現状	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 第2章A①⑤　B	小林
6	母子保健統計	母子保健統計 第2章A②	小林
7	関係法規と政策	関係法規と施策 第2章A③④⑤	小林
8	倫理的問題	母性看護における倫理的問題・課題 第1章G	小林
9	ライフステージ各期の健康問題と看護①	女性ホルモンと月経 第5章A　第3章A	小林
10	ライフステージ各期の健康問題と看護②	妊娠と人工妊娠中絶 第3章A　第6章A・D	小林
11	ライフステージ各期の健康問題と看護③	DV、性暴力、虐待 第6章F・G	小林
12	ライフステージ各期の健康問題と看護④	性感染症 第6章B	小林
13	ライフステージ各期の健康問題と看護⑤	多様な分娩　周産期の死 第2章A①　第4章C⑧	小林
14	ライフステージ各期の健康問題と看護⑥	不妊と生殖補助医療 第1章F②	小林
15	ライフステージ各期の健康問題と看護⑦	更年期・老年期の健康問題と看護 第5章DE	小林
16	定期試験	試験	小林

テキスト	参考書
・森恵美他著『母性看護学[1] 母性看護学概論』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での助産師実務経験がある教員が、母性看護の特徴および対象者の特徴を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
77	母性看護援助論Ⅰ (対象の理解と援助)	1	30	必修	演習	2年後期	○小林由美/塩澤綾乃/奥原香織

科目概要	周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)に焦点を置いて、各期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、母子とその家族のウェルネスに向けた看護を展開していく上で必要とされる基礎的理論を理解することを目的とする。妊娠前からの女性・家族への支援、妊婦・産婦・褥婦と新生児の看護について、それぞれ身体的特徴と心理・社会的特性、アセスメントおよびより健康で安全に経過できるための支援方法について学ぶ。
到達目標	1. 妊娠期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 2. 分娩期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 3. 産褥期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 4. 新生児期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス　正常妊娠経過	オリエンテーション 妊娠経過 第3章AB	塩澤
2	妊娠経過	妊娠経過の正常と異常 第7章Ⅰ	塩澤
3	妊娠期のアセスメントと看護①	妊娠期のアセスメントと看護 第3章CD	塩澤
4	妊娠期のアセスメントと看護②	妊娠期のアセスメントと看護 第3章CD	塩澤
5	分娩経過	小テスト 分娩経過の正常と異常 第4章AB　第7章Ⅱ	奥原
6	分娩期のアセスメントと看護①	分娩期のアセスメントと看護 第4章CD　第7章Ⅱ	奥原
7	分娩期のアセスメントと看護②	分娩期のアセスメントと看護 第4章E　第7章Ⅱ	奥原
8	産褥経過①	小テスト 産褥経過 第6章A	小林
9	産褥経過②	産褥経過の正常と異常 第6章A　第7章Ⅳ	小林
10	新生児①	新生児の胎外生活適応 第5章A	小林
11	新生児②	新生児の正常と異常 第7章Ⅲ	小林
12	産褥経過のアセスメントと看護①	小テスト 産褥経過のアセスメントと看護 第6章BC	小林
13	産褥経過のアセスメントと看護②	産褥経過のアセスメントと看護 第6章BC　付章D	小林
14	新生児のアセスメントと看護①	新生児のアセスメントと看護 第5章B	小林
15	新生児のアセスメントと看護②	新生児のアセスメントと看護 第5章B　付章C	小林
16	定期試験	試験	小林/塩澤/奥原

テキスト	参考書
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　母性看護学各論(母性看護学②)』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での助産師実務経験がある教員が、周産期に焦点をあて身体的・心理的・社会的特徴を指導する。	母性看護学概論の単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
78	母性看護援助論Ⅱ (看護の展開とその理論)	1	30	必修	演習	3年前期	○小林由美/塩澤綾乃/奥原香織

科目概要	母性看護概論および母性看護学Ⅰの学びを基に、周産期にある対象の身体的・心理社会的特徴をふまえ、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を行うために必要な援助技術を修得することを目的とする。妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的変化への適応促進と、健康上の問題解決のために必要な看護援助技術のエビデンスを理解し、シュミレーターを用いよりリアリティがある演習を通して技術を修得する。
到達目標	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点をもとに、多様な価値観を尊重した看護のあり方を説明することができる。 2. 産褥期、新生児期の母子の健康状態(健康上の問題)を判断し、健康増進に向けて必要な看護を説明することができる。 3. 産褥期および新生児期にある母子の家族の看護に必要な基本的技術を実践することができる。 4. 学生同士で協力し協調性及びリーダーシップをはぐくむことができる。

DPとの対応

		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	30 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(看護過程の展開の記録)	60 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	提示された事例について個人で看護過程を展開してからGWに参加する。
事後学習	GWで学んだことを個人の看護過程の展開にも反映する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス　次回準備	出生前診断について討論準備 DVD 視聴　文献検索	小林/塩澤/奥原
2	ディベート	ディベート	小林/塩澤/奥原
3	看護過程の展開①	産褥期の母児の看護過程	小林/塩澤/奥原
4	看護過程の展開②	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
5	看護過程の展開③	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
6	看護過程の展開④	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
7	看護過程の展開⑤	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
8	看護過程の展開⑥	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
9	看護過程の展開⑦	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
10	看護過程の展開⑧	産褥期の母児の看護過程　グループワーク	小林/塩澤/奥原
11	看護過程の展開⑨	産褥期の母児の看護過程　発表・検討	小林/塩澤/奥原
12	技術演習①	技術演習	小林/塩澤/奥原
13	技術演習②	技術演習	小林/塩澤/奥原
14	技術演習③	技術演習	小林/塩澤/奥原
15	技術演習④	技術演習	小林/塩澤/奥原
16	定期試験	試験	小林/塩澤/奥原

テキスト	参考書
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　母性看護学各論(母性看護学②)』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での助産師実務経験がある教員が、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を指導する。	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰの単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
79	地域母子保健学	1	15	選択	講義	2年後期	○小林由美/塩澤綾乃/奥原香織

科目概要	地域における子育て世代を包括的に支援する必要性が高まっている現状を理解し、多職種と連携・協働した地域母子保健活動の実際について理解を深め、地域での子育て支援や相談活動の現状と課題を考察する。社会変化に伴う母子のニーズを探り、看護職による地域母子保健活動の役割と機能・課題を明らかにする。また、地域母子保健における事例を通して、母子への支援や少子化対策などの政策的課題を考察する能力を養う。
到達目標	1. 地域母子保健の意義と対象を説明することができる。 2. 地域母子保健の変遷を説明することができる。 3. 母子保健施策の実際を理解できる。 4. 地域母子保健の今後の課題を説明することができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験(成果発表試験)	70 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	30 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	1. 講義時、該当箇所を熟読し出席する。 2. 個人できちんと学習してからGWに参加する。
事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス 地域母子保健の意義	地域の概念　地域の特性　地域母子保健活動	小林/塩澤/奥原
2	地域母子保健の現状と課題	地域母子保健の現状と課題	小林/塩澤/奥原
3	地域母子保健制度①	地域母子保健の行政と主な母子保健制度	小林/塩澤/奥原
4	地域母子保健制度②	地域母子保健の行政と主な母子保健制度	小林/塩澤/奥原
5	地域母子保健制度③	地域母子保健活動の実際	小林/塩澤/奥原
6	グループワーク①	提示された課題について調べその支援方法を検討する	小林/塩澤/奥原
7	グループワーク②	提示された課題について調べその支援方法を検討する	小林/塩澤/奥原
8	グループワーク③	提示された課題について調べその支援方法を検討する	小林/塩澤/奥原
9	定期試験	成果発表試験	小林/塩澤/奥原

テキスト	参考書
テキストはない。作成した授業資料をテキストとする。	参考書はない。作成した授業資料を参考書とする。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での助産師実務経験がある教員が、地域母子保健の現状や母子保健活動の実際について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
80	精神看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	上條節子/○藤川君江

科目概要	精神看護学の基礎知識を学ぶ。精神看護学の対象は全ての人を対象とする。こころの健康とは何か学ぶ。こころの健康をケアする時に倫理的判断ができるように歴史的背景、法制度、人権擁護の考え方の基礎知識を学修する。
到達目標	1. 心の健康について脳の構造・機能について説明できる。 2. ライフサイクルの各期におこりやすい精神保健上の問題について説明できる。 3. 主な精神症状と看護の基本について説明することができる。 4. 精神障害者の人権問題について精神医療の歴史、法制度と関連づけて説明できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2.「ライフサイクルで生じる精神保健の特徴について」、A4用紙1枚程度のレポートにまとめて授業に臨む。
事後学習	講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	精神保健の考え方	1. 精神保健看護学 2. 精神看護と精神科看護の違い 3. こころとは何か	藤川
2	こころのとらえ方	精神(心)の構造とはたらきについて学ぶ意味を理解する。	藤川
3	こころのしくみと人格発達	精神(心)の構造とはたらきについて学ぶ意味を理解する 精神(心)の構造とはたらきについて精神力動理論を理解する	藤川
4	こころの危機理論	1. 危機理論を理解する。 2. ストレスとストレスコーピングについて理解する。 3. セルフマネジメントの考え方と方法を理解する。	藤川
5	家族と精神(心)の健康	1. 家族の構造と機能について理解する。 2. 家族の役割機能と精神の健康との関連について考える。 3. 家族の捉え方と家族病理について理解する。	藤川
6	暮らしの場と精神(こころ)の健康	社会病理現象が精神的健康、生活に及ぼす影響を理解できる。 1.家庭における精神保健と精神看護　2.学校における精神保健と精神看護 3.職場における精神保健と精神看護	藤川
7	現代社会と精神(心)の問題	社会構造や生活様式の変化などに伴う心の健康につながる課題を理解する。 依存症について理解する。	藤川
8	主な精神疾患／障害(1)	Ⅰ精神障害の診断と分類　Ⅱ主な精神疾患／障害 A. 神経発達症候群／神経発達障害	上條
9	主な精神疾患／障害(2)	Ⅱ主な精神疾患／障害 B. 統合失調症スペクトラム障害　C. 双極性障害および関連障害群	上條
10	主な精神疾患／障害(3)	Ⅱ主な精神疾患／障害 D. 抑うつ	上條
11	主な精神疾患／障害(4)	Ⅱ主な精神疾患／障害 E. 不安症群　F. 強迫症および関連症群／強迫性障害および関連障害群	上條
12	主な精神疾患／障害(5)	Ⅱ主な精神疾患／障害 G. 心的外傷およびストレス因関連障害　H.乖離症群／解離性障害群　I.身体症状および関連症群 J. 食行動障害および摂食障害群　K. 睡眠-覚醒障害群　L. 物質関連障害および嗜癖性障害群 M. 神経認知障害群　N. パーソナリティー障害群　O. てんかん	上條
13	主な精神疾患／障害(6)	Ⅲ. 薬物療法　Ⅳ. 電気けいれん療法　Ⅴ. リハビリテーション療法　Ⅵ. 精神療法	上條
14	精神医療の歴史	法と精神障害者処遇の変遷。1900年の 精神病者監護法。精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律(精神保健福祉法と 略す)に至る法制度と精神障害者の処遇を考える。	藤川
15	まとめ	精神看護学の基礎　心の健康と精神を病む患者を知る。	藤川
16	定期試験	試験	上條/藤川

テキスト	参考書
・『精神看護学概論』(メヂカルフレンド社)	配布資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での医師、看護師実務経験がある教員が、精神看護の特徴および対象者の特徴を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名（複数の教員が担当する場合、科目責任者＝〇）
81	精神看護援助論Ⅰ （対象理解）	1	30	必修	演習	2年後期	〇藤川君江/宮坂光長/三沢緑

科目概要	本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神 の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、精神の健康問題に対する治療と看護を学ぶ。
到達目標	1. 精神の健康概念と精神の健康問題について考察し、説明できる。 2. 精神の健康問題に対する治療と看護の基本が説明できる。 3. 精神医療保健福祉サービスにおける多職種の協働について説明できる。またその中で看護師が果たす役割を考えることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間：授業内で伝達 場所：研究室
	〇	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	〇	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	〇	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	〇	5. 看護の知識と看護実践力		・その他（　　）	0 %	
	〇	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	精神看護学概論の学習を振り返る。
事後学習	テキスト、配布資料を使って復習を行う。講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	こころを病むとはを考える。	藤川/宮坂/三沢
2	精神の健康と障害	精神の健康と障害	藤川/宮坂/三沢
3	精神を病むこと生きること（1）	精神症状を持ちながら生きること。患者の生きにくさ、つらさを感じる。	藤川/宮坂/三沢
4	精神科医療にかかわる法律	精神観察法 精神保健福祉法に基づく入院形態 ①任意入院　②医療保護入院　③応急入院　④措置入院　⑤緊急措置入院　⑥入院患者の処遇	藤川/宮坂/三沢
5	生物学的側面からのアプローチする治療・ケア・支援（1）	①薬物療法における看護の役割　②電気けいれん療法における看護の役割	藤川/宮坂/三沢
6	生物学的側面からのアプローチする治療・ケア・支援（2）	①身体拘束　②保護室	藤川/宮坂
7	心理的側面アプローチする治療・ケア・支援（1）	①知能検査（発達検査）②人格検査　③その他の検査　④社会機能　⑤家族機能を測る尺度	藤川/宮坂/三沢
8	心理的側面アプローチする治療・ケア・支援（2）	①カウンセリング　②リラクセーション　③コーチング	藤川/宮坂/三沢
9	心理的側面アプローチする治療・ケア・支援（3）	心理検査	藤川/宮坂
10	社会的側面からのアプローチする治療・ケア・支援　（1）	当事者のリカバリーに向けた社会復帰・社会参加の基本と働きかけ ・当事者のリカバリー　・精神科リカバリーの概念、基礎	藤川/宮坂
11	社会的側面からのアプローチする治療・ケア・支援　（2）	地域での自立・統合への支援　地域における精神障害者のニーズと行政等との連携 ・精神障害者地域で自立した生活をおくるためのサービス　・精神科の在宅医療と訪問看護	藤川/宮坂
12	社会的側面からのアプローチする治療・ケア・支援　（3）	精神疾患当事者の思いを知る	藤川/宮坂
13	精神科の安全管理	・事故防止　・災害とその対策	藤川/宮坂
14	事例から学ぶ精神疾患と看護（1）	・統合失調症　・気分障害　・強迫症／強迫性障害	藤川/宮坂
15	事例から学ぶ精神疾患と看護（2）	・パニック症／パニック障害障害　・アルコール使用障害／アルコール依存　・摂食障害 ・パーソナリティー障害　・ひきこもり　・児童虐待	藤川/宮坂
16	定期試験	試験	藤川/宮坂

テキスト	参考書
・『精神看護学概論』（メヂカルフレンド社） ・『精神障害を持つ人の看護』（メヂカルフレンド社）	・『精神看護学Ⅱ　地域・臨床で活かすケア』（南江堂）

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、精神の障害と看護について指導する。	精神看護学概論の単位を修得していること

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
82	精神看護援助論Ⅱ (看護の展開)	1	30	必修	演習	3年前期	○藤川君江/宮坂光長

科目概要	本科目では、精神的健康に問題を持つ対象とその家族の理解、問題状況への危機介入から地域社会 生活への適応に向けた精神看護援助技術の基本的援助技法を学ぶ。代表的な症状を呈する事例のシュミレーションを通して、情報収集、アセスメント、看護計画を立案する。
到達目標	1. 精神保健、精神看護、リエゾン精神看護の役割を説明できる。 2. 精神科リハビリテーションと地域生活の支援について理解できる。 3. 身体疾患を有する患者への精神看護について説明できる。 4. 患者・看護師関係の構築および効果的なコミュニケーションの方法について理解できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2. 事前課題は、「自己の健康管理について」A4用紙1枚程度にまとめて授業に臨む。 3. 演習に伴う事前学習・課題がある場合は、単元ごとに演習前に提示する。
事後学習	講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	精神保健医療福祉と制度(1)	・精神保健医療福祉に関する法と制度　・精神保健医療と福祉の現状と課題 ・精神の健康に関する普及啓発活動	藤川/宮坂
2	精神看護におけるアセスメントの特徴	・精神看護のアセスメントとは　・アセスメントの具体的内容と特徴　・アセスメントにおける大切なポイント	藤川/宮坂
3	アセスメントに用いられる理論	・バイオ・サイコ・ショーシャルモデル　・セルフケアモデル　・危機理論　・ストレングスモデル　・リカバリー ・レジリエンス	藤川/宮坂
4	看護過程(1)	統合失調症の急性期①　事例の看護過程	藤川/宮坂
5	看護過程(2)	統合失調症の急性期②　事例の看護過程	藤川/宮坂
6	看護過程(3)	統合失調症の急性期③　事例の看護過程	藤川/宮坂
7	看護過程(4)	統合失調症の急性期④　事例の看護過程	藤川/宮坂
8	看護過程(5)	統合失調症の回復期①　事例の看護過程	藤川/宮坂
9	看護過程(6)	統合失調症の回復期②　事例の看護過程	藤川/宮坂
10	看護過程(7)	統合失調症の回復期③　事例の看護過程	藤川/宮坂
11	看護過程(8)	気分感情障害の事例①　看護過程	藤川/宮坂
12	看護過程(9)	気分感情障害の事例①　看護過程	藤川/宮坂
13	看護過程(10)	気分感情障害の事例①　看護過程	藤川/宮坂
14	まとめ	まとめと発表	藤川/宮坂
15	まとめ	まとめと発表	藤川/宮坂
16	定期試験	試験	藤川/宮坂

テキスト	参考書
・『ストレングスからみた精神看護過程』(医学書院)	・『精神看護学概論』(メヂカルフレンド社) ・『精神障害を持つ人の看護』(メヂカルフレンド社)
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、精神の障害の看護過程について指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
83	地域精神保健学	1	15	選択	講義	2年後期	上條節子/○藤川君江

科目概要	地域精神保健は、精神疾患のみならず、住民の立場に基づくニーズへの取り組み、適正な支援、サービス、資源の広範なネットワーク化の推進など地域住民のための精神的な健康の促進に必要な原則と実践を科学的根拠に基づいて考える基礎的能力を学修する。
到達目標	1. 精神障害の対象について精神科入院患者以外の地域精神保健について説明ができる。 2. 入院治療だけではなく、地域医療的な対応の必要性について説明ができる。 3. 学校、職場のカウンセリング、高齢者や認知症の精神保健学について説明ができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	90 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %
・事前/事後学習の課題、レポート	10 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー

時間:授業内で伝達
場所:研究室

事前学習	1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。 2. 事前課題レポート「自我の防衛機制について」A4用紙1枚程度にまとめて授業に臨む。
事後学習	講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	授業ガイダンス	事前課題レポートについて考える。自分の今のこころの状態を振り返る。	藤川
2	地域包括ケアと多職種連携	・地域包括ケアシステムとは何か ・病院における精神科チーム医療と看護　・地域における精神科チーム医療と看護 ・精神科でのチーム医療の必要性 ・チーム医療における多職種の役割	藤川
3	ライフスタイルと精神保健	自我と防衛機制　ライフスタイルの危機　あなたの人生は？	上條
4	発達段階別にみる発達課題と精神の健康	乳幼児期から学童期の精神の健康	藤川
5	発達段階別にみる発達課題と精神の健康	思春期から青年期の精神の健康	藤川
6	発達段階別にみる発達課題と精神の健康	成人期の精神の健康	藤川
7	喪失感・死への不安	初老期、高齢者の喪失感、死生観、人生観、尊厳死の心の危機	上條
8	学びのまとめ	地域精神保健学の整理から、学びをレポートする。	上條/藤川
9	定期試験	試験	上條/藤川

テキスト	参考書
なし	・『アルフォンス・デーケンの死への準備教育』(横関祐子) ・『精神看護学概論』(メヂカルフレンド社) ・『精神障害を持つ人の看護』(メヂカルフレンド社) ・石井毅ほか『看護学門13 「精神看護」精神保健』(メヂカルフレンド社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での医師、看護師実務経験がある教員が、地域におけるさまざまな発達段階における精神保健を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
84	救急看護学	2	30	選択 (救急・災害必修)	講義	3年前期	○今井栄子/鮎川昌代/近藤恵子/垣内いづみ/牛山陽介

科目概要	救急医療と救急看護の特徴を理解し、救急患者とその家族に適切な医療・看護ケアを行えるよう学び、説明をしながら実施できる。 1. 救急病態を理解し、必要な処置・治療に関する知識を習得し、説明できることを目的とする。 2. 急速に進歩している分野であることを知り、蘇生法など新規規定を理解し、説明・実施できることを学ぶ。 3. 救急患者の観察・アセスメントから、看護・クライシス理論をもち看護過程の展開を実施できることを目的とする。
到達目標	1. 地域における救急体制とその仕組みが理解でき、その中での救急医療・看護の特徴と役割、現状について理解する。 2. 救急看護体制、一次、二次、三次救急医療体制の違いを知り、各体制の救急医療と看護展開が理解できる。 3. 救急患者の特徴や生活状況が理解でき、観察・アセスメントから看護過程の展開について理解できる。 4. 救急時の看護技術を習得し、説明・体得できる。 5. .日常の暮らしの中で、救急時に備えた準備体制の重要性について他職種間で連携し、初期治療や連絡体制などがどのように整えられているか、モデル地域などを参考に皆で考えることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	該当日の内容を把握できるようにサマリーしてノート記載して出席。
事後学習	該当日のトピックスを復習ノート作成。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	授業展開のオリエンテーションや臨地実習への連続性などにつて説明する 第1章　救急看護の概念	今井
2	対象理解	第2章　救急看護の対象の理解　救急患者の特徴　家族の特徴	今井
3	第1次・2次救急医療における対応	第3章　救急看護体制と看護の展開	鮎川
4	地域における救急医療体制	救急医療圏の区分やその対応とかかわる他職種の役割	鮎川
5	救急搬送の実態と受け入れ	救急の内容や搬送の実際、受け入れ区分や役割、分担などの実際について その様な救急体制の中での看護の役割りや在り方について	鮎川/垣内
6	観察とアセスメント①	第4章　救急患者の観察とアセスメント: 状況確認と感染予防策 全身の外観の観察　緊急検査、家族との連絡調整、説明など	今井
7	観察とアセスメント②	第4章　救急患者の観察とアセスメント: 脳神経　呼吸器系　循環器系、消化器　泌尿器　生殖器	今井
8	観察とアセスメント③	第4章　救急患者の観察とアセスメント: 筋・骨格系　内分泌・代謝　精神状態	今井
9	主要病態に対する救急処置と看護救急時の看護技術と対応①	第5章　心肺停止状態への対応　意識障害への対応 第5章　呼吸障害への対応　ショック・循環障害への対応	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
10	主要病態に対する救急処置と看護救急時の看護技術と対応②	第5章　体液・代謝異常へのへの対応 第5章　急性腹症・泌尿器・生殖器への対応	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
11	主要病態に対する救急処置と看護救急時の看護技術と対応③	第5章　体液・代謝異常・体温異常・外傷・熱傷への対応 第6章　救急患者の搬送・止血法・酸素投与・人工呼吸・吸引・留置カテーテル	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
12	救急時の救急に使用される医薬品	第7章　医薬品使用時の注意点　主な医薬品	今井
13	救急時の看護の実際の模擬演習とまとめ①	シミュレーションによる救急対応の演習 (患者及び家族、関係職種への援助も含む)	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
14	救急時の看護の実際の模擬演習とまとめ②	シミュレーションによる救急対応の演習 (患者及び家族、関係職種への援助も含む)	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
15	試験対策 現地の実習に向けて	事前学習内容、学びのための各自の課題など準備について話し合う	今井/鮎川/近藤 垣内/牛山
16	定期試験	試験	今井/鮎川

テキスト	参考書
・『系統看護学講座 別巻救急看護学』(医学書院)	配布資料
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、救急医療と救急看護の特徴を指導する。	なし

留意事項	1. 救急看護学実習(救急・災害)を選択する人は受講してください。 2. 事前・事後学習を必ず行うこと。 3. レポートは指定された日時厳守。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
85	災害看護学	2	30	選択 (救急・災害必修)	講義	3年前期	○今井栄子/原岡智子/鮎川昌代/近藤恵子/牛山陽介

科目概要	我が国は地震や毎年の台風の襲来などによる風水害をはじめいくつかの自然災害が多発し、被災地の人々は命や健康をそこない、財産が消滅するなど、多くの被害を受けてきた歴史がある。近代までは、地域の人々の助け合いにより、このような災害をしのいできた。ここ数年においての地震災害、台風による自然災害が多発していることを受けて、被災地外からの医療従事者、救護団体、ボランティア活動が著明になってきている。こうした状況において、看護職者としてどのような啓蒙活動と臨地マネージメントが必要か支援活動の特徴・課題、防災・減災の必要性について学ぶ。
到達目標	1. 災害時の保健医療福祉における看護職の位置づけと役割の概要が理解できる。 2. 災害看護の目的、対象、看護独自の機能が理解できる。 ①チーム医療における対人関係、被災者とのコミュニケーション ②トリアージについて ③看護ケアの実際について理解できる 3. 被災地における倫理的対応・その重要性について説明できる。 4. 本科目の学びを本県や当地域に関連させて実態と課題が理解でき、臨地実習への学習課題が明確になる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	該当日の各章を熟読して授業に参加。地域の特徴を知り、記憶に残る災害のレポート持参。
事後学習	当日学習したことの復習　事後課題を行い規定日時に提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション　第1章　災害看護を学ぶにあたって	看護とグルーバル化した社会　求められる災害看護　災害看護の倫理	今井
2	第2章　災害看護学①	A　災害看護の歩み　B　災害医療の基礎知識　C　災害看護の基礎知識	今井/近藤
3	第2章　災害看護学②	D　災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護　E　被災者特性に応じた災害看護	鮎川
4	第3章　地震災害看護の展開①	A　発症　B　急性期の看護	鮎川
5	第3章　地震災害看護の展開②	地域における災害看護の展開　亜急性期　慢性期・復興期	原岡
6	第3章　地震災害看護の展開③	地域における災害看護の統合的展開	鮎川/牛山
7	第4章　災害看護学①	被災地における感染予防策	今井
8	第4章　災害看護学②	被災地における感染予防策	今井
9	第5章　災害看護学における倫理・教育・研究①	災害看護学における倫理・教育・研究	今井
10	第5章　災害看護学における倫理・教育・研究②	災害の多様性に対応する災害看護教育	鮎川/牛山
11	災害看護学の実際①	地域の災害看護のシミュレーション	今井/鮎川/近藤
12	災害看護学の実際②	地域の災害看護のシミュレーション	今井/鮎川/近藤
13	災害看護学の実際③	地域の災害看護のシミュレーション	今井/鮎川/近藤
14	地域活動計画①	地域の災害マップと医療援助計画	今井/鮎川/近藤
15	地域活動計画②	地域の災害マップと医療援助計画	今井/鮎川/近藤
16	定期試験	試験	今井/鮎川 近藤/牛山

テキスト	参考書
・浦田喜久子『災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践』(医学書院)	クライシス理論(講義中に提示)及び　プリント配布

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、地域の特徴や課題から防災や減災の必要性、看護職者としての支援活動を指導する。	なし

留意事項	1. 災害看護学実習(救急・災害)を選択する人は受講してください。 2. 事前・事後学習を必ず行うこと。 3. レポートは指定された日時厳守

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
86	地域医療連携システム論	1	15	選択 (多職種必修)	講義	2年後期	関永信子

科目概要	継続的な医療の仕組みと、生活の場への円滑な移行や保健・医療・福祉の連携の仕組みを通して看護の役割を学修する。
到達目標	1. 地域医療の連携が推進される社会的背景を理解できる 2. 療養の場の移行に伴う連携の必要性と看護師役割を述べられる。 3. 継続的な医療を必要とする人々への援助の工夫を説明できる。 4. 長野県松本市の健康問題を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(課題レポート授業への取り組み)	20 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	地域包括ケア論、地域・在宅看護論を復習し参加する
事後学習	1. 8回の授業で2回程度、学習内容について10分程度の小テスト実施する。(内容や範囲は事前に告知する) 2. 事後、「地域包括ケアの基礎的理解と実践」から1事例を選択し、自分の考えをレポートにまとめ提出すること。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	地域医療の現状	生活の場で提供される医療	関永
2	終末期の在宅医療	終末期医療の対象者の現状	関永
3	在宅で行られる医療的ケア	医療的ケアの原理と原則　医療的ケアの現状	関永
4	難病者のケア	難病患者と家族へのケア	関永
5	小児のケア	小児在宅医療の現状と課題	関永
6	生活を支える技術	日常生活援助技術　呼吸の管理	関永
7	生活を支える技術	日常生活援助技術　排泄の管理	関永
8	地域在宅医療の実際	松本市における『医療的ケア児』の取り組み	関永
9	定期試験	試験	関永

テキスト	参考書
・関永信子著『地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践』(翔雲社)	テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、地域の医療ニーズに応じた連携の実際と看護の役割を指導する。	なし

留意事項	1. 多職種連携実習(在宅)を選択する人は受講してください。 2. 地域で暮らす『医療的ケア』が必要な人々に関心を持つ。 3. 地域医療を支援する人々と、本科目を関連づける。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
87	在宅生活支援論	1	15	必修	講義	3年前期	○関永信子/木村久枝

科目概要	療養者の安全な暮らしの基本と、日常生活の維持・拡大・自立や社会参加を促すための事故防止の工夫や生活支援について学ぶ
到達目標	1. 在宅生活における事故防止の基本を説明できる。 2. 在宅療養の場におけるリスクの特徴を説明できる。 3. 在宅生活の場で、発生頻度の高い事故や課題に対する予防策を述べられる。 4. 安全な住環境を事例を通して討議できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・定期試験	50 %
・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %
・事前/事後学習の課題、レポート	20 %
・受講時の積極性、態度等	0 %
・その他(　　)	0 %
合計	100 %

オフィスアワー
時間：授業内で伝達
場所：研究室

事前学習	地域包括ケア論、地域医療連携システム論、地域・在宅看護論、在宅看護援助論(援助方法論)を予習し参加する
事後学習	1. 8回の授業で2回程度、学習内容について10分程度の小テスト実施する。(内容や範囲は事前に告知する) 2. 事後、「在宅療養の場で起きる転倒、転落と生活の工夫について」レポートを提出すること。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	在宅における安全管理①	在宅におけるリスクマネジメントとヒューマンエラー	関永
2	在宅における安全管理②	在宅におけるリスクマネジメントの実際	関永
3	在宅における事故防止①	在宅における情報の漏洩　指示変更や伝達ミス	関永・木村
4	在宅における事故防止②	在宅ケア時の事故　医療機器のトラブル	関永・木村
5	在宅における事故防止③	介護と家族の危機的状況　虐待の防止	関永・木村
6	住まいの事故防止	事例を用い事故防止を提案する　段差解消　手すり　福祉用具の色々	関永・木村
7	住環境の整備	安全な住まい(間取り図の作成)	関永
8	生活を支える福祉機器	自助具や福祉機器	関永
9	定期試験	試験	関永

テキスト	参考書
・臺有佳編者『ナーシンググラフィカ 在宅看護論①　地域療養を支える』(ケア メディカ出版)	テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、安全な暮らしの基本と在宅における事故防止の取り組みや生活支援の方法を指導する。	なし

留意事項	1. 日常生活に潜む「事故」に関心を持ち、事故防止の視点を養う。 2. 自己の学習課題に前向きにとりくむ。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
88	公衆衛生看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	○原岡智子/横山芳子

科目概要	公衆衛生看護の基本となる概念と理念、歴史的過程から保健師活動の対象の特性及び地域活動の場について学修する。社会の動向を踏まえ、健康課題の捉え方を理解し、さらに、基本的公衆衛生看護活動をふまえて地域住民・組織への公衆衛生看護過程の展開、地域ケアシステムなどの基礎を学ぶ。
到達目標	1. 公衆衛生看護の理論と変遷、ヘルスプロモーションの理念を説明することができる。 2. 公衆衛生看護の対象と場について説明することができる。 3. 保健活動の活動方法を説明することができる。 4. 健康に影響する社会的要因や生活環境について説明することができる。 5. 事業化・施策化・システム化について説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	教科書の関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと。
事後学習	教科書と配布プリントによる復習を行うこと。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	公衆衛生看護の理念	公衆衛生看護の理念と概念	原岡
2	公衆衛生の理念	プライマリーヘルケアとヘルスプロモーション	原岡
3	公衆衛生看護の歴史	公衆衛生看護の社会情勢と公衆衛生看護の歴史	原岡
4	公衆衛生看護の対象(1)	対象としての個人・家族	横山
5	公衆衛生看護の対象(2)	対象としての集団・組織・地域	横山
6	公衆衛生看護の場(1)	保健師活動の場について(保健所)	原岡
7	公衆衛生看護の場(2)	保健師活動の場について(市町村・その他)	横山
8	個人・家族の健康課題	ライフサイクル別の健康課題(母子・成人・高齢者)	横山
9	社会環境の変化と健康課題(1)	人口、疾病構造、ソーシャルキャピタル等の変化	原岡
10	社会環境の変化と健康課題(2)	家族形態、労働形態等の変化	原岡
11	公衆衛生看護の活動方法(1)	公衆衛生看護活動の理論と保健行動	横山
12	公衆衛生看護の活動方法(2)	個人・家族への支援	横山
13	公衆衛生看護の活動方法(3)	集団・地域への支援	原岡
14	公衆衛生看護の活動方法(4)	ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチと遂行方法	原岡
15	健康課題と事業化	事業化・施策化・システム化	横山
16	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版医学書院 2. 「国民衛生の動向」最新版　厚生統計協会	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、公衆衛生看護の基本理念や目的などを指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
89	公衆衛生看護活動論Ⅰ (対象別支援)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	原岡智子/○横山芳子

科目概要	法制度と関連づけながら、地域で生活する人々のライフサイクル別に発達段階や健康課題をふまえた健康支援、疾病・障害を持つ人々や支援ニーズの高い人々への健康支援、個人及び地域における保健師の活動や役割について理解する。さらに、災害・感染症・虐待などの健康危機に対する予防や対応における保健師の役割、対策について学ぶ。
到達目標	1. ライフサイクル別の個々の健康支援を説明することができる。 2. 疾病・障害を持つ人々、支援ニーズの高い人々への健康支援を説明することができる。 3. 保健師の個人及び地域における活動、役割を述べることができる。 4. 健康危機、健康危機における保健師の役割、対策を述べることができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義は教科書を使って予習を行う。
事後学習	教科書、配布資料を使って復習を行う。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ライフサイクル別保健活動①	母子保健福祉の法と動向、乳幼児期の保健指導	横山
2	ライフサイクル別保健活動②	子育てのリスクを持つ親子への保健指導(虐待含む)	横山
3	ライフサイクル別保健活動③	成人保健の法と動向、健康課題	横山
4	ライフサイクル別保健活動④	生活習慣病予防、特定健診・特定保健指導	横山
5	ライフサイクル別保健活動⑤	高齢者保健福祉の法と動向、保健指導、歯科保健について	横山
6	ライフサイクル別保健活動⑥	高齢者の介護予防、認知症、虐待予防について	横山
7	支援ニーズの高い人々への保健活動①	精神保健福祉の動向と精神障害者への保健活動	横山
8	支援ニーズの高い人々への保健活動②	社会病理を背景とする精神的問題	原岡
9	支援ニーズの高い人々への保健活動③	障害者(児)の保健福祉の動向と保健活動	原岡
10	支援ニーズの高い人々への保健活動④	難病対策の動向と難病療養者・家族の健康と生活	原岡
11	支援ニーズの高い人々への保健活動⑤	難病対策の動向と難病療養者・家族への保健活動	原岡
12	健康危機への対応①	災害対策の動向と平常時の災害予防対策	原岡
13	健康危機への対応②	災害と保健活動	原岡
14	健康危機への対応③	感染症対策の動向と保健活動	原岡
15	健康危機への対応④	おもな感染症と保健活動	原岡
16	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第4版 医学書院 3. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会	・荒賀直子他『公衆衛生看護学 JP第5版』(インターメディカル)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、保健活動の介入方法を指導する。	公衆衛生看護学概論、健康支援論、保健統計学Ⅰの単位を修得していること

留意事項	1. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. 公衆衛生看護の対象者は全ての年代、様々な健康レベルであるため、他の看護領域の学修内容を深めておくこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
90	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業・学校)	1	15	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	○原岡智子/横山芳子

科目概要	産業保健活動の基本的な概念、産業現場での健康に関する現状と問題、関連法規、産業保健チームの位置づけを通して、産業保健師の活動や機能・役割について理解を深める。 学校保健の法規や学校保健活動の現状と課題を踏まえ、児童生徒の生活の場としてとらえた学校における養護教諭の活動や役割に必要な知識・技術、及び学校と地域の保健医療福祉との連携についての理解を深める。
到達目標	1. 学校・産業保健の理念と目的を説明できる。 2. 学校・産業保健における健康課題について説明することができる。 3. 学校・産業保健の基盤となる制度とシステムについて説明することができる。 4. 学校・産業保健の意義と活動内容について説明することができる。 5. 学校・産業保健と地域保健との連携の必要性について説明することができる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	事前に次回授業の該当箇所を熟読しておく。
事後学習	講義後、授業内容をノートにまとめ整理する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	産業保健の概要	産業保健の理念と目的、歴史、健康課題の変遷、産業保健制度とシステム	原岡
2	産業保健と保健活動①	作業管理・作業環境管理・健康管理と保健師の役割	原岡
3	産業保健と保健活動②	総括管理、労働衛生教育と保健師の役割	原岡
4	産業保健活動の実際	活動の実際(特別講師)	原岡
5	学校保健の概要	学校保健の理念と目的、歴史、組織と人材	横山
6	学校保健活動	学校保健のしくみ、学校給食と食育	横山
7	学校保健活動と養護教諭の役割①	子どもたちの健康課題、養護教諭の職務内容	横山
8	学校保健活動と養護教諭の役割②	活動の実際(特別講師)	横山
9	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第4版 医学書院 2.「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、疾病予防、健康保持・増進を図るための産業保健活動と学校保健活動を指導する。	公衆衛生看護学概論、健康支援論、保健統計学Ⅰの単位を修得していること

留意事項	公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
91	健康支援論	1	15	必修	講義	2年前期	原岡智子/○横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	個人が健康課題を認識し行動変容を進めていくための健康教育に意義と理論を理解し、対象に応じた実践的介入方法を理解する。具体的には、健康教育の実際として、対象理解のためのアセスメント及び企画・実施・評価までの一連の展開過程を理解し、実践できる知識、技術、態度を修得する。
到達目標	1. 健康教育の意義と理論を説明することができる。 2. 対象者の健康課題が理解できる。 3. 健康教育の展開過程が実施できる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
	2. 主体的行動力
	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他( )	0 %	
合計	100 %	

事前学習	1. 健康教育に関する項目は教科書を使って予習する。 2. 発表の際は事前に練習しておく。
事後学習	教科書、配布資料により復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	健康教育の意義と理論	健康教育の目的、対象、理論	横山
2	健康教育の方法①	保健行動と保健活動	横山
3	健康教育の方法②	行動変容を促すための理論	横山
4	健康教育の方法③	健康教育の計画書、方法、媒体、評価などの一連の過程	横山
5	健康教育の実際①	グループ毎に対象のアセスメントをして健康課題を明らかにする	原岡/横山 五十嵐
6	健康教育の実際②	企画書の作成	原岡/横山 五十嵐
7	健康教育の実際③	健康課題に応じた資料の作成	原岡/横山 五十嵐
8	健康教育の実際④	グループ毎に作成した資料の発表	原岡/横山 五十嵐
9	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
プリントを配布	・荒賀直子他『公衆衛生看護学 JP第5版』(インターメディカル)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。	なし

留意事項	グループで行うので、連携・協働すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
92	公衆衛生看護管理論	1	15	選択 (保健師必修)	講義	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	保健師や保健師活動を管理する公衆衛生看護管理の特徴と目的、公衆衛生看護管理の対象である各管理の機能について基礎的知識を習得する。また、地域における健康危機、リスクマネジメント、健康危機の種類に応じた保健師活動を通しての健康危機管理について理解する。
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の基本と機能の概要・構造について理解できる。 2. 公衆衛生看護管理の各機能の方法について理解できる。 3. 健康危機管理における保健師の役割・機能について理解できる。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	講義後は講義内容をノートにまとめ、整理する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	公衆衛生看護管理の基本	公衆衛生看護管理の特徴、目的、機能の概要・構造・前提条件	原岡
2	公衆衛生看護管理の機能(1)	地区管理、事例管理、情報管理	原岡
3	公衆衛生看護管理の機能(2)	事業・業務管理、予算管理	原岡
4	公衆衛生看護管理の機能(3)	組織運営管理、人材育成・人事管理、地域ケアの質保証	原岡
5	リスクとリスクマネジメント	リスクとリスクマネジメント、リスクコミュニケーション	原岡
6	健康危機管理の実際(1)	保健所・市町村における平常時および危機発生の健康危機管理対策	原岡
7	健康危機管理の実際(2)	感染症集団発生に対する健康危機管理対策と保健活動	原岡
8	健康危機管理の実際(3)	自然災害に対する健康危機管理対策と保健活動	原岡/横山 五十嵐
9	定期試験	試験	原岡

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版　医学書院	・井伊久美子他編『新版 保健師業務要覧』(日本看護協会出版会) ・平野かよ子編『最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理論』(メジカルフレンド社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、経験を生かして公衆衛生看護管理の基本と機能について指導している。	公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、保健・医療・福祉行政論の単位を修得していること

留意事項	公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
93	公衆衛生看護方法論Ⅰ (訪問・相談)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年前期	原岡智子/○横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	個人・家族が健康課題を認識し、主体的に解決するための支援の展開方法と必要な基本的知識を身につける。具体的には、家庭訪問、健康相談において、個人・家族の生活と健康を多角的に捉え、情報の収集とアセスメントから課題を抽出し、課題に応じた計画の立案、社会資源の活用を含めた実施、評価までの一連の展開方法について理解する。
到達目標	1. 家庭訪問、健康相談の目的、対象、特徴、機能について説明できる。 2. 健康問題を有する対象者を把握し、情報収集、計画立案、実施、評価までの家庭訪問、健康相談の技術を用いて実施することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(演習到達度)	30 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	事前に教科書の該当範囲を熟読する。
事後学習	教科書、配布資料により復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	公衆衛生看護の基盤となる理論	保健行動理論、保健指導で活用できる理論	横山
2	家庭訪問の展開方法①	家庭訪問の目的、対象、特徴、機能	横山
3	家庭訪問の展開方法②	家庭訪問のプロセス、具体的手順	横山
4	家庭訪問の実際①	事例(新生児訪問)について必要な情報収集の整理	横山
5	家庭訪問の実際②	家庭訪問に必要なアセスメント、計画立案	横山
6	家庭訪問の実際③	アセスメント、立案した計画についてグループワーク	原岡/横山 五十嵐
7	家庭訪問の実際④	家庭訪問の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、家庭訪問の記録	原岡/横山 五十嵐
8	家庭訪問の実際⑤	家庭訪問の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、家庭訪問の記録	原岡/横山 五十嵐
9	健康相談の展開方法①	健康相談の目的、対象、方法、特徴	横山
10	健康相談の展開方法②	健康相談の展開のプロセスの基本、基本姿勢	横山
11	健康相談の実際①	事例(特定保健指導)　病態生理と生活習慣の関係	横山
12	健康相談の実際②	事例のアセスメント、計画立案	原岡/横山 五十嵐
13	健康相談の実際③	アセスメント、立案した計画についてグループワーク	原岡/横山 五十嵐
14	健康相談の実際④	健康相談の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、記録	原岡/横山 五十嵐
15	健康相談の実際⑤	健康相談の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、記録	原岡/横山 五十嵐
16	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。	公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、疫学、保健統計Ⅱ、衛生関係法規の単位を修得していること

留意事項	1. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. グループで行うので、協力しあうこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
94	公衆衛生看護方法論Ⅱ (地域診断)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断に必要な理論、地域の健康レベルのアセスメントから健康ニーズを明確化して、地域住民及び保健医療福祉と連携して健康課題を解決し、評価する方法を、地域の情報を用いた演習を通して学ぶ。また、地域における保健医療福祉事業の計画・実施・評価のプロセス、施策化、社会資源の開発について学ぶ。
到達目標	1. 地域診断の目的・意義を理解することができる。 2. 地域診断における一連のプロセスを理解することができる。 3. 地域診断に関連する理論モデルとその活用について理解することができる。 4. 地域の情報を地区踏査やインタビュー、既存の資料から収集し、分析して健康課題を抽出することができる。 5. 地域診断から保健事業の計画・実施・評価のプロセス、施策化、社会資源の開発までのプロセスを理解することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	事前に教科書の該当範囲を熟読する。
事後学習	教科書、配布資料により復習する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	地域診断の概念	地域診断の意義、目的、視点、個人の健康課題と地域の健康課題	原岡
2	地域診断のプロセス	地域診断の基本プロセス、PDCAサイクル	原岡
3	地域診断に関連する理論モデル	プリシード・プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル	原岡
4	地域診断の進め方①	地域の情報の種類と収集方法・活用	原岡
5	地域診断の進め方②	理論に基づく情報の整理	原岡
6	地域診断の進め方③	情報のアセスメント、分析と診断、課題の抽出、計画と評価	原岡
7	地域診断の発展	保健事業計画の策定プロセス、施策化への発展プロセス	原岡
8	地域診断の方法・情報①	情報源と情報収集	原岡/横山 五十嵐
9	地域診断の方法・情報②	地区視診、インタビューの方法と情報収集	原岡/横山 五十嵐
10	地域診断の方法・情報③	既存資料、活動実績からの情報収集	原岡/横山 五十嵐
11	地域診断の方法・情報④	収集した情報の整理と加工	原岡/横山 五十嵐
12	地域診断の方法・アセスメント①	理論モデルを活用した情報の整理とアセスメント	原岡/横山 五十嵐
13	地域診断の方法・アセスメント②	理論モデルを活用した情報のアセスメント	原岡/横山 五十嵐
14	地域診断の方法・アセスメント③	理論モデルを活用した情報の総合的アセスメント	原岡/横山 五十嵐
15	地域診断の方法・健康課題特定	健康課題の特定と優先性の判断	原岡/横山 五十嵐
16	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版 医学書院 2.「国民衛生の動向」最新版　厚生統計協会	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での保健師実務経験がある教員が、経験を生かし地域診断の意義や目的などを指導する。	公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、疫学、保健統計Ⅱ、衛生関係法規の単位を修得していること

留意事項	1. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. グループで行うので、協力しあうこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
95	公衆衛生看護方法論Ⅲ (技術演習)	2	60	選択 (保健師必修)	演習	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	地域で生活する個人・家族、集団・組織、地域の特徴を理解して、事例を用いた演習を通し、課題解決のための家庭訪問、保健指導、健康教育と実習地域の情報を用いた地域診断の展開を行う。その際住民が主体的に課題解決に取り組み、本来の力を発揮できるよう支援するための方法を修得する。
到達目標	1. 個人・家族の健康課題を明らかにし、自らが課題解決できるための支援技術を身につけることができる。 2. 集団を対象とする公衆衛生看護活動の基本の展開方法を身につけることができる。 3. PDCAサイクルに基づいた地域診断のプロセスにおいて、地域特性を把握し説明することができる。

DPとの対応

	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2. 主体的行動力
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力
○	4. 課題発見能力と課題解決力
○	5. 看護の知識と看護実践力
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

		オフィスアワー
・定期試験	20 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
・受講時の積極性、態度等	0 %	
・その他(演習の到達度)	80 %	
合計	100 %	

事前学習	教科書の該当範囲を事前に熟読すること。演習で必要な事前学習は事前に提示するので充分準備すること。
事後学習	講義、演習内容をノートに整理すること。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	地域診断の展開方法	地域アセスメントの進め方	原岡
2	地域診断の実際①	地域(実習市町村)の地域の社会特性の情報収集・整理	原岡/横山 五十嵐
3	地域診断の実際②	地域(実習市町村)の健康状況の情報収集・整理	原岡/横山 五十嵐
4	地域診断の実際③	地域(実習市町村)の対象や地域の人々の行動認識と保健活動とシステムの情報収集・整理	原岡/横山 五十嵐
5	地域診断の実際④	地域(実習市町村)の情報のアセスメント	原岡/横山 五十嵐
6	地域診断の実際⑤-1	実習保健所の管轄する地域の情報収集・整理	原岡/横山 五十嵐
7	地域診断の実際⑤-2	地域(実習保健所)の情報(地域の社会特性)のアセスメント	原岡/横山 五十嵐
8	地域診断の実際⑤-3	地域(実習保健所)の情報(健康状況)のアセスメント	原岡/横山 五十嵐
9	地域診断の実際⑤-4	地域(実習保健所)情報(対象や地域の人々の行動認識と保健活動とシステム)のアセスメント	原岡/横山 五十嵐
10	地域診断の実際⑥-1	各グループで地域の情報収集とアセスメントの発表①	原岡/横山 五十嵐
11	地域診断の実際⑥-2	各グループで地域の情報収集とアセスメントの発表②	原岡/横山 五十嵐
12	家庭訪問の展開方法	家庭訪問の基本と展開	横山
13	家庭訪問の実際①	事例　支援ニーズが高い母子について情報収集・アセスメント	原岡/横山 五十嵐

教育内容	14	家庭訪問の実際②-1	事例　支援ニーズが高い母子について家庭訪問の計画立案	原岡/横山 五十嵐
	15	家庭訪問の実際②-2	事例　支援ニーズが高い母子について家庭訪問の計画立案(グループワーク)	原岡/横山 五十嵐
	16	家庭訪問の実際②-3	事例　支援ニーズが高い母子について　計画立案の修正	原岡/横山 五十嵐
	17	家庭訪問の実際③-1	家庭訪問の展開(ロールプレイ)	原岡/横山 五十嵐
	18	家庭訪問の実際③-2	家庭訪問の展開(ロールプレイ)、評価	原岡/横山 五十嵐
	19	健康教育の展開方法①	健康教育の目的・対象・技術、健康教育のプロセス	横山
	20	健康教育の展開方法②	健康教育の進め方	横山
	21	健康教育の実際①	企画書の作成	原岡/横山 五十嵐
	22	健康教育の実際②-1	指導案の作成①	原岡/横山 五十嵐
	23	健康教育の実際②-2	指導案の作成②	原岡/横山 五十嵐
	24	健康教育の実際③-1	教育媒体の作成①	原岡/横山 五十嵐
	25	健康教育の実際③-2	教育媒体の作成②	原岡/横山 五十嵐
	26	健康教育の実際④	グループ内デモンストレーション	原岡/横山 五十嵐
	27	健康教育の実際⑤-1	全体デモンストレーション、評価①	原岡/横山 五十嵐
	28	健康教育の実際⑤-2	全体デモンストレーション、評価②	原岡/横山 五十嵐
	29	健康教育の実際⑥-1	指導案、教育媒体の修正	原岡/横山 五十嵐
	30	健康教育の実際⑥-2	指導案、教育媒体の修正	原岡/横山 五十嵐
	31	定期試験	試験	原岡/横山

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	・『国民衛生の動向』(厚生統計協会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。	公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、保健・医療・福祉行政論の単位を修得していること

留意事項	1. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. グループで行うので、協力しあうこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
96	ターミナル看護	1	15	必修	講義	4年後期	小林たつ子/○鮎川昌代/山下恵子

科目概要	人生の最後の時期を生きる患者や家族を、看護師はどう支えることが出来るか、多角的な視点から看護の役割について学ぶ。終末期にある患者のケアに関して「ターミナル看護」「ターミナルケア」「ホスピスケア」「終末期ケア」「緩和ケア」「エンドオブライフケア」などさまざまな言葉が使われ、微妙な違いを含んでいる。本教科では用語の概説とその変遷についても学ぶ。
到達目標	1. 終末期(ターミナル期)における歴史や医療問題について理解する。 2. 終末期(ターミナル期)における倫理的問題について議論できる。 3. 終末期(ターミナル期)にある人のトータルペインについて理解し、特に身体的苦痛について理解する。 4. 死に行くひとを支え、その人の望む生き方を尊重した援助について考える。

DPとの対応			成績評価基準			オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	40 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他( )	0 %	
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する。
事後学習	1. 毎回授業の前後に、前回の授業内容の確認を実施する。 2. 死に行くひとを支え、その人の望む生き方を尊重した援助について、考えたことをレポートにまとめ提出する。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	終末期看護の現状・課題	終末期(ターミナル期)の概念 終末期(ターミナル期)の歴史的背景 終末期(ターミナル期)の医療問題	小林
2	終末期と終末期ケアの意味	終末期にある患者のケアに対する用語 終末期ケアの定義 終末期における生命倫理・意思決定支援	小林
3	終末期の病態的特徴	エンドオブライフ患者の病態特性とエンドオブライフケアの疾患「がん・心・肺疾患・老衰」などの事例 患者家族の心理・生活環境・諸理論	鮎川
4	終末期における看護の実践①	終末期(ターミナル期)患者の疼痛管理、症状緩和ケア 臨死期の身体的ケア;エンドオブライフケアと看護過程口	鮎川
5	終末期における看護の実践②	死にゆく人の心理過程の介入方法とDying Patient(臨死患者)のアセスメントとニーズ 臨死期の身体的ケア	鮎川
6	終末期の現状と看護の実践③	小児の終末期(ターミナル期)における看護師の役割・倫理問題	山下
7	終末期ケアのアウトカム評価	終末期ケアの事例 アセスメントとアウトカム評価の関係口	鮎川
8	終末期看護学の教育と研究	Death & Dying Care、スピリチュアルケアと看取りケア 臨死患者の家族の問題とサポートケア、Grief & Mourningなどについて文献や事例検討	鮎川
9	定期試験	試験	小林/鮎川 山下

テキスト	参考書
・小笠原友枝編著『エンドオブライフケア看護学』(ヌーベルヒロカワ)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、終末期を生きる患者や家族の支える看護の役割を指導する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
97	ヘルスカウンセリング	1	15	選択	講義	4年後期	内藤美智子

科目概要	医療従事者として患者や利用者にカウンセリングマインドをもって接する姿勢を深め、様々な心理療法理論を通して、人を多面的に理解する視点を身につける。精神分析療法、認知行動療法、フォーカシング等、様々な心理療法理論を通したコミュニケーション技術とその事例・実践を通して、多様なニーズをもつ人に接する技術を習得する。
到達目標	1. 看護師としてカウンセリングマインドをもって患者に接することの重要性について説明することができる。 2. 基礎的なカウンセリング技法について説明することができる。 3. さまざまな心理療法理論・技法について説明することができる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(　　)	0 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	印刷教材の該当部分を読んでおく。
事後学習	授業時に配布された資料に基き復習し、指示された課題についてまとめる。

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	カウンセリングの「こころ」	カウンセリングの基本的な考え方を学び、人を「理解する」ことについて考える。また看護職に必要なヘルスカウンセリングとは何か、その目的・意義を理解する。	内藤
2	看護におけるカウンセリングマインド	カウンセリングマインドとは何か、カウンセリングマインドをもって患者に接することの重要性を学ぶ。またカウンセリングマインドを生かした看護について考える。	内藤
3	コミュニケーションスキルを高める (1)話す・きく	対人援助の基礎となるコミュニケーション(話す・きく)の重要性を理解し、ロールプレイを通して、そのスキルを高める。	内藤
4	コミュニケーションスキルを高める (2)みる	ノンバーバル(非言語的)コミュニケーションの重要性を理解し、ロールプレイなどを通して「みる力」を養う。	内藤
5	基礎的なカウンセリング技法	カウンセリング場面で用いるさまざまな基礎的技法について、ロールプレイを通して体験的に学ぶ。	内藤
6	さまざまな心理療法的アプローチ (1)精神分析療法・行動療法	多様なニーズをもつ人を援助するさまざまな理論・技法があることを理解し、その代表的なアプローチである精神分析療法・行動療法について学ぶ。	内藤
7	さまざまな心理療法的アプローチ (2)クライエント中心療法ほか	クライエント中心療法ほかさまざまな心理療法的アプローチを紹介し、人を多面的に理解する視点を身につける。	内藤
8	事例を読む	カウンセリングマインドを生かした看護などの事例を紹介し、グループで読み込んでみる	内藤
9	定期試験	試験	内藤

テキスト	参考書
印刷教材を配布する。	・岡堂哲雄監修『看護・介護・保育の心理学シリーズ1～4』(新曜社)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
臨床心理士としての心理臨床活動経験を活かし、ヘルスカウンセリングに関する理論・技法について講義する。	なし

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
98	看護マネジメント論	1	15	必修	講義	4年前期	金子さゆり

科目概要	保健・医療・福祉におけるヘルスケアシステムは、常に社会や行政の影響を受け、変化している。これらを踏まえ、変化に応じて質の高い看護サービスを提供するために必要となる基礎的知識(看護におけるリーダーシップや組織論、マネージメントなどの諸理論)を学ぶ。看護管理学はそのプロセスにおいて、諸理論を活用して現象を科学的に分析し、マネジメントし、確実な成果を得るための学問である。従って、日々の看護実践において、職位に関わらず必要となる知識と技術である。これらの知識を基盤として、社会や所属する組織で、変革に能動的に関わることができる姿勢を養う。
到達目標	1. 保健・医療・福祉における看護管理の機能について理解できる。 2. 安全で質の高い看護ケアを組織的に提供するために必要な理論的知識(組織論、リーダーシップ論、医療安全管理、ケアの質管理、労務管理)について理解できる。 3. 社会の変化に対応できる看護職の人材育成およびキャリア開発について理解できる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	30 %	時間:講義終了後 場所:講師控室
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(課題成果物)	30 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	特になし
事後学習	適宜、提示する

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	看護管理の機能	ヘルスケアシステムの現状と課題、看護管理とは	金子
2	組織論	組織構造と組織原則、組織運営の5要素	金子
3	リーダーシップ理論	リーダーシップとは、フォロワーシップとは、集団の弊害、組織文化	金子
4	チーク医療と専門看護職の役割	チーム医療、他職種連携、スペシャリストの役割と活躍	金子
5	医療安全管理	医療安全の動向、リスクマネジメントの考え方、危機管理	金子
6	ケアの質管理	医療・看護における質評価指標、質保証と質改善の方法	金子
7	看護職の人材育成	看護師のキャリア開発、クリニカルラダー、動機づけ、新人看護職員研修	金子
8	労務管理	看護師の労務管理、ワークライフバランス、ストレスマネジメント	金子
9	定期試験	試験	金子

テキスト	参考書
印刷教材を適宜、配布する。	適宜、紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護界の変化に応じて質の高い看護サービスを提供するために必要となる基礎的知識と諸理論を基に看護サービスマネジメントを指導する。	なし

留意事項	課題成果物およびレポートは指定された日時厳守。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
99	卒業研究	2	60	必修	演習	4年通年	○小林たつ子/今井栄子/金子潔子/三輪憲永/百瀬ちどり 原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/小林由美/関永信子 横山芳子/山下恵子/伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ 塩澤綾乃/奥原香織/高下梓

科目概要	科学的な思考力、倫理観を養い自ら探求する態度と研究方法の基礎を身につける。学生の自主性を尊重し、ゼミナール形式で行い、指導教員のもと研究テーマを定め、文献検討を行い、研究計画書を作成するところから始め、結果の分析、論文作成に至るまでのプロセスを体得する。この体験を通して、研究的視点の必要性を理解し、達成感を得るとともに、他者と討論することで、看護に対する視野を広げ、自分の看護観を明らかにしていく。
到達目標	1. 研究的態度と姿勢が修得できる。 2. 研究プロセスが体得できる。 3. .自己の看護観が明確になる。

DPとの対応		成績評価基準			オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	0 %	時間:授業内で伝達 場所:研究室
○	2. 主体的行動力		・受講時の積極性、態度等	10 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・その他(研究計画書)	30 %	
○	4. 課題発見能力と課題解決力		・その他(論文作成)	30 %	
○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(論文発表)	30 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	

事前学習	研究入門、研究方法論の復習をしておく。
事後学習	ゼミ終了後、次回までに他者の意見を参考に研究計画書および論文の修正を行いながら完成に近づけていく。
学習の進め方	1. 3年次　5月頃　卒業研究ガイダンスにおいて、教員の研究分野と日程を説明する。 2. 3年次　7月～9月頃　担当教員の決定。 3. 4年次　4月～12月　担当教員による指導。 4. 4年次　12月中旬　研究論文提出

教育内容

回	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	授業の進め方について理解する。	担当教員全員
2	研究計画書の作成　1	研究目的を明確にし、研究計画を立案する。	担当教員全員
3	研究計画書の作成　2	研究目的を明確にし、研究計画を立案する。	担当教員全員
4	研究の準備　1	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検討　2)研究目的　3)研究方法　4)結果　5)考察	担当教員全員
5	研究の準備　2	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検討　2)研究目的　3)研究方法　4)結果　5)考察	担当教員全員
6	研究の準備　3	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検討　2)研究目的　3)研究方法　4)結果　5)考察	担当教員全員
7	研究データの収集　1	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
8	研究データの収集　2	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
9	研究データの収集　3	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
10	研究データの分析　1	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
11	研究データの分析　2	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
12	研究データの分析　3	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員

教育内容	13	研究データの分析　4	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	担当教員全員
	14	論文の作成　1	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	15	論文の作成　2	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	16	論文の作成　3	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	17	論文の作成　4	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	18	論文の作成　5	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	19	論文の作成　6	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	20	論文の作成　7	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	21	論文の作成　8	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	22	論文の作成　9	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	23	論文の作成　10	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	担当教員全員
	24	論文発表の準備　1	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	担当教員全員
	25	論文発表の準備　2	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	担当教員全員
	26	論文発表の準備　3	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	担当教員全員
	27	論文発表　1	論文発表会を行う。	担当教員全員
	28	論文発表　2	論文発表会を行う。	担当教員全員
	29	論文発表　3	論文発表会を行う。	担当教員全員
	30	論文発表　4	論文発表会を行う。	担当教員全員

テキスト	参考書
適宜指定する。	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
病院等での看護師（助産師、保健師）実務経験がある教員が、看護を多角的視野から考察し指導する。	なし

留意事項	1. 3年次後半から研究テーマの選定などの準備を行っていく。 2. 指導教員は、学生のテーマによって希望を聞いた上で決定する。 3. .指導を受ける者としてのマナーを守る 4. 約束や連絡、報告を行い連携を密にとる。 5. 提出期日には遅れないこと。遅れた場合は評価に影響し、未提出の場合は未認定となる。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
100	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	必修	実習	1年前期	○小林たつ子/金子潔子/関永信子/横山芳子/山下恵子 伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ/塩澤綾乃/奥原香織 宮坂光長/木村久枝/倉科恵里/五十嵐佳寿美/牛山陽介

科目概要	看護の対象となる様々な健康レベルの人々が、療養もしくは生活する場としての医療施設等を知り、受け持ち患者への関わりを通して、人間関係を形成し本来的な地域での生活に向けた看護とは何かの追求を体験的に学ぶとともに、カンファレンスの機会を重視し、学生が自ら課題を見つけ、看護に対する動機付けや関心、看護の可能性などの考えを深めることができる討議を修得する。
到達目標	1. さまざまなライフステージにある人々やあらゆる健康レベルの人々の生活の一部を知り、健康生活のための環境や看護の関わりについて、既習の知識と統合し考えることができる。 2. 看護の対象となる人々とのコミュニケーションを通し、看護活動を展開するために相互に信頼できる関係形成構築のための自己のあり方を考えることができる。 3. 看護職者の活動する場を知り、保健・医療・福祉において、看護職が果たす役割を知り、社会の中におけるネットワークの一部が分かる。 4. 看護の対象となる人々との関わりや看護職者の活動に触れ、「看護とは何か」その必要性、重要性について、既習の学習内容を想起し考えを整理して、説明できる。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標達成度ならびに出席状況、実習態度、実習内容(記録物、患者との関係性、カンファレンスでの発言内容、グループメンバーとの協調性)も含め、総合的に評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	看護の基本となるコミュニケーションや対象理解など、関連科目の内容を予習・復習しておく。
事後学習	なし

教育内容	
1)オリエンテーション	・実習要項に基づいて、実習の概要や留意事項について理解する。病院の紹介、指導教員の紹介を行う。
2)看護の対象となる人々の生活の一部を知り、健康生活のための環境を、既習の知識と統合し考えることができる。	・人々にとっての環境とは何か ・人々にとっての健康とは何か ・人々にとっての健康な生活とは何か ・ナイチンゲールの「看護覚え書き」やヘンダーソンの「看護の基本となるもの」など参照する。
3)看護の対象となる人々とのコミュニケーションを通し、看護活動を展開するために、相互に信頼できる関係形成構築のための自己のあり方を考えることができる。	・自己のコミュニケーションの良かった点、考えるべき点などを振りかえり自己の課題を見出すことができる。
4)看護職者の活動する場を知り、保健・医療・福祉において、看護職が果たす役割を知り、社会の中におけるネットワークの一部が分かる。	・看護師の活躍する場を知り、地域・職場における看護師の役割を考えることが出来る。 ・よりよい看護を提供するための、保健医療福祉のネットワークの概略が分かる。 ・看護が連携し継続されていることが分かる。 ・人々の健康の保持増進回復のために支援する多職種を知る。
5)看護の対象となる人々との関わりや看護職者の活動に触れ、「看護とは何か」その必要性、重要性について、既習の学習内容を想起し考えを整理して、説明できる。	・臨地実習で学んだ内容を整理し、グループ毎に発表する。(プレゼンテーション) ・個々の学びを統合し、発表を通し共有学習する。

テキスト	参考書
適宜指定する。	

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護の役割を体験的に指導する。	看護学概論を履修していること。

留意事項	1. オリエンテーションを基に事前に自己学習や実習準備(ユニフォームの準備等)をしておく。 2. 終日の実習であるため、規則正しい生活の励行や体調を管理し整えておく。 3. 実習は感染症等の状況によって変更する場合がある。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
101	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	必修	実習	2年前期	小林たつ子/○金子潔子/関永信子/横山芳子/山下恵子 伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ/塩澤綾乃/奥原香織 宮坂光長/木村久枝/倉科恵里/五十嵐佳寿美/牛山陽介

科目概要	基礎看護実習Ⅰの学修を踏まえ、健康上の問題のために生活の日常性が損なわれている対象者と援助的関係を築きながら、日常生活援助を中心に、対象の安全性・安楽性・個別性、自立性を考慮した看護を計画し実践する能力を育む。1名の患者を受け持ち、科学的根拠と看護理論を活用し、本来の日常性への回帰を視野に入れた看護過程の展開の実際を学ぶ。また、看護実習の体験から、患者と看護師関係のあり方、看護倫理について考察する。実習中のカンファレンスやレポート作成などを通して実施した看護を振り返り、自己の学びや今後の課題を明確にする。
到達目標	1. 学生として自分の責任や能力を自覚し、適切な行動がとれる。 2. 患者との援助的人間関係を成立・発展させることができる。 3. 受け持ち患者に一連の看護過程を展開し、必要な援助を実施して評価し、修正ができる。 4. 患者の安全、安楽、自立を考えて、援助計画が適切に実践できる。 5. 患者を取り巻く人々(家族、医療従事者など)との調整的役割の重要性が理解できる。 6. 対象者の尊厳を守り、倫理的な配慮に基づく看護の必要性を理解できる。

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標達成度ならびに出席状況、実習態度、実習内容(記録物、援助の展開、患者との関係性、カンファレンスでの発言内容、グループメンバーとの協調性)も含め、総合的に評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	・看護過程の展開の基礎知識の確認 ・受け持ち患者の病態や治療処置など、また検査等の基礎データの解釈をして実習に臨むこと ・その他、予習・復習をする
事後学習	なし

教育内容	
1)オリエンテーション	実習要項に基づいて、実習の概要や留意事項について理解する。病院の紹介、指導教員の紹介を行う。
2)病棟の概要と特性を理解する。	病棟オリエンテーションから病棟の看護の特徴、診療の特徴と注意事項を知る。
3)看護過程の展開ができる。 3)基本データの収集ができる。	・受け持ち患者を一人担当し、看護過程の展開を実施する。 ・受け持ち患者とのコミュニケーションや関わりを通じてデータを収集する。 ・患者データは、教員、実習指導者の指導の下に収集し、意味づけをする。
4)病棟看護師や教員と共に受け持ち患者に必要な日常生活を整える看護計画が立案できる。	・受け持ち患者の全体像を把握する。 (記録物、カンファレンス、指導者と共に実践するケア、指導などによる基本情報の把握) ・得られたデータから患者の全体像を描く。 ・得られたデータを統合して看護上の問題を抽出する。 ・優先度の高い看護上の問題に対し、看護計画を立案する。
5)受け持ち患者の優先順位の高い問題を解決するための看護計画に沿ってケアが実施できる。	・受け持ち患者に対して既習の基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント等の学びから、知識や技術を用いて安全・安楽・自立に配慮して、立案した看護計画を指導の下に実施する。
6)実施したケアを評価できる 6)看護計画を評価し修正できる。	・実施したケアの評価をし、看護計画の修正を行う。
7)患者・家族、グループメンバー、病棟スタッフとの人間関係を形成をする。	・日々のグループカンファレンスによって、援助に必要な情報の共有やメンバー間での議論を通し、よりよいケアを考え学びを深める。
8)実習における課題を明確にする。	・事後レポートを通じて、自身が行ったケアや患者との関わりなどについて振り返り、自身の看護観について文献を用いて深める。

テキスト	参考書
	看護過程の理論と展開の授業で使用したテキスト及び資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、看護過程の展開を通し、対象への看護実践を指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、看護過程展開論、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していること。

留意事項	1. オリエンテーションを基に事前に自己学習や実習準備(ユニフォームの準備等)をしておく。 2. 終日の実習であるため、規則正しい生活の励行や体調を管理し整えておく。 3. 実習は感染症等の状況によって変更する場合がある。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
102	地域・在宅看護学実習	3	135	必修	実習	3年通年	○関永信子/木村久枝

科目概要	訪問看護ステーションなどの実習を通して、地域で生活する対象者に応じた援助方法や、地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービスを理解し関係機関との連携や協働の実践方法を学修する。
到達目標	1. 対象者の健康状態と生活状況を記載できる。 2. 対象者の健康上のニーズを把握し、援助の必要性を抽出できる。 3. 指導の下で対象者に求められる看護を実践できる。 4. 対象者の健康と生活を支える社会資源の意義が説明できる。 5. 在宅看護の役割が説明できる。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		事前課題、実習記録の状況、実習への取り組み、実習評価、実習指導者の評価など総合的に評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 健康の自己管理に心がけ、円滑な実習が出来るよう日常生活を整えるスキルを身につけておく。 2. マナーに配慮した言動に心がけが出来るよう準備しておく。 3. 地域包括ケア論、地域在宅看護論など、すでに終えた学習内容と授業資料は見直しておく。 4. 実習で活用できるよう事前学習の準備をしておく。
事後学習	1. 実習を振り返り、援助の意味や学んだことや自分の考えを、カンファレンスや発表の場で表現する 2. 実習後は自己の課題を明らかにし、学びの活用を明らかにする 3. 他者理解、自己理解に心がけグループメンバーと学びを共有する

教育内容

内容

1. 訪問看護ステーションおよび地域包括支援センターなどで3週間の実習を行う。
2. 基礎看護術や訪問時のマナーなど主体的に実践する。
3. 訪問時のケアは同行時の看護師の指導の下、療養者に支障がない程度に実践する。

週	曜日	実習内容及び実習方法
1	月	学内実習OR 基礎看護技術(VSの測定・訪問時のマナー・コミュニケーション)の演習
	火	介護保険施設などの実習
	水	介護保険施設などの実習
	木	訪問看護ステーション実習 訪問看護に同行する
	金	訪問看護ステーション実習 訪問看護に同行する
2	月	中間カンファレンス(実習前半の振り返り・自己課題を明らかにし、次週に望む)・演習(技術の確認)
	火	訪問看護ステーション実習 訪問間に同行する
	水	訪問看護ステーション実習 訪問間に同行する
	木	訪問看護ステーション実習 訪問間に同行する
	金	訪問看護ステーション実習 訪問間に同行する
3	月	学内カンファレンス
	火	訪問看護ステーション実習 訪問間に同行する
	水	訪問看護ステーション実習 最終カンファレンス
	木	学内 カンファレンス (介護保険施設などにおける継続看護について)
	金	学内 まとめ (地域・在宅看護実習の学びと活用について) 実習記録の提出

テキスト	参考書
・関永信子編著『地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践』(翔雲社) ・臺由香編者『ナーシンググラフィカ 在宅看護論 在宅療養を支える技術』(メディカ出版) ・関永信子著『ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開』(ふくろう出版)	テキスト以外に実習に必要な参考書は実習中に紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の実際や役割および保健医療福祉の連携や協働の実践方法を指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、在宅看護学概論、在宅看護援助論Ⅰ、在宅看護援助論Ⅱ、家族看護学、在宅生活支援論

留意事項	地域・在宅看護学実習に関する詳細は実習要項を参照する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
103	成人急性期看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○今井栄子/近藤恵子/牛山陽介

科目概要	成人急性期/周手術期看護の看護過程の展開を中心に、看護師の役割、機能、チーム医療の展開を実践を通して学ぶ。
到達目標	1. 成人急性期の対象者を受け持ち、術前・術中・術後を通して看護過程の展開ができる。 2. 外来・病棟・手術室など臨床看護師の役割機能を説明できる。 3. 成人急性期の対象者を取りまく家族・社会の環境と配慮の必要性を説明できる。 4. 退院後の生活を考え対象者に必要な社会的援助、退院指導ができる

DPとの対応			成績評価基準	実習評価表に準ずる。	オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 受け持ち患者の疾患の病態生理、症状、検査、術式、治療と生体の影響、看護に関する学習を行う。 2. 急性期における合併症、予防のための看護技術、退院支援への援助に関する学習をしておく。 3. 在院日数の短縮などから実習時間が2週間になった。そのため、在院中の看護ケアと退院後のQOLを考慮して看護過程を展開できるようにする。
事後学習	ゴードンの健康的機能的健康パターンと看護診断による看護過程の展開を理解して使用することができたか自己評価する。

教育内容

内容

1. 周手術期にある患者を1名以上受け持ち、看護過程を展開する。
2. 急性期治療の場である手術室やICU、CCU等で4日間、見学実習を行う。
3. 病院からリハビリ専門施設等や自宅への移行期の看護(早期回復や生活支援等)を実施する。
4. 退院支援と継続看護の必要性を検討し、看護を計画・実施する。
5. 退院後に向けて、退院計画検討会議(退院カンファレンス)へ参加し、多職種連携・協働の実際を学ぶ。

週	曜日	実習内容及び実習方法
1	月	・成人看護急性期・周手術期の関連部所と医療チーム連携の在り方を理解する。各部署のオリエンテーション(急性期病棟、手術室、ICU等)、受け持ち患者決定(承諾、情報収集等)
	火	・術前看護ケアを看護師について、見学実習をする。 ・対象への倫理的配慮を十分に行い行動する。術前オリエンテーション、インフォームドコンセントの機会を逃さず見学し理解する。 ・看護チームにおける継続的な看護の在り方について考え、報告・連絡・相談を行う。 ・外科病棟における、対象を取り巻く医療チームの多職種と連携・協働の実際と一員であることを認識する。 ・受け持ち患者に対し、①対象を理解し、②看護問題を抽出し、看護計画の立案・実施・評価を行う。 ・金曜日にはカンファレンス、個人評価面接を行う。受け持ち患者のとらえ方や看護の方向性が妥当かどうかについて、質問指導を受ける。
	水	
	木	
	金	
2	月	・手術室とICU,HCUの見学実習を1日づつグループ内で計画する。 ・ICU,CCUの特性や看護の原則などのオリエンテーションを受ける。 ・手術・手術室見学を通して医療チーム連携を理解する。機会があったら受　け持ち患者の手術見学、医師・看護師・技師等の連携の実際を知る。 ・手術室の入室から麻酔・手術終了、帰室までの一連の流れを看護師について実習する。 ・看護師について、病室看護とは異なる看護の特徴を理解し、ICU/CCUにおける看護の特徴を学ぶ。 ・術後日数経過することで、退院後通院、社会復帰への準備の援助を患者と　共に考える。退院していく患者さんへ指導書を渡す等、退院指導を行う。 ・金曜日:最終カンファレンス及び評価を行う。準備・調整、テーマ、司会・進行等学生主体で行う。評価は学生の自己評価に基づき評価面接を行う。 ・受け持ち患者・家族、病棟スタッフ・指導者への挨拶
	火	
	水	
	木	
	金	

テキスト	参考書
成人急性期看護論に準ずる。	成人急性期看護論に準ずる。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人急性期の看護過程の展開を中心に指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護論の単位を修得していること。

留意事項	1. 実習記録はくれぐれも紛失しないように注意のこと。 2. 実習記録の提出等は指定された日時を厳守する。 3. 実習中の白衣、靴は清潔であること。 4. 実習病院・施設の規則厳守。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
104	成人慢性期看護学実習	4	180	必修	実習	3年通年	○鮎川昌代/垣内いづみ

科目概要	(Clinical Practice of Adult Nursing: Chronic Care) Chronic illnessを持ちながら生活する患者の、療養行動への援助を通して、看護を考察する。 慢性期疾患患者の生活過程を整えながら社会生活を営み、セルフマネージメント能力を患者自身につけるための援助の在り方を学ぶ。健康障害を持ちながら暮らしている人、もしくは終末期にある人とその家族の、身体的・心理・社会的影響を理解し必要な援助を、看護優先度に基づいてチーム看護を行うことの根拠について理解する。
到達目標	1. 受け持ち患者の発達段階をふまえて、Chronic illness をもちながら生活している患者の健康問題を整理し、身体、心理、社会的側面から理解できる。 2. 培ってきた生活のありようをふまえて、Chronic illness をもちながら生活している患者のセルフマネジメント力を分析し、その能力を高めることができる。 3. 受け持ち患者の不安や苦痛を理解し、緩和するための援助ができる。 4. 看護過程の思考プロセスを理解し、事例に適応できる。 5. 受け持ち患者への援助を振り返り、Chronic illnessをもちながら生活している患者および家族への看護を考察することができる。加えて、これらの対象者に多職種とともに援　助を行い、対象の安寧と安楽の促進について考えることができる。 6. 退院後の生活の再構築や社会復帰に必要な病院と地域の連携システムについて理解する。 7. 必要な援助を、看護優先度に基づいて、チーム看護を行うことの根拠について理解する 8. 自己の課題を意識し、主体的・積極的に学習する。

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習評価表に準ずる。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	・既存学修(慢性期疾患、基礎看護技術など)の復習
事後学習	・実習記録(実習要項を参照)

教育内容

内容	
1. 成人期にあり、慢性的な疾患を有する人または終末期にある人を1名受け持ち看護過程を展開する。 2. 入院中の患者に退院支援を計画する。 3. 外来において、退院後の患者と家族に対して継続看護を計画する。 4. 保健医療福祉システムにおける多職種との連携や協働、社会資源の活用の場面に参加する。 5. 終末期にある対象や家族との信頼関係を形成しながら、対象や家族のニーズを尊重して関わる。 6. テーマカンファレンスを行い、終末期の援助観や学生個々の死生観を深める。	
1. 看護過程を展開する 慢性的に健康障害を持ちながら生活している患者、もしくは終末期にある患者を1名受け持ち、一連の看護過程を展開する	①対象者を理解する 身体的・心理的・社会的側面から理解する。 対象者のライフスタイルと生活環境を理解する。 治療や看護を受けることに対する思いを受け止める。 ②対象者のアセスメント 慢性期の特徴を踏まえてアセスメントする。対象者のセルフマネジメント力を評価する。 全体像を把握し看護診断を行い、健康問題を明確にする。 ③対象者への看護計画を立案する 対象者の発達課題、ソーシャルサポート、セルフマネジメント力、疾病受容のレベルを考慮した看護計画を考案する。 ④実施・評価を行う 看護計画に基づき受け持ち患者と家族に適切な援助を実践する。場合によっては、看護師が実施するケアを見学する。 セルフマネジメント力支援、患者教育、不安や苦痛の緩和を行う。 ⑤退院後の生活の再構築や社会復帰に向けて退院支援を実施する。 退院指導計画を実施する。 外来における継続看護を学ぶ。 実施した看護援助を客観的にみつめ、看護計画を評価し、サマリーにまとめる。
2. 多職種との連携を学ぶ	多職種との連携や協働の場面(退院カンファレンスなど)に参加・見学する。
3. 地域連携の実際を学ぶ	退院後の生活の再構築や社会復帰に必要な地域と病院の連携の実際に参加、見学する。
4. チーム看護と看護優先度	チームメンバー間での情報共有、意見交換を観察し、チーム看護を学ぶ。 看護ケアの看護優先度について、看護実践を客観的に振り返る。

テキスト	参考書
・茂野香おる編『「系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」医学書院 2.任和子他:「系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」医学書院 3.鈴木久美 他:看護テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護改訂第 2 版(南江堂)	成人看護学(慢性期看護)、がん看護学の他、人体構造機能学、疾病治療論、薬理学、病理学等の参考書 も必要。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人慢性期看護論の単位を修得していること。

留意事項	なし

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
105	老年看護学実習Ⅰ	1	45	必修	実習	3年前期	○百瀬ちどり/垣内いづみ/近藤恵子/牛山陽介

科目概要	多様な場での高齢者の生活について理解する。高齢者とのコミュニケーションや、活動の実際に触れて、多職種との連携や家族支援の実際について学ぶ。地域包括ケアシステムと介護保険施設の役割、地域の中の施設の役割とそこでの求められる看護の役割について実践を通じて理解する。
到達目標	1. 地域包括ケアシステムにおける地域固有の介護予防の多様性を学び説明できる。 2. 地域で生活する高齢者の介護予防意識をコミュニケーションを通じて学び、理解ができる。 3. 認知症予防について健康教室参加を通じ、高齢者と共に実践し、仲間づくりとコミュニケーションの意義を理解できる。 4. 挑戦期としての高齢期を生きる人々を尊敬し尊重した行動が実践できる。

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習要項の各項目に対する到達度並びに学習態度・実習記録・面接等による。(評価の詳細は実習要項を参照)	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	実習要項に示す
事後学習	実習要項に示す

教育内容

内容

1. 地区福祉ひろばにおいて、地域で生活する健康な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を把握する。
2. 学生は、必ず1人以上の健康な高齢者とコミュニケーションをとり、レポートにまとめる(高齢者の許可を得れば、写真などを用いてもよい)。
3. 社会で活躍している高齢者に関する情報を収集し、健康長寿を維持する方法について考察(グループワーク)し広場の老人たちと一致する点について話してみる。
4. 日々のカンファレンス及び最終日の全体討議を通して、実習で得た事実をもとに健康な高齢者の特徴をグループ間で話し、関わらせていただいたことから学んだことを老人たちに発表し意見をもらう。

実習内容及び実習方法		担当者
1. 地域包括ケアシステムにおける地域固有の介護予防の多様性を学び説明できる。	1. 地域の高齢化の実際 2. 地域の高齢者との関りまなぶ高齢者の生活 3. 高齢者とその家族、地域とのかかわり 4. 地域包括ケアシステムの実際 5. 地域保健医療福祉の中の看護の役割 6. 介護保険施設の看護の役割 7. 介護予防の取り組みについてそれぞれの職種の役割 8. 地域の高齢者行政の中の看護の役割	担当者全員
2. 地域で生活する高齢者の介護予防意識をコミュニケーションを通じて学び、理解ができる。	1. 様々な状況で生活する高齢者とのコミュニケーション 2. 生活の場としての介護保険施設の役割 3. 地域と介護保険施設の関り	担当者全員
3. 認知症予防について 健康教室参加を通じ、高齢者とともに実践し、仲間づくりとコミュケーションの意義を理解できる。	1. 地域福祉と福祉広場の役割 2. 介護保険制度と保健センターの役割 3. 高齢者同士のかかわりの実際やコミュニケーションの実際 4. 地域の認知症高齢者対策・認知症予防	担当者全員
4. 挑戦期としての高齢期を生きる人々を尊敬し尊重した行動が実践できる。	1. 施設の人権擁護と安全対策 2. 家族とのかかわり 3. 自己の老年観	担当者全員

テキスト	参考書
老年看護学関連で用いたテキスト・資料等を活用する。	"老い"に関する書籍

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、地域包括ケアシステムと介護保険施設の役割などを実践を通じて指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学概論の単位を修得していること。

留意事項	1. 援助は必ず関係者または教員と行うこと。高齢者の安全のため、絶対に一人では行わない。 2. 高齢者の人生に敬意を払いそれを表現してコミュニケーションをとる。 3. 分からないこと、判断に迷うことは必ず、関係者または教員に相談すること。 4. 健康な高齢者が自立して生活できる姿勢から学ぶこと。 5. その他、実習の一般的注意事項は実習要項を熟読すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
106	老年看護学実習Ⅱ	2	90	必修	実習	3年通年	百瀬ちどり

科目概要	老年看護学の諸理論を踏まえ、高齢者や家族の生活及び健康と健康レベルや療養形態に応じた対象とその家族に対する看護について理解し老年看護の基本的知識と技術を実践を通じて習得する。老年期の疾病と健康回復、生活の再構築に向けた看護を高齢者の生理的変化に配慮して実践する。
到達目標	1. 医療機関及び介護保険施設における高齢者ケアチームと看護の役割について説明できる。 2. 受け持ち対象者の個別性を踏まえた看護過程の理解と実践ができる。 1)受け持ち対象者の加齢に伴う身体的変化と疾患・治療について説明できる。 2)必要な情報を収集し、アセスメントから看護問題を明らかにすることができる。 3)高齢者の生き方や価値観を尊重した個別性のある看護計画が立案できる。 4)看護計画に基づいて、高齢者の健康状態に応じた尊厳ある援助が実践できる。 5)より良い看護実践のために、計画内容と援助の実際を評価修正できる。 3. 地域連携を中心とした保健医療福祉の連携・協働の実際をカンファレンスに参加し、説明できる。 1)退院、施設入所等の調整に向けた看護の役割を学ぶ。

DPとの対応			成績評価基準	オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習要項の各項目に対する到達度並びに学習態度・実習記録・面接等による(評価の詳細は実習要項を参照)。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	実習要項に示す
事後学習	実習要項に示す

教育内容

内容

1. 治療を必要として医療機関に入院している高齢者を1名受け持ち、よい人間関係を築き看護過程を展開する。
2. 高齢者の健康課題と生活上の課題を明らかにして、健康の回復、合併症の予防、生活行動の維持・拡大を目指す看護を実践する。
3. 高齢者の健康増進や生活支援に活用できる社会資源を、家族などの支援者と共に検討する機会を持つ。
4. 退院後に必要な治療が継続できるように、医師、外来看護師、MSW、家族などと共に退院計画を検討する機会に参加する。
5. 医療チームとの連携・協働により、退院後の高齢者の健康の維持・増進と生活を整えるために活用できる社会資源を検討する。

実習内容及び実習方法		担当者
1. 医療機関及び介護保険施設における高齢者ケアチームと看護の役割について説明できる。	1. 高齢者ケアのチームの中での看護の役割 2. 多職種連携のカンファレンスからの受け持ち患者の情報収集 3. チームの一員としての報告・連絡・相談	担当教員全員
2. 受け持ち対象者の個別性を踏まえた看護過程の理解と実践ができる。	1. 高齢者の状況を加齢変化・現病歴・生活機能障害・心理面からの総合的な情報収集 2. 高齢者の入院の目的、治療内容、退院支援 3. 収集した情報を基にしたアセスメント・看護問題抽出 4. 看護問題の優先順位 5. 対象の個別性に合わせた看護目標設定 6. 対象にあった具体的な看護計画立案 7. 日々の対象の変化に合わせた毎日の行動目標立案 8. 高齢者のペースに合わせた日々の援助計画修正 9. 対象の個別性や状況を考慮し反応に合わせ原理原則を遵守した安全安楽を考えた援助 10. 対象および家族の人格や価値観を尊重した倫理的な態度での実践 11. 対象の反応を客観的にとらえたSOAPで記述の評価 12. 実習全般における看護の実際と残された課題を客観的に考えられたサマリーの記載	担当教員全員
3. 地域連携を中心とした保健医療福祉の連携・協働の実際をカンファレンスに参加し、説明できる。	1. 退院に向けた多職種間の連携 2. 介護保険施設の役割と看護の役割 3. 医療機関と介護保険施設の連携	担当教員全員

テキスト	参考書
老年看護学関連で用いたテキスト・資料等を活用する。	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、高齢者や家族の生活などに応じた看護を実践を通して指導する。	老年看護学実習Ⅰ、老年症候群援助論、老年看護援助論の単位を修得していること。

留意事項	1. 高齢者の適応能力の低下に配慮し対象者のペースを尊重し、安全安楽に十分に配慮し行うこと。 2. 援助に関しては必ず指導者、病棟スタッフ、教員と共に行う。 3. 高齢者の情報は適宜指導者やスタッフ、教員に報告する。 4. その他、実習要項の実習の注意事項を熟読しておくこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
107	小児看護学実習Ⅰ	1	45	必修	実習	3年前期	山下恵子

科目概要	乳幼児期の成長発達や日常生活行動の特徴を踏まえて、適切な日常生活援助技術ができるための基礎的な能力を養う。また小児を取り巻く医療と地域の連携を知ることを目的とする。乳幼児期の成長発達に応じた日常生活援助の実践と小児専門病院と地域との連携を学ぶ。
到達目標	1. 小児の成長発達、日常生活、心理・社会的特徴、各発達段階・発達課題について説明できる。 2. 小児の援助に必要な知識、技術、態度、方法を学び、小児の成長発達を促す遊びの必要性について説明できる。 3. 小児を取り巻く環境、子どもと家族と地域との関連について説明できる。 4. 小児専門病院の役割と機能を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準	小児看護学実習要項参照	オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 小児の成長・発達の特徴、課題と成長・発達を促す方法について学習する。 2. 小児を取り巻く環境(家庭・保育園・病院・地域社会など)について学習する。 3. 小児によく見られる事故、感染症とその予防対策について学習する。 4. 小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習する。
事後学習	なし

教育内容

内容
1. 到達目標1.2.3に沿って健康児を通してその特徴を学ぶ 2. 到達目標4に沿って、小児専門病院で見学実習を行い、小児専門病院の役割と機能について学ぶ。

	実習内容及び実習方法	担当者
月	オリエンテーション、保育に必要な技術演習	担当教員全員
火	1. 保育所ごとに施設側より園の特徴や注意点等のオリエンテーションを受ける。 2. 保育士と子どもの関わりを通し、健康的に成長するための保育実践を学ぶ。 3. 遊びの場面における保育士の関わりから心身の発達の促進を学ぶ。 4. 子どもの気持ちや欲求表現を観察し受け止めて関わる。 5. 日々の関わりの中で安全・事故防止、感染防止対策のための実際を学ぶ。 6. 日常生活習慣や保育環境、さらには地域環境と保育について考える。 7. 家庭との連携、協働について連絡帳や行事等の意義について考える。 8. 1日は、小児専門病院での見学実習により、地域における役割と機能について学ぶ。	担当教員全員
水		担当教員全員
木		担当教員全員
金	1. 終了カンファレンスで、各園の特徴や保育の実際を園からの助言や指導を通して学んだこと、疑問や質問などを出し合い学びを深める。また、小児専門病院の役割と機能について話し合う。 2. 保育園実習、小児専門病院の学びや心に感じたことをまとめ提出する。	担当教員全員

テキスト	参考書
小児看護学関連で用いたテキスト及び資料	小児看護学関連で用いたテキスト及び資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の健康状態と発達及び小児と家族に応じた看護実践を指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、小児看護学概論の単位を修得していること。

留意事項	小児看護学実習に関する詳細は実習要項を参照する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
108	小児看護学実習Ⅱ	1	45	必修	実習	3年通年	山下恵子

科目概要	健康障害を持つ小児とその家族に対する適切な援助ができるための基礎的な看護実践能力を養うことを目的とする。健康障害を持つ小児を受け持ち、看護計画立案、実践、評価する能力を身につける。受け持ち事例を通して、健康障害の回復過程を促進する支援を行うために必要な援助を受け持ちを通して修得する。
到達目標	1. 健康障害をもつ小児の疾患の特徴、治療や看護及び子どもとその家族への影響について説明できる。 2. 健康障害をもつ小児及びその家族を取り巻く状況、必要とされる援助をアセスメントし、科学的根拠に基づいた看護を計画し、実施及び評価できる。 3. 小児の健康障害の程度、発達段階に応じた事故防止、感染防止対策について説明できる。 4. 子どもとその家族の権利を擁護ができる。 5. 保健医療チームとしての自己の役割を認識し、活動に参加できる。

DPとの対応			成績評価基準	小児看護学実習要項参照	オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 小児の成長・発達の特徴、課題と成長・発達を促す方法について学習する。 2. 小児を取り巻く環境(家庭・保育園・病院・地域社会など)について学習する。 3. 小児によく見られる事故、感染症とその予防対策について学習する。 4. 小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習する。
事後学習	なし

教育内容

内容
病棟において、健康障害をもつ児を通してその看護について学ぶ

	実習内容及び実習方法	担当者
月	1. 病棟にてオリエンテーションをうけ、受け持ち患児を決定する。 2. 患児の1日の流れを知り担当ナースと共に看護を行う。 3. 受け持ち児の病態・疾病の経過・治療・予後などを理解し、病状に合わせた適切な看護を考える。 4. 子どもと家族の背景や思いを把握するとともに親子関係を知る。 5. 疾病と子どもの発達を関連づけて治療や処置の援助に生かすよう考える。 6. 病児の安全や院内感染の予防を考え日々配慮する。 7. 病気のとらえ方、自己の在り方、生き方など子どもらしく前向きに受け止める力を支援し考える。 8. 実習最終日には、受け持ち児の看護を通して学んだことや病棟からの助言や看護師との看護援助を通して学んだこと、疑問や質問などを出し合い学びを深める。 9. 受け持ち児との関わりからの学びや心に感じたことを小児の看護観としてまとめ提出する。	担当教員全員
火		
水		
木		
金		

テキスト	参考書
小児看護学関連で用いたテキスト及び資料	小児看護学関連で用いたテキスト及び資料

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の健康状態と発達及び小児と家族に応じた看護実践を指導する。	小児看護学実習Ⅰ、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位を修得していること。

留意事項	小児看護学実習に関する詳細は実習要項を参照する。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
109	母性看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○小林由美/塩澤綾乃/奥原香織

科目概要	周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)にある対象とその家族に対する適切な援助ができるための基礎的な看護実践能力を養うことを目的とする。周産期にある対象の特徴を把握するとともに、母子を受けち、看護計画立案、実践、評価する基礎的能力を身につける。受け持ち事例を通して、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を行うために必要な援助技術や健全な母子関係を成立させるために必要な指導技術について母子への実践や学内でのシュミレーター演習を通して修得する。
到達目標	1. 周産期にある女性の妊娠・分娩・産褥期の変化と経過を説明できる。 2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応がスムーズにできるように援助する。 3. 周産期にある母子の経過とニーズに応じた看護過程を実践することができる。 4. 周産期にある母子とその家族への継続的な援助の重要性を知り、母子保健に関する制度・社会資源・地域活動を理解し、継続的な支援を考えることができる。 5. 専門職者として守るべき看護倫理について理解し、対象の権利と保護を踏まえた援助ができる。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習内容、実習記録、自己評価、最終レポートを総合して評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 母性看護学概論・援助論ⅠⅡをしっかり復習し実習に臨む。
事後学習	1. 実習で学んだことをさらに自分で調べて記録にまとめる。

教育内容

内容

1. 産科病棟(褥室)、分娩室、新生児室、産科外来、助産所で実習する。
2. 産科病棟(褥室)・新生児室実習では、1組の母子を受け持ち、看護過程を用いた看護実践を行う。
3. 分娩見学では、分娩経過中の産婦を1～2名の学生で受け持ち、産婦に必要な基本的な看護を実施する。
4. 産科外来実習では、妊娠初期・中期・末期の妊婦健康診査を見学し、妊婦の腹囲・子宮底長の測定、レオポルド触診法、児心音測定を実施する。
5. 病棟、外来で行われている集団指導・個別指導の実際を学ぶ。
6. 助産所で1日実習を行い、地域母子保健の実際を学ぶ。

	実習内容及び実習方法	担当者
1. 周産期にある女性の妊娠・分娩・産褥期の変化と経過を説明できる。	1. 正常な妊娠経過における妊婦と胎児の状態 2. 分娩進行状態や産婦と胎児の健康状態を判断する方法 3. 正常な産褥経過	担当教員全員
2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応がスムーズにできるように援助する。	1. 新生児の生理的特徴 2. 新生児胎外生活適応 3. 新生児に対する基本的な技術の実施	担当教員全員
3. 周産期にある母子の経過とニーズに応じた看護過程を実践することができる。	1. 妊婦へ必要な援助 2. 分娩進行中の母子への援助 3. 産褥期の母子のアセスメント・診断・計画立案・評価 4. 産褥期の母子への援助 5. 産褥期の母子への援助を実施した後に評価・計画修正	担当教員全員
4. 周産期にある母子とその家族への継続的な援助の重要性を知り、母子保健に関する制度・社会資源・地域活動を理解し、継続的な支援を考えることができる。	1. 周産期にある母子とその家族への継続的な援助の必要性 2. 周産期にある母子に対する制度や継続的な支援	担当教員全員
5. .専門職者として守るべき看護倫理について理解し、対象の権利と保護を踏まえた援助ができる。	1. 対象の人格を尊重した誠実・真摯な態度 2. 自己決定の支援、プライバシー・個人情報保護への配慮 3. 自己管理(時間厳守・健康管理等)	担当教員全員

テキスト	参考書
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学②)』(医学書院)	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での助産師実務経験がある教員が、周産期にある対象の特徴を把握し、実践を通して指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱの単位を修得していること。

留意事項	1. これまでの学習を復習し実習に臨む。 2. 実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組む。 3. 体調管理に十分気を付け欠席しないようにする。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
110	精神看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○藤川君江/宮坂光長

科目概要

精神保健上の問題により、日常生活や対人関係に困難を有している人々に関わり、これまでに学んだ知識・技術および態度の統合を図り、精神看護の実践能力を養う。受け持ち患者との関わりを通してリアリティのある精神看護学実習の具体的な方法を学修する。

到達目標

1. 精神看護の目的、機能、役割を説明できる。
2. 精神看護特有の看護方法を説明できる。
3. 患者・看護者関係の治療的意味を説明できる。
4. 患者の状態をアセスメントし看護計画が立案できる。
5. プロセスレコードの活用から、患者の思いや、自己の対人関係の傾向に気づくことができる。
6. 精神保健福祉法に基づく人権擁護や処遇について説明ができる。
7. 患者の関わる他職種の役割と連携について説明ができる。

DPとの対応

	1.	多様な人との関係を成立・発展できる能力
○	2.	主体的行動力
	3.	地域貢献力と多職種連携能力
○	4.	課題発見能力と課題解決力
○	5.	看護の知識と看護実践力
	6.	地域の多様な健康課題に対応できる力

成績評価基準

・実習態度、実習内容、実習記録、演習(再構成)	90 %	オフィスアワー 時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
・事前学習レポート	5 %	
・事後学習レポート	5 %	
・その他	0 %	
合計	100 %	

事前学習

1. 実習要項をよく読み、実習目的・目標や方法を理解しておく。
2. 主な精神疾患及び精神症状に対する援助の方法やコミュニケーションの在り方。
3. 主な精神疾患の診断・検査・治療についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。
4. 精神保健福祉法、障害者自立支援法についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。
5. 精神科病棟の機能や特徴、保護室の目的、精神科病院の安全管理についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。

事後学習

1. 実習の過程を振り返り、学んだこと、書簡などについてレポートし提出する。
2. 実習終了後は、学習成果と自己の課題を明らかにし、実習記録類一式にポートフォリオして提出する。

教育内容

内容

1. 精神障害を持つ人を1名受け持ち、看護過程に沿った看護実践を行う。
   ・精神看護実践に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、看護過程を展開する。
   ・精神症状と、それによる日常生活への影響、患者の困りごとや強み、健康な部分にも目を向ける。
   ・患者ー看護師関係における相互作業の意味を理解する。
2. 日々の看護計画や実践報告は、臨床指導者の指導を受けながら、看護問題やその援助方法を立案する。
3. 退院支援や社会資源の活用、継続ケアについて、病院及びデイケアでの取り組みに参加し、地域包括支援に関する多職種連携の実際を学ぶ。
4. 日々のカンファレンスで、一日の実習での学びや気づき、患者との関係における感情体験について共有する。
5. プロセスレコードの記述と検討を通して、患者との相互作用について考察し、対象の理解とともに自己への気づきを深める。
6. 日々カンファレンスを行う。日時の設定、依頼の仕方、セッティング、準備、司会、書記、運営は学生主体で行う。依頼から当日の運営まで、グループで協力し実施する。チームワーク、司会、運営の学びとなる。
7. 病棟で行われている治療プログラムやチーム医療のカンファレンスに参加する。
8. 精神障害を持つ人やその家族の尊厳を守り、人権やプライバシーに配慮する。
9. 2週目にデイケアでの実習を1日行う。

	実習内容及び実習方法	担当者
月	・オリエンテーション:施設の特性および病棟特性構造などオリエンテーション、患者説明と紹介、挨拶(自己紹介)、実習受け持ちの承諾を得る、基本的情報の収集等	担当教員全員
火 水 木	・患者に関心を寄せ、生きてきた人生を想像し傾聴、共感し治療的関係の構築に努力する。 ・看護過程を展開し、集団におけるチームワークと看護者としての役割を認識する。 ・プロセスレコードの活用から、双方へどのように影響を及ぼすか気づくことができる。	担当教員全員
金	・中間カンファレンスを行う。これまでの病棟実習の中で疑問点、質問、困っていること、について自己表出しともに解決し、次週の実習に生かす。 ・学生の自己評価をもとに指導教員、臨床指導者と面接し、次週の実習に生かすよう話し合う。	担当教員全員
月 火 水 木	・退院支援や社会資源の活用、継続ケア、病院及びデイケアでの取り組みに参加し、地域包括支援に関する多職種連携がどのようにされているかの実際を学ぶ。 ・患者や家族にとっての社会資源の役割とその活用をと同時に、家族の尊厳を守り、人権やに配慮できているかを観察する。 ・病棟で行われている治療プログラムやチーム医療のカンファレンスに参加する。	担当教員全員
金	・最終カンファレンス:病棟実習での学びや気づきを共有し精神看護実習についての理解を深めるディスカッションをすることで、気づきや学びを増やすカンファレンスとする。	担当教員全員

テキスト	参考書
精神看護学の授業で使用した教科書及び配布資料等	・萱間真美編『パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護 第2版』(照林社) ・『アクティブ・ナーシング　こころを癒す：実践オレム-アンダーウッド理論』

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
	基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を修得していること。

留意事項

1. 実習オリエンテーションには必ず参加すること。
2. 実習要項を熟読して実習に臨むこと。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
111	救急看護学実習	1	45	選択 (救急・災害必修)	実習	4年前期	○今井栄子/鮎川昌代/垣内いづみ/近藤恵子/牛山陽介

科目概要	救急看護学を修得した者が実践の場で救急看護の実際を実習を通して学ぶ。救急看護の患者対応・家族対応や救急チーム医療の一員として看護技術をケアにどのように活用していくか。観察・アセスメントを救急での看護過程にどう生かしていくかなど。対人関係・クリティカルシンキング・危機理論を使った看護過程など今まで学習してきた知識、能動的行動すべてをフル活動して実習で学ぶ。
到達目標	1. 救急医療の臨床において、救急看護の位置づけと役割の概要を説明できる。 2. 救急看護の目的、対象、救急看護独自の特徴を説明できる。 3. 救急患者・家族の対応を経験し、救急時救急看護の果たす役割・必要事項を説明できる。

DPとの対応			成績評価基準	実習評価表に準じる。	オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
		2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
		4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	・救急看護学・クライシス理論の復習　まとめたノートの確認。 ・成人急性期看護学の復習。 ・山岳事故や自然災害時の救急搬送時の特徴と対処方法について下調べしておく。
事後学習	・日々経験した事象・医療看護事項の看護過程の展開を記載。

教育内容

内容

1. 松本市内の救急受け入れ病院(松本医療センター、松本市立病院、松本協立病院、相澤病院)の救急部、救急センター、ICUで実習する。

2. 救急外来時の看護を救急外来で学ぶ。
1)医師及び看護師の指導の下、問診・観察・検査・処置などに参加しながら、患者にとっての説明、声掛け、処置の説明など、そのケアの目的、重要性、看護の役割等の意味について学ぶ。
2)患者・家族の心理状態にも関心を向け、救急患者のメンタルケアの重要性を学ぶ。
3)主訴や事故の状況から予測される病態や診断の特殊性を学ぶ。
4)医療機関における自然災害等における救急搬送や処置を想定した対処の実際を学ぶ。

3. 救急外来からHCUに収容された対象の看護を学ぶ。(急性期実習のHCUでの学びを活かす)
1)患者に関する情報を、身体、精神、社会関係、時の流れの4点で整理し患者の全体像を把握する。
2)患者の身体状態を、主要機能の面から把握し、アセスメントする。
3)患者に行われている治療の意味を理解する。
4)患者の苦痛を推測し、緩和に努める。
5)患者の家族にも配慮し、必要なケアを行う。

	実習内容及び実習方法	担当者
月	・実習期間中の全体のオリエンテーション(大学側・受け入れ施設) ・病院・センターの構造、業務体制、役割概要について説明を受ける。 ・他職種連携の救急の場において看護職の果たす役割を理解する。	担当教員全員
火	・地域の具体的救急体制の説明を受ける/指導者について実際を学ぶ。 ・地域の救急体制の重要性と抱える問題を考える。 ・他職種のカンファレンスに参加する。 ・受け持った患者の看護展開を1例まとめる。	担当教員全員
水		
木		
金	・まとめの会の準備をする。 ・各個人の到達目標ができたか、意見交換をする。 ・地域における救急看護体制の在り方や施策などの関する課題と解決方法など考えてレポートにまとめて提出する。	担当教員全員

テキスト	参考書
救急看護学に準ずる。	救急看護学に準ずる。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、救急看護の患者対応や救急チーム医療の一員として役割を指導する。	救急看護学、感染看護学の単位を修得していること。

留意事項	1. .事前事後学習を必ず行うこと 2. 記録、看護展開を日々を確実に実施 3. まとめ、発表、看護過程記録物の提出日時順守

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
112	災害看護学実習	1	45	選択 (救急・災害必修)	実習	4年前期	○今井栄子/鮎川昌代/近藤恵子/牛山陽介

科目概要	災害発生時の看護活動における基礎的能力を養うとともに病院における災害時の看護の役割と機能の実際を学ぶことを目的とする。市町村や病院などが主催する自然災害を想定した防災訓練に積極的に参加し、災害に対する活動の体験を通して、災害時の看護の役割と機能の実際を学ぶ。
到達目標	1. .防災訓練での傷病者や災害に関する活動などを体験し、被災者の身体・こころ・社会面への影響を考える。 2. 災害医療チームメンバーとの交流を通して災害医療チーム活動の実際を学ぶ。 3. 災害時に傷病者を支援する医療施設での看護職者の役割の実際を学ぶ。 4. 初動体制や管理体制、地域との連携を踏まえ、災害時の情報、物的、人的な視点から、看護の専門性を考える。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習評価表に基づき、実習内容を総合的に評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. .災害看護学の復習 2. 防災訓練に関する基礎知識の復習 3. 災害医療チームに関する学習
事後学習	1. .事後のグループ討議では、自分の考えを積極的に発言できるよう整理しまとめておく。

教育内容

内容

1. 災害発生時、災害対応や救護班の結成・派遣要請がかかる医療施設で実習する。
(諏訪赤十字病院、相澤病院)
2. 本県(当地域)における災害発生に伴って、連絡と対応の要請があるところから、準備、出動・出発、実際の救護活動、最後の終結までの一連の過程の中における、看護の役割とその実際を模擬的にあるいは機会があれば実際に参加し、体験する。
3. 毎日カンファレンスを行い、学びの所感を理論と関連させて表出し、また疑問、質問や実習への要望など伝え自主的、主体的な姿勢で礼儀正しく真摯な姿勢で話し合いをする。

	実習内容及び実習方法	担当者
月	・施設の概要・特性と災害時における役割・依頼内容など、日頃からどのような準備体制と協定などが結ばれているかオリエンテーションを受ける。 ・その協定に伴って、日頃からどのようなハード面での準備態勢が整えられているか、またソフト面ではどのような訓練等の計画的プログラムが組まれているのか説明を受ける。	担当教員全員
火 水 木	1. 災害発生時の基礎技術を実際に学ぶ。 ① 多数傷病者発生時のトリアージ、応急救護演習。 ② 限られた資源や環境での看護ケア。(身体観察、保清ケアなど) ③ 患者の安全を守るとともに看護者である自己の安全を守る技術。 2. 災害が被災者の身体、こころ、社会面におよぼす影響を考える。 ① 市町村や医療機関等が主催する自然災害を想定した防災訓練に参加する。 ② 自然災害の被災者や関係者から直接話を聞く。 3. 病院における災害時の看護の役割と機能の実際を学ぶ。 ① 災害時の地域における医療施設の役割や機能について考究する。 ② 被災を想定した医療施設での初動体制や管理体制の実際について説明を受ける。 (傷病者受け入れや災害派遣体制、患者の避難方法や避難場所など) ③ ライフラインや医療機材など"物的"な備えについて説明を受ける。 ④ "災害時の情報"の伝達や患者カルテの管理の実際を学ぶ。	担当教員全員
金	・最終日には、実習期間中の学びから、地域の災害状況を踏まえ、学生の考えやアイデアなど、テーマを決めて深く追及した成果を発表する。 ・発表の中では活発な意見交換を行いまた現場からの卓越した考えや体験なども伺う。 ・発表会の場所、招待の連絡、必要物品を依頼あるいは持ち込みか、資料等、また司会・進行についても学生主体で行う。	担当教員全員

テキスト	参考書
適宜指定する。	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、病院における災害時の看護の役割と機能を指導する。	災害看護学・感染看護学の単位を修得していること。

留意事項	1. .実習日は、地域および病院の防災訓練の日程に応じて決定する。 2. 全員が積極的に参加し、主体的に学びを進めていくこと。 3. 事前学習は必ず行い、実習に臨む。 4. 課題学習及び実習記録は指定された日時、方法で必ず提出すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
113	多職種連携実習	2	90	選択 (多職種必修)	実習	4年前期	○関永信子/木村久枝

科目概要	地域包括支援センターの実習を通して、地域包括ケアシステムにおける、保健・医療・福祉サービスを理解し関係職種との連携や協働の実践方法を学修する
到達目標	1. 地域包括支援センターの機能や役割を説明できる 2. 地域包括支援センターの対象者について説明できる 3. 社会資源の活用や多職種との連携や協働について記録できる 4. 多職種連携の看護の役割について議論できる

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		事前課題、実習記録の状況、実習への取り組み、実習評価、実習指導者の評価など総合的に評価する。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 健康への自己管理に心がけ、円滑な実習ができるよう日常生活を整えるスキルを身につけておく 2. マナーに配慮した言動に心がけができるよう準備しておく 3. 暮らしを支える制度や支援職種・支援機関について事前学習をしておく 4. 身近な暮らしや地域における健康に関する、話題やにユースなど情報を収集しておく
事後学習	1. 実習を振り返り、援助の意味や学んだことや自分の考えを、カンファレンスや発表の場で表現する 2. 実習後は自己の課題と多職種連携実習の学びをどう活かすかを明らかにする 3. 他者理解、自己理解に心がけグループメンバーと学びを共有する

教育内容

内容

1. 松本市地域包括支援センターで2週間の実習を行う
2. 基礎看護技術や訪問時のマナーなど主体的に実践する
3. 地域・在宅看護実習の学びを「多職種連携実習」に活かす

週	曜日	実習内容及び実習方法	担当者
1	月	実習OR　学内　基礎看護技術(VSの測定・訪問時のマナー・コミュニケーション)の演習	担当教員全員
	火	地域包括支援センター実習　施設でORを受ける	担当教員全員
	水	地域包括支援センター実習	担当教員全員
	木	地域包括支援センター実習	担当教員全員
	金	地域包括支援センター実習	担当教員全員
2	月	学内　中間カンファレンス(前半の実習を振り返る)・演習(VSの測定・訪問時のマナー・コミュニケーション)	担当教員全員
	火	地域包括支援センター実習	担当教員全員
	水	地域包括支援センター実習　最終カンファレンス	担当教員全員
	木	学内　発表(多職種連携と看護の役割)	担当教員全員
	金	学内　発表(多職種連携の学びをどう活かすか)	担当教員全員

テキスト	参考書
・関永信子編著『地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践』(翔雲社) ・臺由香編著『ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術』(メディカ出版) ・関永信子著『ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開』(ふくろう出版)	テキスト以外に実習に必要な参考書は実習中に紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	**履修要件**
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の実際や役割および保健医療福祉の連携や協働の実践方法を指導する	地域医療連携システム論、地域包括ケア論の単位を修得していること。

留意事項	多職種連携実習に関する詳細は実習要項を記載する

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	90	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	地域で生活する多様なレベルの個人・家族、集団・組織、地域を対象とした公衆衛生看護活動の実践を通して、対象の理解を深め、対象の健康課題を把握し、それに応じた保健活動の実践能力を身につける。具体的には市町村において家庭訪問、健康相談、健康教育、地域診断等を実施し、社会資源の活用、関係機関との連携、市町村保健師の役割と専門性を修得する。
到達目標	1. 公衆衛生活動における市町村の保健行政機関の役割、機能を理解することができる。 2. 地域診断に必要な情報を収集し、地域の特性を説明することができる。 3. 地域における個人・家族・集団の健康課題を明らかにし、住民自らが解決・改善し健康増進能力を高める保健活動を実施することができる。 4. 集団・組織・地域の健康増進能力を高める保健活動の方法について理解することができる。 5. 市町村の保健活動の意義と保健師の役割や機能について考察することができる。 6. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を修得できる。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. グループで事前に決めた地域診断の対象に関する実習市町村の情報収集と、健康教育の計画を立案する。 2. 保健事業と法的根拠、各制度の復習、その他詳細は実習要領・要綱を参照する。
事後学習	実習を振り返り自己の課題を明らかにする。

教育内容

内容

1. 実習場所:市町村保健センター(10市町村)で実習する。
2. 実習期間:2週間　実習施設において、毎日のデイリーカンファレンス、1週目の金曜に中間カンファレンス、2週目木曜に終了報告会を行う。 いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。2週目金曜は学内で最終報告会を行う。
3. 学生主体で家庭訪問または保健指導を実施し、グループで健康教育と地域診断を実施する。

曜日	実習内容及び実習方法	担当者
月	・オリエンテーション(実習期間全体について) ・市町村保健センターの組織機構、業務内容、財源等について説明を受け情報をまとめ記述する。 ・実習市町村の地域課題、事業計画について説明を受ける。	担当教員全員
1週目 火～金 ・ 2週目 月～木	・保健事業、健康診査、健康教室等に参加し、計画・実施・評価の一連のプロセスを述べる。 ・保健事業に携わっている保健師の役割と多職種の役割を考察する。 ・保健事業と関係機関・職種との連携について考察する。 ・地区組織の育成・支援方法と保健師の役割について述べる。 ・地域診断において実習市町村でしか得られない既存資料から情報を収集する。 ・地区踏査、地域診断の対象である住民や関係者等へのインビューから情報を収集する。 ・収集した情報をモデルを活用し整理しアセスメントする。 ・総合的にアセスメントを行い、地域の特性を捉え、健康課題を抽出する。 ・家庭訪問または保健指導の対象となる個人および家族の情報を収集しアセスメントする。 ・支援に必要な社会資源、関係機関を検討し、支援計画を立案する。 ・学生が主体となって家庭訪問または保健指導を実施する。 ・実施した内容に対し、評価して、今後の支援の方向性を検討する。 ・事前に作成していた健康教育の企画書と媒体を実習市町村の対象と関連づけて評価し作成する。 ・健康教育を実施し、評価する。 ・実習全体の経験と公衆衛生看護管理の各機能を関連づける。 ・虐待などの市町村における健康危機に対する体制と保健師の役割について述べる。 ・実習全体からの経験から、実習での学びを整理し、市町村における保健活動の意義と保健師の役割・機能について考察する。 ・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。	担当教員全員
1週目 金(pm)	・中間カンファレンスを行い、1週目の学びと目標達成度を報告し、意見交換や指導者の助言等により、2週目の実習目標と内容を明確にする	担当教員全員
2週目 木(pm)	・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。	担当教員全員
2週目 金	・市町村における実習経験を基に実習の学びを共有し理解を深めるために、実習グループごとに実習目的、目標に対する学習結果と地域診断についてプレゼンテーションを行う。 ・意見交換をする。	担当教員全員

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	1. 藤内修二他編『標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論』(医学書院) 2. 牧本清子他編『標準保健師講座別巻2　疫学・保健統計学』(医学書院) 3. 日本看護協会監修『新版　保健師業務要覧』(日本看護協会出版協会) 4. 『厚生の指標増刊　国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら市町村における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。	基礎看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論、保健・医療・福祉行政論、健康支援論、疫学、保健統計学Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

留意事項	1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。 2. 記録は所定の期限までに提出し、提出できない理由がある場合は期限までに教員へ連絡すること。 3. 保健師選択コースの者は履修すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	個人・家族、集団・組織、地域を対象に広域的・専門的・技術的に支援する保健所の役割と機能を理解し、保健所保健師の役割と保健師活動の専門性を修得する。具体的には保健所において保健師の実践活動から健康危機管理を含む公衆衛生看護管理の機能と、市町村や関係機関との連携した広域的な支援について修得する。
到達目標	1. 公衆衛生看護活動における保健所の役割、機能を理解することができる。 2. 保健所管内の地域の情報を収集、アセスメントし、地域の特性を説明することができる。 3. 人々の健康増進のための広域的・専門的・技術的な保健活動と保健師の役割を理解することができる。 4. 保健活動における保健所保健師の役割や機能について考察することができる 5. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を習得できる。

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 実習施設管内の地区診断の情報を収集し、アセスメントしておく。 2. 国民衛生の動向や各種資料を用いて保健所の役割・機能をまとめておく。
事後学習	実習を振り返り、保健所保健師の役割・機能を整理する。

教育内容

内容

1. 実習場所:保健所(5保健所)で実習する。
2. 実習期間:1週間　実習施設において、毎日デイリーカンファレンスを行い、木曜に終了報告会を行う。いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。金曜は学内で最終報告会を行う。

曜日	実習内容及び実習方法	担当者
月～木	・オリエンテーションで、保健医療福祉システムにおける保健所の組織機構、各課・係の主な業務と内容を述べる。 ・保健所の役割・機能について考察する。 ・事前学習でグループで作成した保健所管内の地区診断を発表する。 ・発表後、地域診断に必要な不足している地域の情報を既存の資料と保健師や保健所の職員からの聞き取りにより収集する。 ・収集した情報を含めて、総合的にアセスメントし管内の地域特性を発表する。 ・困難な問題を抱える事例や保健所が主に対応する事例について情報を収集し、支援計画を立案する。 ・支援計画を基に、家庭訪問は見学訪問、事例検討は説明することで実施し、評価する。 ・問題解決のために行われている多職種と連携や協働活動(チームケア等)について述べる。 ・個別支援を通じて行われている集団での組織活動や地域ケアシステムについて述べる。 ・管内の市町村と協働した広域的な保健活動について述べる。 ・保健師の活動を通し、保健師の役割とマネジメント機能について考察する。 ・感染症、自然災害等の健康危機管理について、保健所の取り組み、県や市町村との連携について述べる。 ・既存の健康危機の対応から、保健所の体制と保健師の役割を考察する。 ・保健師活動および職位別職務と公衆衛生看護管理の各機能を関連づける。 ・実習全体からの学びを整理し、保健所における保健活動の意義と保健師の役割・機能について考察する。 ・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。	担当教員全員
木(pm)	・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。	担当教員全員
金	・保健所における実習経験を基に実習の学びを共有し理解を深めるために、実習グループごとに実習目的、目標に対する学習結果と地域診断についてプレゼンテーションを行う。 ・意見交換をする。	担当教員全員

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	1. 藤内修二他編『標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論』(医学書院) 2. 牧本清子他編『標準保健師講座別巻2　疫学・保健統計学』(医学書院) 3. 日本看護協会監修『新版　保健師業務要覧』(日本看護協会出版協会) 4. 『厚生の指標増刊　国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら保健所における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。	公衆衛生看護学実習Ⅰの単位を修得していること。

留意事項	1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。 2. 保健師選択コースの者は履修すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	個人・家族、集団・組織、地域の健康課題から事業化し施策化する過程において、企画・立案から評価までのプロセス、地域住民や関係する部署・機関との連携調整、社会資源の活用・開発、各基本方針・基本計画との整合、予算管理を中心とした公衆衛生看護管理について、市町村の保健師活動の実践を通して修得する。
到達目標	1. 政策や地域の健康課題と関連づけ、実施されている各種保健事業や保健医療福祉計画について理解することができる。 2. 地域の健康水準を高めるための保健事業や社会資源の開発、施策化、システム化の過程について理解することことができる。 3. 事業化、施策化、システム化、社会資源の開発における保健師の役割について考察することができる。 4. 地域の個人・家族の健康課題を理解し、継続的な支援方法について理解することができる。 5. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を習得できる。

DPとの対応		成績評価基準		オフィスアワー
○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
○	2. 主体的行動力			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
○	4. 課題発見能力と課題解決力			
○	5. 看護の知識と看護実践力			
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 実習施設の各種の保健医療福祉計画や保健事業、施策、政策についての情報を収集し整理しておく。 2. 継続的な支援が必要と考えられる対象者の健康課題と社会資源について情報を収集し整理しておく。
事後学習	実習を振り返り、市町村保健師の役割・機能を整理する。

教育内容

内容

1. 実習場所:市町村保健センター(10市町村)で実習する。公衆衛生看護学実習Ⅰ(技術・実践)と同じ実習場所で実習する。
2. 実習期間:1週間　実習施設において、毎日デイリーカンファレンスを行い、木曜に終了報告会を行う。いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。金曜は学内で最終報告会を行う。

曜日	実習内容及び実習方法	担当者
月～木	・公衆衛生看護学実習Ⅰでの対象を限定した地域診断で抽出された健康課題を踏まえ、指導者の助言をもとに実習市町村の健康課題を述べる。 ・各種保健医療福祉計画の目的・意義を述べる。 ・政策や地域の健康課題と各種保健事業や保健医療福祉計画を関連づける。 ・事業化の実際とその過程について述べる。 ・施策化の実際とその過程について述べる。 ・社会資源を活用・開発・管理する実際とその過程について述べる。 ・ケアシステムを構築する実際とその過程について述べる。 ・事業化、施策化における公衆衛生看護管理の機能について述べる。 ・事業化、施策化、システム化、社会資源の開発における保健師の役割について考察する。 ・継続的な支援が必要な個人・家族の健康課題に対し、支援方法の展開と関係機関・職種との連携について述べる。 ・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。	担当教員全員
木(pm)	・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。	担当教員全員
金	・市町村における実習経験を基に実習の学びを共有し理解を深めるために、実習グループごとに実習目的、目標に対する学習結果と地域診断についてプレゼンテーションを行う。 ・意見交換をする。	担当教員全員

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	1. 藤内修二他編『標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論』(医学書院) 2. 牧本清子他編『標準保健師講座別巻2　疫学・保健統計学』(医学書院) 3. 日本看護協会監修『新版　保健師業務要覧』(日本看護協会出版協会) 4. 『厚生の指標増刊　国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら市町村における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

留意事項	1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。 2. 保健師選択コースの者は履修すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年後期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美

科目概要	事業場における作業環境管理、作業管理、健康管理の実際を通し、産業看護職の活動と事業場の組織構造の理解を深め、職場巡視、健康相談等を展開することができる。 学校における養護教諭の保健教育、保健管理の実際を通して、養護教諭の活動と役割、学校の組織構造や関係者・機関との連携を理解し、健康教育、児童・生徒への対応方法を身につけることができる。
到達目標	1. 事業場における労働安全衛生管理を理解することができる。 2. 事業場で働く人々の特徴と健康状態をアセスメントし、健康課題に対する支援の方法を理解することができる。 3. 事業場で働く人々の健康保持増進能力を高めるための看護活動のプロセスを理解することができる。 4. 児童・生徒の学校生活および心身の健康状態について理解する。 5. 学校における保健活動の概要と養護教諭の役割を理解する。 6. 専門職として主体的に学び実践の質的向上を図る態度を修得する。

DPとの対応			成績評価基準		オフィスアワー
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 教科書の該当箇所、講義で配布した資料を熟読しておく。 2. 実習施設の概要を調べておく。
事後学習	実習を振り返り自己の課題を明らかにする。

教育内容

内容

A産業保健活動実習
1. 実習場所:企業の健康管理部門
2. 実習内容:
①企業の健康管理部門に出向き、保健師、衛生管理者、産業医等から活動の実際を学ぶ。
②施設内の見学等により労働内容や労働環境、労働条件と健康課題の関連について学ぶ。
③健康教育の実施
3. 実習期間:1週間
B学校保健活動実習
1. 実習場所:小学校、養護学校
2. 実習内容:
①養護教諭から活動の実際を学ぶ。
②保健室運営の参加・見学
③保健教育活動参加見学④行事やクラス運営に参加、見学
⑤健康教育の実施
3. 実習期間:1週間

曜日	実習内容及び実習方法	担当者
月～木	A:産業保健活動実習 場所:企業 実習項目:オリエンテーション、職場巡視、安全衛生委員会、保健指導など、デイリーカンファレンス B:学校保健活動実習 場所:小学校または養護学校 実習項目:オリエンテーション、校内巡視、保健室運営の参加・見学、保健教育活動参加・見学、クラス運営参加・見学など、デイリーカンファレンス	担当教員全員
金	場所:学内 (午前)記録、報告会準備 (午後)報告会、レポート作成	担当教員全員

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版　医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術　Standard textbook」第5版　医学書院 3. 松田正巳他「標準保健師講座〈3〉対象別公衆衛生看護活動Standard textbook」第4版　医学書院	公衆衛生看護学関連の科目で使用した資料等、他授業時に適宜紹介する

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、産業保健と学校保健の役割について指導する。	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得していること

留意事項	1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。 2. 保健師選択コースの者は履修すること。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
118	統合実習	2	90	必修	実習	4年前期	小林たつ子/今井栄子/金子潔子/○百瀬ちどり/原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/小林由美/関永信子/横山芳子/山下恵子/伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いづみ/塩澤綾乃/奥原香織/宮坂光長/木村久枝/倉科恵里/五十嵐佳寿美牛山陽介

科目概要	4年間の学習を統合し、療養生活を送る人々の多様なニーズに対し、安全で効率的な看護を提供するために必要な看護サービスマネジメントの実際を学ぶ。また、医療施設において複数の患者を受け持ち限定された期間の中で看護を実践する方法を修得する。
到達目標	1. 複数の患者を受け持ち、看護師と共に優先順位をつけ看護を実践できる。 2. 看護師と共に行動し、リーダー及びメンバーの役割について知る。 3. 一勤務帯を通して看護を実践し、そこでの看護師の役割について説明できる。 4. 看護管理や病棟管理の実際を知る。 5. チームの一員として協働し、倫理的視点に根差した看護を実践する。 6. 専門職者として守るべき看護倫理について理解し、対象の権利と保護を踏まえた援助ができる。

DPとの対応			成績評価基準	実習評価表に準ずる。	オフィスアワー
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
	○	2. 主体的行動力			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			
	○	5. 看護の知識と看護実践力			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			

事前学習	1. 看護マネジメント論の学習内容の復習。 2. 「看護者の倫理綱領」の確認、基本的看護技術の復誓と確認。 3. 既習の講義・演習・実習から、考えられる学習課題や専門性を更に深めたいこと等を明らかにしておくこと。
事後学習	提示された事後レポートの課題と記録一式を締め切り時間までに提出する。

教育内容

内容

1. 学生の持っている課題など確認し、実習領域や場所、施設等できるだけ学生の希望に沿うことを原則とする。
2. 病棟の看護チームの一員として活動することを前提にしながら、看護を実践する。
3. カンファレンスは毎日学生主導で行う。臨床指導者や担当教員等にも必ず連絡し参加を依頼する。

週	曜日	実習内容及び実習方法	担当者
1	月	オリエンテーション(施設管理者、病棟管理者より特性を踏まえ講義を受ける) ・午前:看護部長や教育師長より施設特性を踏まえた看護管理の実際について ・午後:病棟師長や副師長より病棟特性に応じた病棟管理・患者管理について	担当教員全員
1	火	・24時間看護展開をするために、どのように工夫されているかの説明を受ける。 ・実際の看護チームの個々の役割について説明を受ける。 ・メンバー・リーダーの役割と業務展開について説明を受けメンバーを体験する。	担当教員全員
1	水	・複数患者を受け持ち、多重課題に直面した際の意思決定を考えるための受け持ち患者あるいは多床室を決定する。 ・情報収集し、患者個々の治療過程の中で多重課題になるかどうかを検討する。 ・その多重課題の解決を、根拠をもって考え、実践可能か検討する。 ・臨床現場の中で実践させてもらう。 ・実施後適切であったか振り返りを行い、多重課題の対応の原則を理解する。	担当教員全員
1	木		
1	金		
2	月		
2	火	・リーダーに付き、リーダー業務の役割と業務展開ついて説明を受け体験する。	担当教員全員
2	水	・特殊な勤務の仕方やワークライフバランスについて説明を受けシャドーイングで勤務の仕方を知る。	担当教員全員
2	木	・終了カンファレンスを行う。 ・プレゼンテーションの準備を行う。	担当教員全員
2	金	・統合実習としての体験から学びえたことについてテーマをつけ、最後のまとめとなる意味を込めたプレゼンテーションを行う。 ・報告の場所、招待の連絡、資料等、また司会・進行についても学生主体で行う。	担当教員全員

テキスト	参考書
適宜指定する	授業時に適宜紹介する。

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院等での看護師経験を持つ教員が、安全で効率的な看護を提供するために必要な看護サービスマネジメントを指導する。	地域・在宅看護学実習、成人急性期看護学実習、成人慢性期看護学実習、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅱ、母性看護学実習、精神看護学実習の単位を修得していること。

留意事項	1. 全員が積極的に参加し、主体的に学びを進めていくこと。 2. 事前学習は必ず行い、実習に臨む。 3. 課題学習及び実習記録は指定された日時、方法で必ず提出すること。